取扱説明書

よくお読みになってご使用ください。
取扱説明書は車の中に保管しましょう。

LAND CRUISER

TOYOTA

イラスト目次	**イラスト**から検索	
安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと** （主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置）	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 （主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ）	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 （主な項目：キー、ドア、シート）	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス （主な項目：エンジン始動のしかた、給油のしかた）	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など （主な項目：エアコン・収納装備の使い方）	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 （主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換）	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 （主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処）	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 （主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧）	8
さくいん	**症状**から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと 5
本書の見方 9
検索のしかた 10
イラスト目次 11

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 20
安全なドライブのために 21
シートベルト 23
SRS エアバッグ 25
排気ガスに対する注意 28

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 30
チャイルドシート 31

1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 43

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯 46
計器類 49
マルチインフォメーションディスプレイ 52

3 運転する前に

3-1. キー
キー 58

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア（フロントドア・リヤドア） 60
バックドア 62

3-3. シートの調整
フロントシート 65
リヤシート 66
ヘッドレスト 69

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 71
インナーミラー 72
ドアミラー 73
補助確認装置 74

3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ 75
リヤクォーターガラス 77

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 80
荷物を積むときの注意 86
ステップバンパー 87

4-2. 運転のしかた
エンジン（イグニッション）スイッチ 89
オートマチックトランスミッション 91
方向指示レバー 94
パーキングブレーキ 95

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ 97
AHB（オートマチックハイビーム） 100
フロントフォグランプスイッチ 102
ワイパー＆ウォッシャー（フロント） 103
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ） 104

4-4. 給油のしかた
給油口の開け方 106

4-5. 運転支援装置について
Toyota Safety Sense 108
PCS（プリクラッシュセーフティ） 113
LDA（レーンディパーチャーアラート） 122

クルーズコントロール 127
バックモニター 130
RSA（ロードサインアシスト）.. 136
先行車発進告知機能 139
4WD システム 141
デフロック 145
ダウンヒルアシストコントロールシステム 146
排出ガス浄化装置（DPF）..... 148
運転を補助する装置 152
アクセサリコネクタ 156
アンテナ 157

4-6. 運転のアドバイス
寒冷時の運転 158

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方
エアコン 162
リヤヒーター 166

5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 167

5-3. 収納装備
収納装備一覧 169
ラゲージルーム内装備 173

5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 174

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ 178
内装の手入れ 181

6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 183
AdBlue® （尿素水）の補充 185
ウォッシャー液の補充 188
タイヤについて 189
タイヤ空気圧について 191
エアコンフィルターの清掃 192
ワイヤレスリモコンの電池交換 194
ヒューズの点検・交換 196
電球（バルブ）の交換 198

7 万一の場合には

7-1. まず初めに
故障したときは 204
非常点滅灯（ハザードランプ）... 205
発炎筒 205
車両を緊急停止するには 206
水没・冠水したときは 207
車中泊が必要なときは 208

7-2. 緊急時の対処法
けん引について 209
警告灯がついたときは 213
警告メッセージが表示されたときは 218
パンクしたときは 222
エンジンがかからないときは 230
キーをなくしたときは 231
バッテリーがあがったときは 231
オーバーヒートしたときは 234
スタックしたときは 237

8 車両情報

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 240

8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能 245

8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目 248

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
..... 250
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 252
アルファベット順さくいん..... 253
五十音順さくいん..... 254

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

違法改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をするおそれがあり危険です。

- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。

・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.7 も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

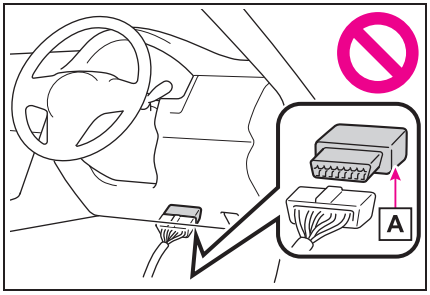
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保障いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターA などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両の制御データ・操作データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- エンジン回転数
- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- 車速
- 運転支援システムの作動状況
- カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合
- 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。
注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

● EFI コンピュータ
● Toyota Safety Sense
● ABS（アンチロックブレーキシステム）
● SRS エアバッグ

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

アクセサリーパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。ご購入いただきましたアクセサ

リーパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなうCO2排出量の低減が見込まれます。持続可能な社会を構築するためにトヨタはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリーパーツ取扱説明書掲載サイト：
お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、URL より閲覧してください。
URL:https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html

なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、トヨタ販売店にご相談ください。

QR コードについて

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

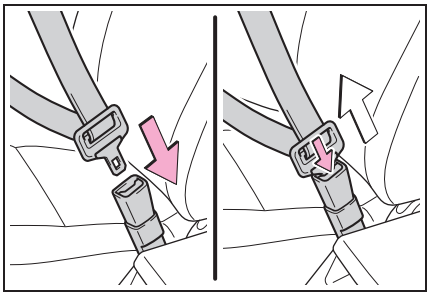
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

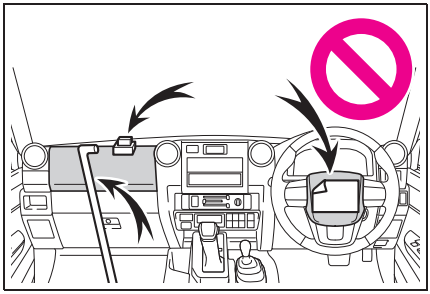
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3…	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



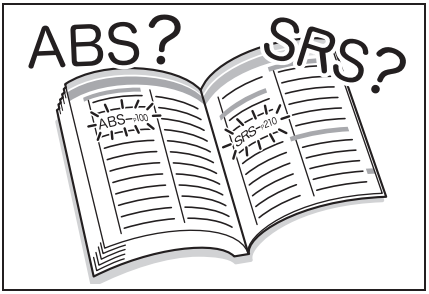
記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

■ 名称から探す

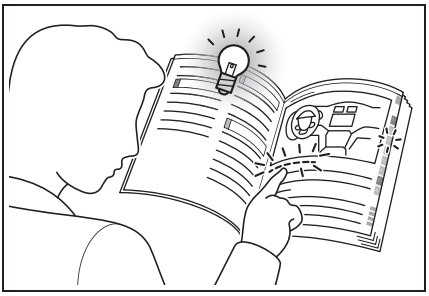
●五十音順さくいん：→P.254

●アルファベット順さくいん：→P.253



■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次：→P.11



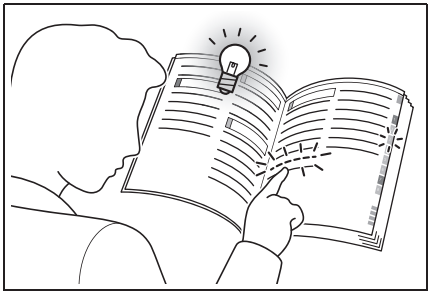
■ 症状や音から探す

●こんなときは（症状別さくいん）：→P.250

●車から音が鳴ったときは（音さくいん）：→P.252

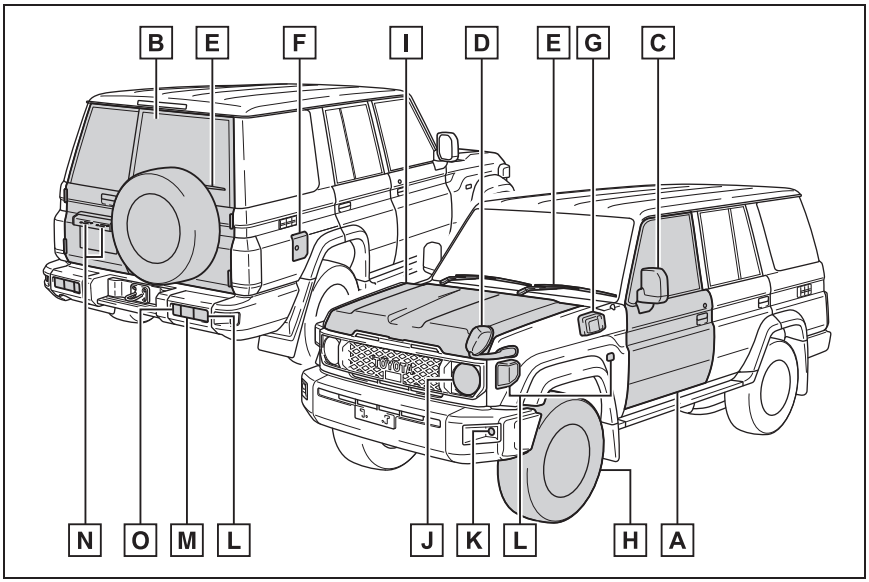
■ タイトルから探す

●目次：→P.2



イラスト目次

■ 外観



A ドア P.60

施錠／解錠 P.60, 61

ドアガラスの開閉 P.75

B バックドア P.62

施錠／解錠 P.63

開け方／閉め方 P.63

C ドアミラー P.73

鏡面の角度調整 P.73

D 補助確認装置 P.74

E ワイパー・リヤワイパー P.103, 104

冬季の注意 P.158

F 給油口 P.106

給油方法 P.106

燃料の種類・燃料タンク容量 P.240

G AdBlue® 補給口 P.187

AdBlue® 補充方法 P.187

H タイヤ P.189

サイズ・空気圧 P.243

冬用タイヤ・タイヤチェーン P.158

点検・ローテーション P.189

パンク時の対処 P.222

I ボンネット P.183

開け方 P.183

エンジンオイル P.240

オーバーヒート時の対処 P.234

走行に関わる外装のランプバルブ

（交換要領：P.198, ワット数：P.244）

J ヘッドランプ・車幅灯・LED デイタイムランニングランプ P.97

K フロントフォグランプ P.102

L 方向指示灯 P.94

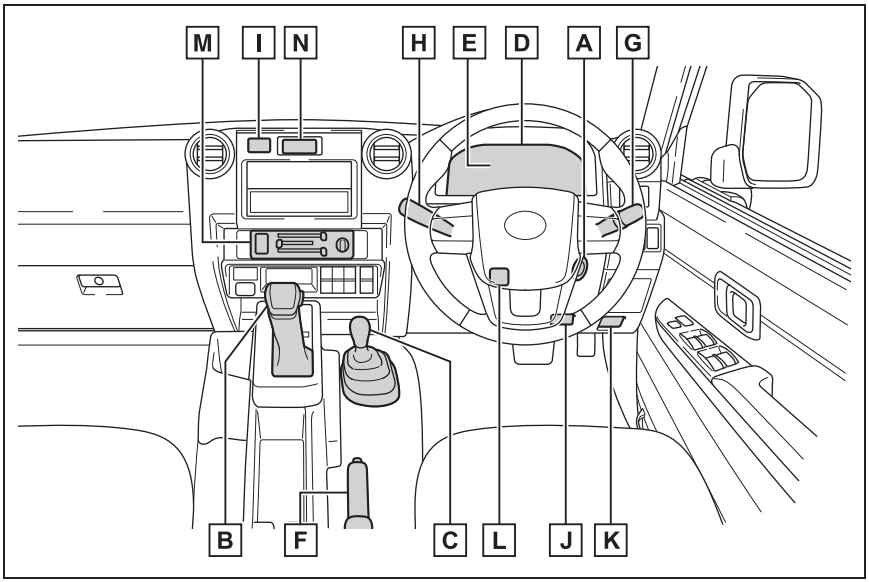
M 制動灯 / 尾灯 P.94, 97

N 番号灯 P.97, 102

O 後退灯

シフトポジションを R にする P.91

■ インストルメントパネル



A エンジンスイッチ P.89

エンジンの始動・位置の切りかえ P.89

エンジンの緊急停止 P.206

エンジンが始動できないときの対処 P.230

B シフトレバー P.91

シフトポジションの切りかえ P.91

けん引時の注意 P.209

シフトレバーが動かないときの対処 P.92

C トランスファーレバー P.141

D メーター P.49

見方・明るさの調整 P.49, 51

警告灯／表示灯 P.46

警告灯点灯時の対処 P.213

E マルチインフォメーションディスプレイ P.52

表示内容 P.52

警告メッセージ表示時の対処 P.218

F パーキングブレーキ P.95

かける・解除する P.95

冬季の注意 P.158

警告ブザー P.95

G 方向指示レバー P.94

ランプスイッチ P.97

ヘッドランプ・車幅灯・尾灯 P.97

フロントフォグランプ P.102

H ワイパー&ウォッシャースイッチ P.103, 104

使い方 P.103, 104

ウォッシャー液の補充 P.188

I 非常点滅灯スイッチ P.205

J 給油口オープナー P.107

K ボンネット解除レバー P.183

L ハンドル位置調整レバー P.71

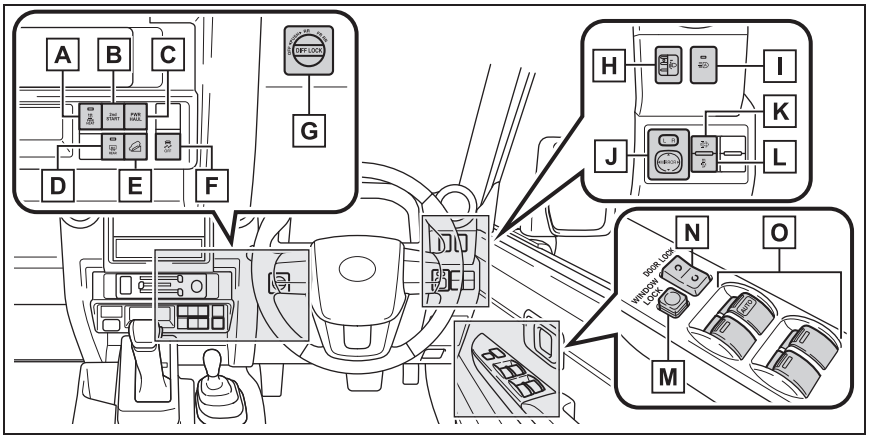
M エアコン P.162

操作方法 P.162

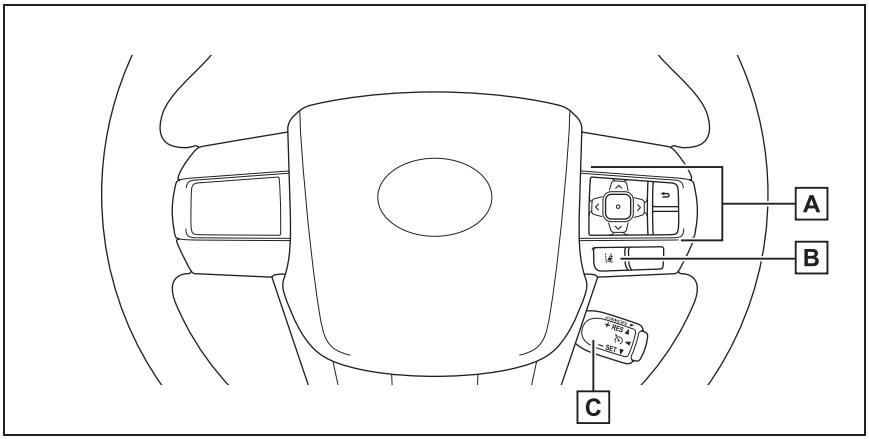
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） P.163

N 時計 P.174

■ スイッチ類

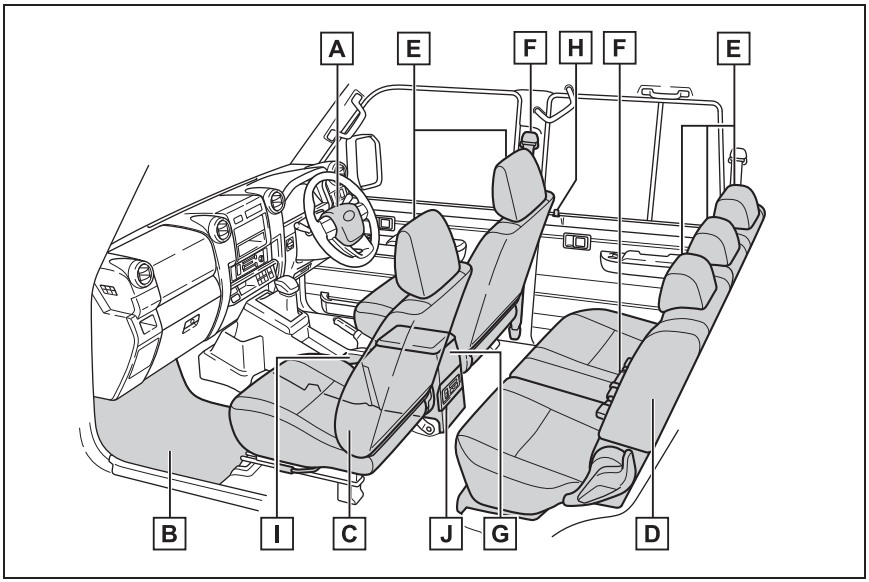


A パワーヒータースイッチ P.164
B 2nd スタートスイッチ P.93
C PWR/HAUL（パワーホール）スイッチ P.93
D リヤウインドウデフォッガースイッチ P.163
E DAC（ダウンヒルアシストコントロール）スイッチ P.146
F VSC OFF スイッチ P.152
G デフロックスイッチ P.145
H 手動光軸調整ダイヤル P.99
I オートマチックハイビームスイッチ P.97
J ドアミラースイッチ P.73
K 排出ガス浄化スイッチ P.148
L アイドルアップスイッチ P.163
M ウインドウロックスイッチ P.75
N ドアロックスイッチ P.61
O パワーウインドウスイッチ P.75



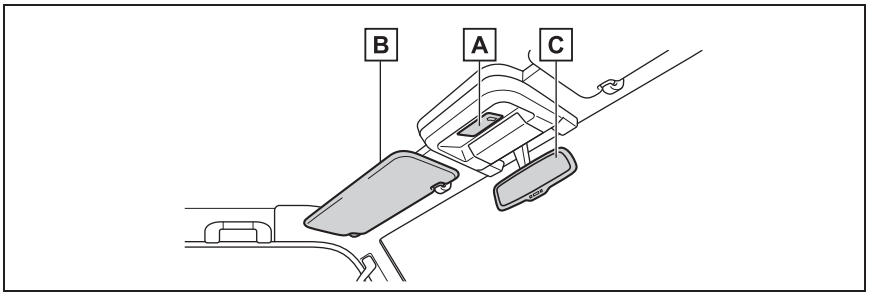
A メーター操作スイッチ P.52
B LDA（レーンデパーチャーアラート）スイッチ P.122
C クルーズコントロールスイッチ P.127

■ 室内



A SRS エアバッグ P.25
B フロアマット P.20
C フロントシート P.65
D リヤシート P.66
E ヘッドレスト P.69
F シートベルト P.23
G コンソールボックス P.170
H ロックボタン P.61
I ボトルホルダー P.172
J リヤヒーター P.166

■ 天井



A フロントルームランプ / リヤルームランプランプ※2 ..... P.167

B サンバイザー※1 ..... P.174

C インナーミラー P.72

※1やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.32）

※2図はフロントですが、リヤにも装着されています。

安全・安心のために
～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 20
安全なドライブのために 21
シートベルト 23
SRS エアバッグ 25
排気ガスに対する注意 28

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 30
チャイルドシート 31

1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 43

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

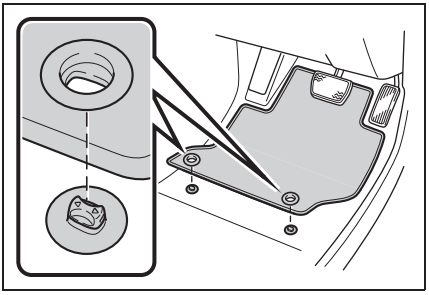
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

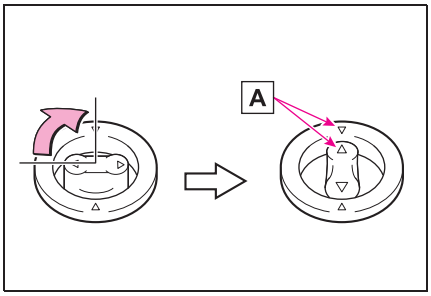
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△マークA を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

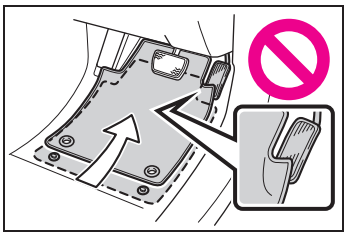
■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠ 警告

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

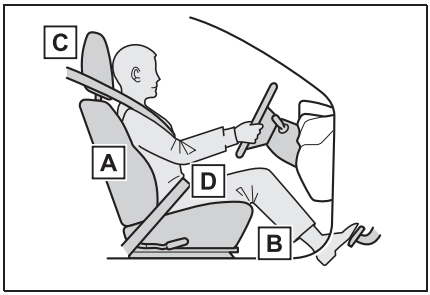


●エンジン停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.65）

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.65）

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.69）

D シートベルトを正しく着用する（→P.24）

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
  お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
  周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→P.24）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→P.31）

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→P.72, 73）

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

⚠警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

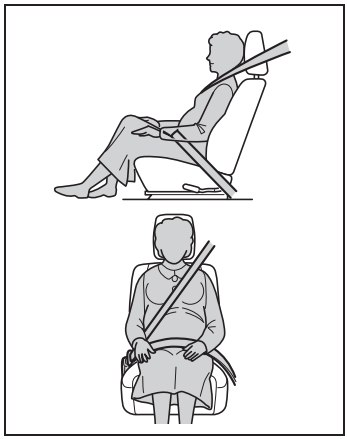
■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください（→P.24）通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→P.30

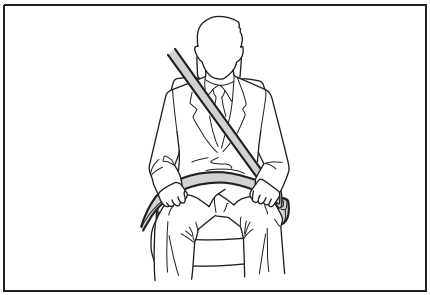
■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

⚠ 警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。

正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

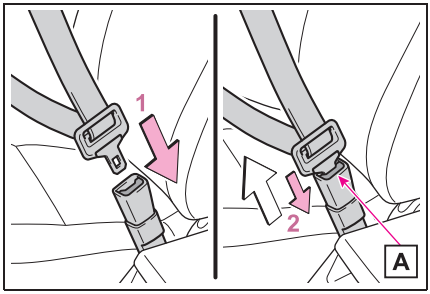
知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.31)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P.23)

着け方・はずし方



1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

2 ベルトを解除するには、解除ボタンA を押す

知識

■シートベルトロックの解除方法

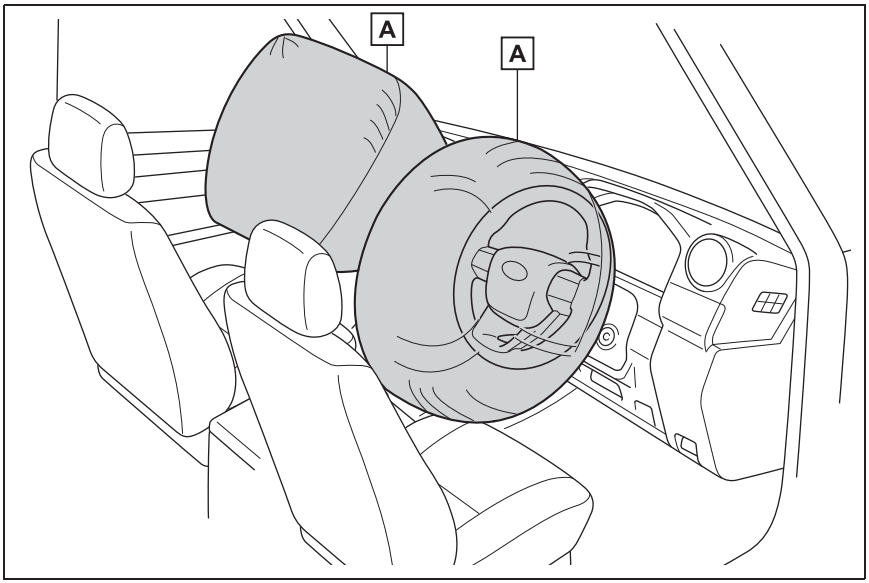
急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



A フロント SRS エアバッグ

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃に

よって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

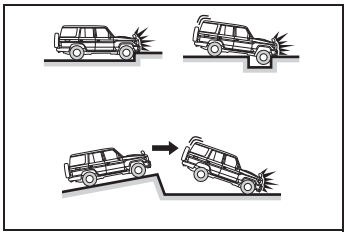
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



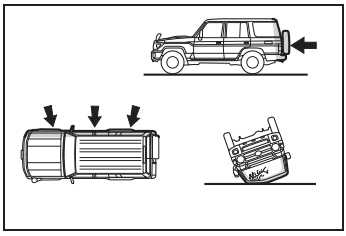
■SRS エアバッグが作動しないとき

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転、または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

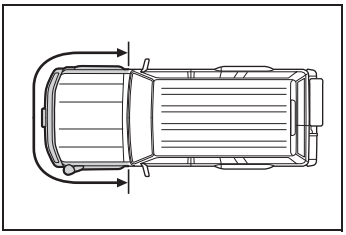


■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

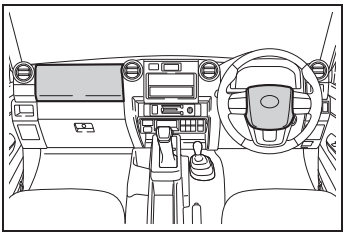
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



⚠警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

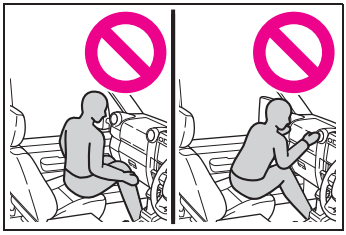
●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

⚠警告

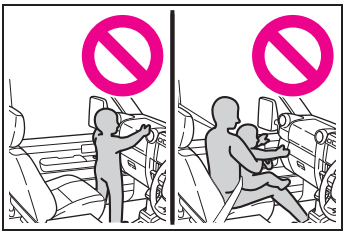
●助手席SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員がSRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけSRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤシートに乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P.30)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

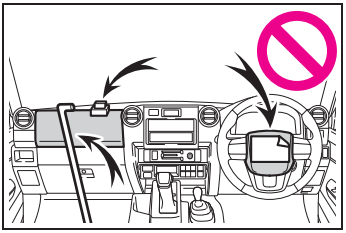


●お子さまを助手席SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

⚠警告

- SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパーの修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンが作動したままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

⚠ 警告

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
(P.149 の注意も併せて参照してください)

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
  シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。
  （→P.31）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P.61）・ウインドウロックスイッチ（→P.75）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠警告

■お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→P.31）

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。取り付け方法は、商品に付属の取り扱い説明書に必ず従ってください。

目次

知っておいていただきたいこと：P.31

チャイルドシートを使用するときは：P.32

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.34

チャイルドシートの取り付け方法：P.37
- シートベルトで固定する：P.38
- ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.40
- トップテザーアンカレッジを使用する：P.41

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→P.34）

⚠警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

⚠警告

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.34）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

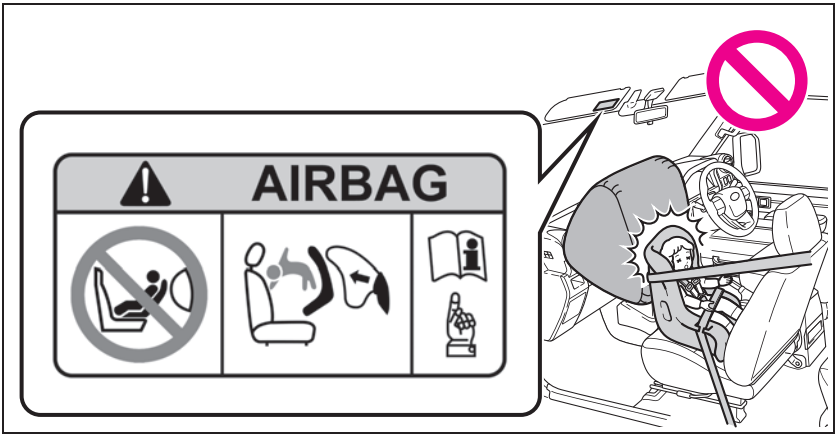
⚠警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

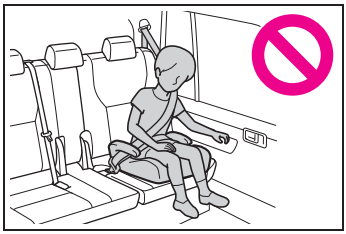
- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

⚠警告



⚠警告

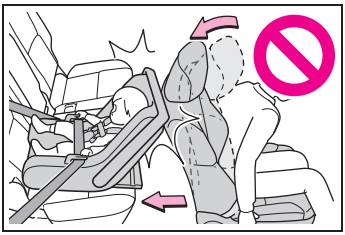
●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・サイドピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。



●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

●リヤシートの中央席にチャイルドシートを取り付けるときは、リヤシートの位置と背もたれの角度をあわせてください。リヤシートの位置や背もたれも角度が違うとチャイルドシートを正しく取り付けられず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.35）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

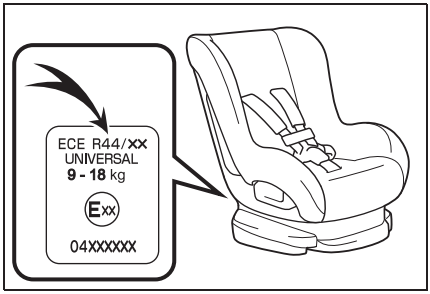
■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

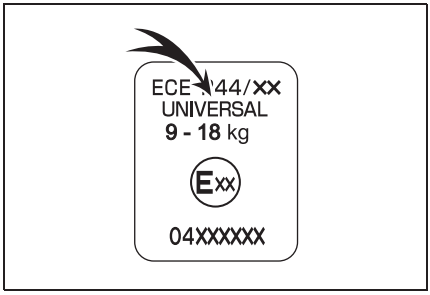
UN（ECE）R44 認可マーク ※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。

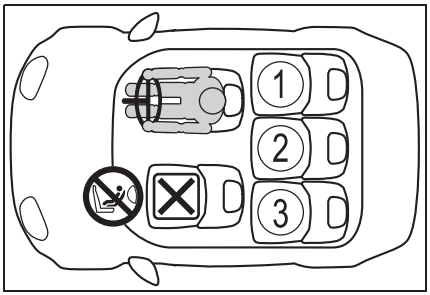
- ユニバーサル「universal（汎用）」
- セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- リストリクティッド「restricted（限定）」
- ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



※1 UN（ECE）R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※1, 2	U
② ※1, 2	U
③ ※1, 2	U

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

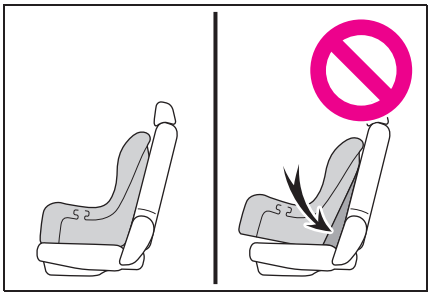
ISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

チャイルドシートの取り付けに適していません。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 ／ L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	R1	×	R1
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート

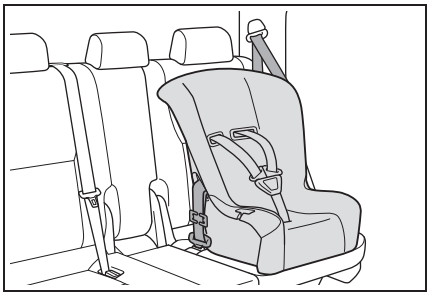
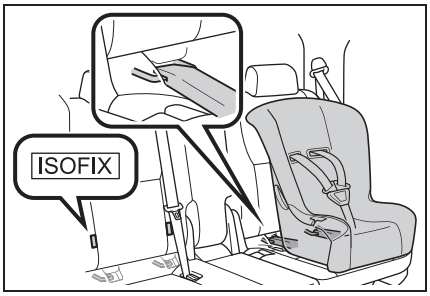
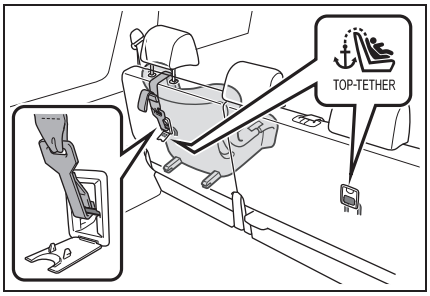
治具	使用の向き・形状・大きさ
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートの取り付けについては、チャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.38
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.40
テザーベルトを固定する		P.41

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.34, 35）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.32）

2 背もたれを可能な限り起こす

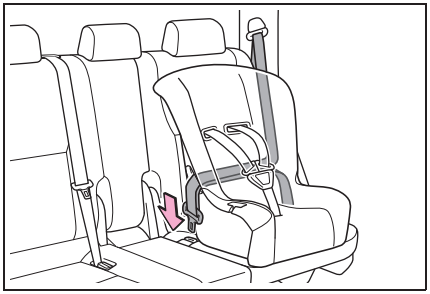
前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：背もたれとチャイルドシートのあ

いだにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.69）

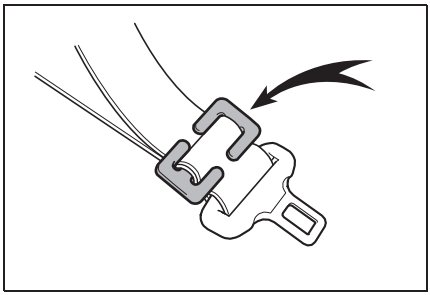
4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.40）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

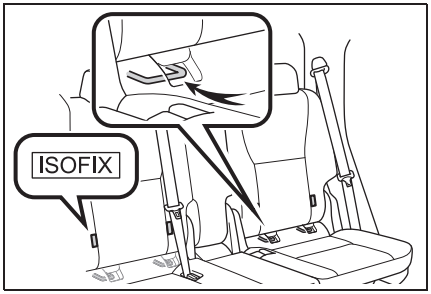
⚠ 警告

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIXロアアンカレッジについて

この車はリヤシート外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています）



■ ISOFIXロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.34, 35）

1 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：背もたれとチャイルドシートのあいだにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.69）

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってください。

4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.40）

⚠警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

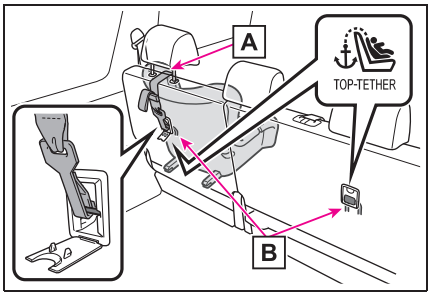
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤシート外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A テザーベルト

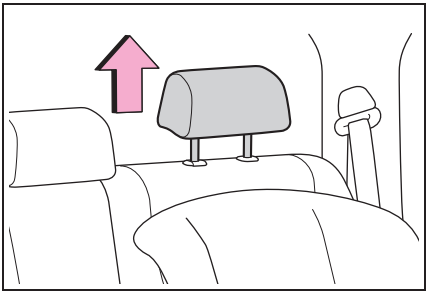
B トップテザーアンカレッジ

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

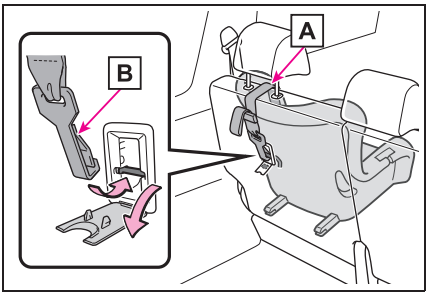
1 ヘッドレストを上げる

ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。（→P.69）



2 フタを開けて、トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.40)
ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A テザーベルト

B フック

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外にかけないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

注意

■トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

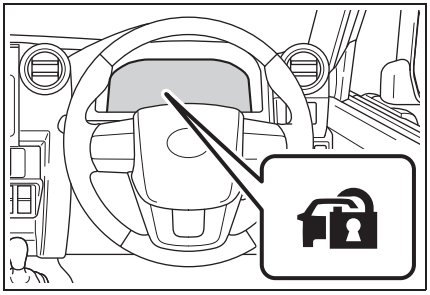
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには

キーをエンジンスイッチから抜くと、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたマスターキー、またはサブキーをエンジンスイッチに挿し込むとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

走行に関する情報表示 2

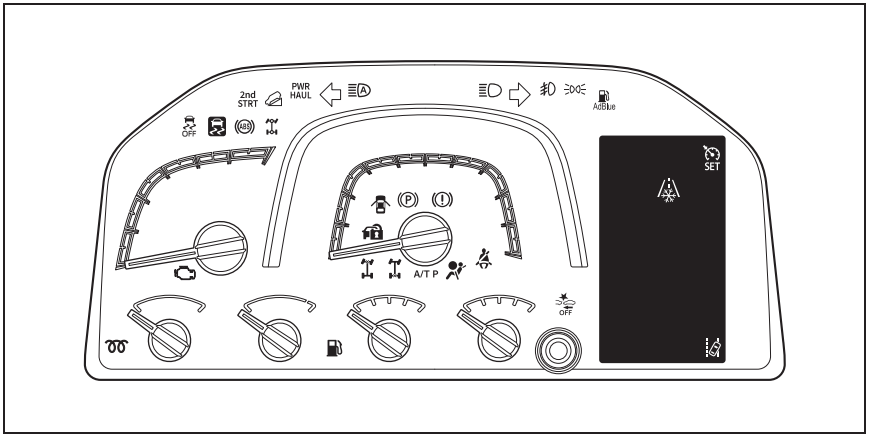
2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯 46
計器類 49
マルチインフォメーションディスプレイ 52

警告灯／表示灯

メーターの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯



実際の表示内容は、イラストと異なる場合があります。

警告灯一覧

システム異常などを警告します。

ブレーキ警告灯 ※1
（→P.213）

充電警告灯 ※2
（→P.213）

油圧警告灯 ※2
（→P.213）

高水温警告灯 ※2
（→P.214）

エンジン警告灯 ※1
（→P.214）

SRS エアバッグ警告灯 ※1（→P.214）

ABS &ブレーキアシスト警告灯 ※1（→P.214）

ペダル誤操作警告灯 ※2
（→P.217）

（点滅または点灯）
PCS 警告灯 ※1
（→P.215）

（橙色）
LDA 表示灯 ※2
（→P.215）

スリップ表示灯 ※1
（→P.215）

（点滅または点灯）
フロントデフロック作動表示灯（→P.215）

（点滅または点灯）
リヤデフロック作動表示灯（→P.216）

パーキングブレーキ表示灯（→P.216）

燃料残量警告灯（→P.216）

AdBlue® 残量警告灯（→P.216）

運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（→P.216）

半ドア警告灯（→P.217）

オートマチックトランスミッションパーキング警告灯（→P.217）

※1作動確認のためにエンジンスイッチをONにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

⚠警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチをONにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P.94）

尾灯表示灯（→P.97）

ハイビーム表示灯（→P.99, 101）

オートマチックハイビーム表示灯（→P.100）

フロントフォグランプ表示灯（→P.102）

PCS 警告灯 ※1, 2（→P.115）

LDA 表示灯 ※3（→P.122）

クルーズコントロール表示灯 ※3（→P.127）

クルーズコントロールセット表示灯 ※3（→P.127）

予熱表示灯 ※1（→P.89）

（点滅）
スリップ表示灯 ※1（→P.152）

VSC OFF 表示灯 ※1, 2（→P.153）

ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯 ※1（→P.146）

4WD 作動表示灯（→P.141）

フロントデフロック作動表示灯（→P.145）

リヤデフロック作動表示灯（→P.145）

パーキングブレーキ表示灯（→P.95）

セキュリティ表示灯（→P.43）

低温表示灯 ※4（→P.50）

2nd STRT 2nd STRT 表示灯（→P.93）

PWR HAUL PWR ／ HAUL 表示灯（→P.93）

※1作動確認のためにエンジンスイッチをONにすると点灯し、数秒後またはエンジンを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2システムがOFFのときに点灯します。

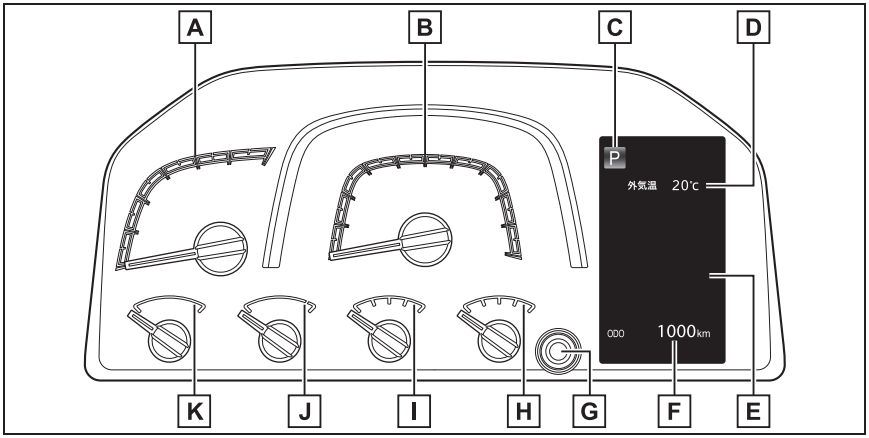
※3マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※4外気温が約3℃以下のとき、10回点滅後に点灯します。

計器類

メーターの表示について

■ 計器類の位置



A タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

B スピードメーター

車両の走行速度を示します。

C シフトポジション・ギヤ段表示

選択されているシフトポジションまたはギヤ段を表示します。(→P.91)

D 外気温 (→P.50)

E マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関するさまざまな情報を表示します。(→P.52)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.218)

F オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整 (→P.51)

オドメーター：
走行した総距離を表示します。

トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A ／トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

メーター照度調整：
メーター照度が調整できます。

G 表示切りかえボタン (→P.51)

H 油圧計

エンジンオイルの圧力を示します。

I 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 7.2L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

J 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

K 電圧計

バッテリーの充電状態を示します。

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが “ON” のとき

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる
2 表示切りかえボタン（→P.51）を押してオドメーター／トリップメーターの表示をオドメーター表示に切りかえる
3 エンジンスイッチを OFF にする
4 表示切りかえボタンを押したまま、エンジンスイッチを ON にする
5 そのまま約 5 秒間、表示切りかえボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温度表示について

●外気温度を− 40 ℃～ 50 ℃のあいだで表示します。

●外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温表示の横に が点滅し、そのあと点灯します。

●次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・ 停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
・ 外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

→P.52

⚠ 警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときや、マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.234）

■電圧計について

エンジン回転中に電圧計が19V以上、または9V以下を示すときは、バッテリーや充電系統の異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。

■油圧計について

エンジン回転中に油圧計の値が低下したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンオイル量を点検してください。点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

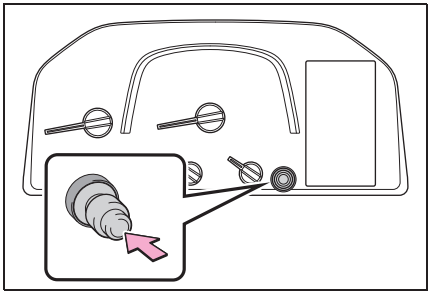
エンジンオイルが減っていないのに油圧が低下する、またはオイルを補給しても油圧が上昇しないときは、潤滑系統の異常が考えられるため、トヨタ販売店にご連絡ください。

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示の切りかえ

表示を切りかえるには、表示切りかえボタンを押します。

ボタンを押すごとに表示される項目が切りかわります。



■ 表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーターA／トリップメーターB

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップA・トリップBの2種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に表示切りか

えボタンを長押しします。

● メーターの照度調整

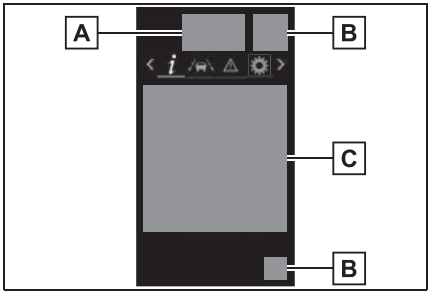
メーターの明るさを表示します。

明るさを調整するには、メーター照度調整表示中に表示切りかえボタンを長押しします。

マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示



A RSA（ロードサインアシスト）表示

RSA（ロードサインアシスト）が作動しているとき、認識した標識を表示します。（→P.136）

B 表示灯（→P.46）

C コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

■ メニューアイコン

メーター操作スイッチの〈または〉を押すとメニューアイコンが表示されます。

ドライブインフォメーション（→P.53）

車両情報表示（→P.54）

走行支援機能情報表示（→P.54）

警告メッセージ（→P.54）

設定（→P.54）

知識

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

⚠警告

■運転中の使用について

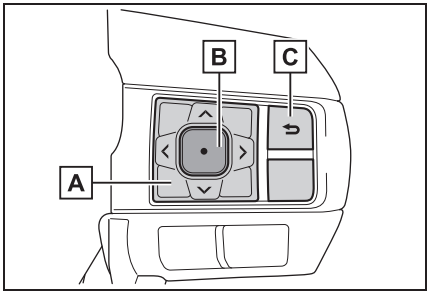
- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示について

→P.50

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A ＜／＞：メニューの切りかえ
∧／∨：表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動

B 短押し：決定
長押し：リセット／詳細項目表示

C ひとつ前の画面にもどる

ドライブインフォメーション表示について

燃費に関するさまざまな情報を表示します。

■ 瞬間燃費／リセット間平均燃費

A 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

B 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。※1,2

※1表示される平均燃費は、参考として利用してください。

※2リセットするには、平均燃費の表示中にメーター操作スイッチの⊙を押し続けます。

■ 航続可能距離／始動後走行時間

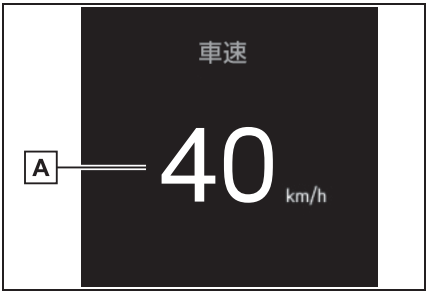
A 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。（→P.50）

B 始動後走行時間

エンジン始動後の経過時間を表示します。

■ 車速表示



A 車速表示

現在の車速を表示します。

■ ブランク表示（画面 OFF）

ドライブインフォメーションが非表示になります。

知識

■航続可能距離について

●運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

●燃料給油量が少量（約 7.2L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→P.50）

● “給油してください” と表示されたときは、燃料残量が少ないため、航続可能距離の計算ができません。その場合は、すみやかに給油してください。

車両情報表示画面について

■ AdBlue® 残量表示

AdBlue® 残量を表示します。（→P.185）

走行支援機能情報表示画面について

■ 走行支援システム連携表示

次のシステムの作動状況を表示します。

● LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.122）

● RSA （ロードサインアシスト）（→P.136）

警告メッセージ表示画面について

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→P.218）

設定画面について

■ 変更できる項目（メーター表示）

次の設定を変更することができます。

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費単位を選択することができます。

● カラー

マルチインフォメーションディスプレイ内の色などを選択することができます。

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

■ 変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）

→P.245

知識

■設定画面の操作について

- 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。
- 車両に装着されていない機能の設定項目は表示されません。
- 設定変更の対象となる機能が OFF になっているときは、関連する設定項目も選択不可になります。

⚠警告

■ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

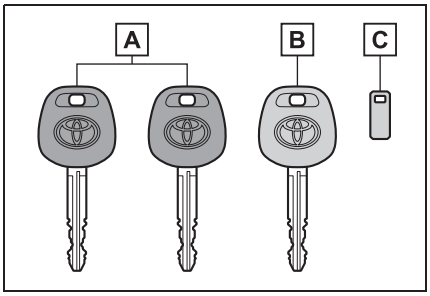
3-1. キー
キー 58
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア（フロントドア・リヤドア） 60
バックドア 62
3-3. シートの調整
フロントシート 65
リヤシート 66
ヘッドレスト 69
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 71
インナーミラー 72
ドアミラー 73
補助確認装置 74
3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ 75
リヤクォーターガラス 77

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。

キーには信号発信機が内蔵されています。



A マスターキー (黒色２枚)

B サブキー（灰色）

C キーナンバープレート

知識

■駐車場などでキーを預けるとき

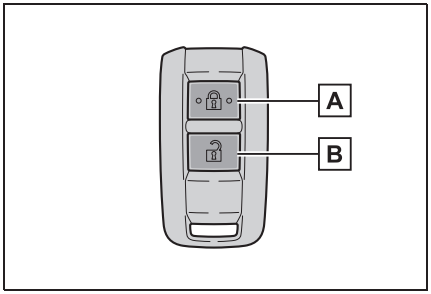
必要に応じて、グローブボックスを施錠（→P.170）します。マスターキーとサブキーを一緒に携帯しているときは、サブキーのみを渡してください。

■キーを紛失したとき

→P.231

ワイヤレスリモコンについて

ワイヤレスリモコンを使ってドアの施錠 / 解錠ができます。



A ドアの施錠（→P.60）

B ドアの解錠（→P.60）

知識

■航空機に乗るとき

航空機にワイヤレスリモコンを持ち込む場合は、航空機内でワイヤレスリモコンのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

・ ワイヤレスリモコンの電池が消耗しているとき

・ 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港など、強い電波やノイズを発生する設備があるとき

・ 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器が近くにあるとき

・ ワイヤレスリモコンが金属製のものに接したり覆われたりしているとき

・ 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

・ リアガラスに金属を含むフィルムなど

が貼ってあるとき

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。
次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・ワイヤレスリモコンが作動しない

・作動範囲が狭くなった

●電池はお客様自身で交換することができます（→P.194）が、交換の際にワイヤレスリモコンが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

■電池の交換方法

→P.194

■電子キーの取り扱いについて

電波キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

・電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

・必ず日本国内でご使用ください。

・技適マークと認可番号はケースを取り外した際、確認が可能です。

⚠ 注意

■キーの故障を防ぐために

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●湿度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

●分解しない

●キー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない

●電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■キー取り扱いの注意

キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

●電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。

●必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

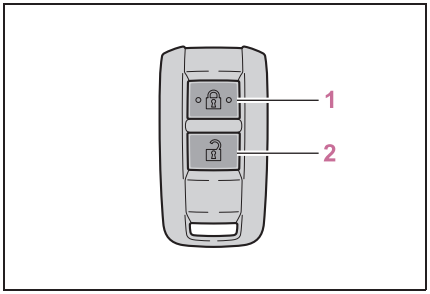
■キーを紛失したとき

→P.231

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外から解錠／施錠するには

■ ワイヤレスリモコンを使用する

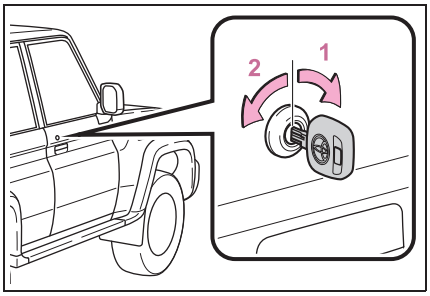


1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

2 全ドアを解錠する

■ キーを使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

2 全ドアを解錠する

知識

■作動の合図（ワイヤレスリモコン）

ドアの施錠・解錠を、非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■解錠操作のセキュリティ機能

ワイヤレスリモコンでの解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- キーを使ってドアの施錠・解錠ができます。
- 電池が消耗しているときは、電池を交換してください。P.194

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

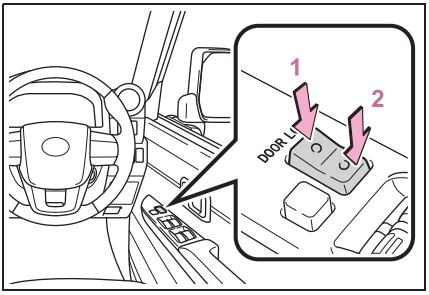
- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

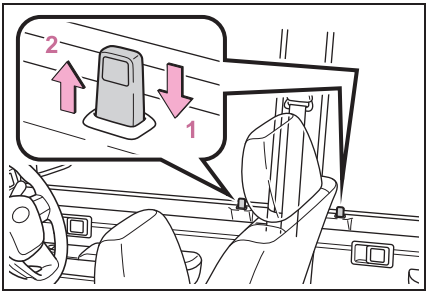
車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する

■ ロックボタンを使用する



1 ドアを施錠する
2 ドアを解錠する

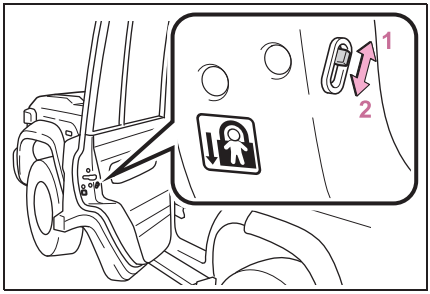
知識

■キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ドアハンドルを引いてドアを閉める
2 ロックボタンを押して施錠する

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠
2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを開けないでください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バックドアの操作にあたって

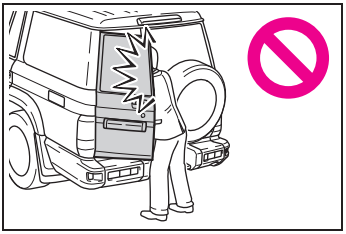
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

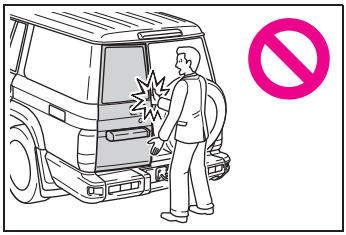
●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



⚠ 警告

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。ドア開口部もったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

■バックドアを開けて駐停車するときは

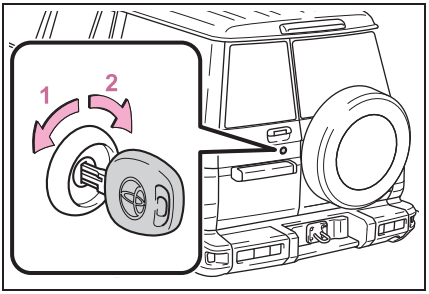
車両後方に停止表示板、または停止表示灯を置いてください。バックドアが開いていると、非常点滅灯などが見えなくなる場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車外から解錠／施錠するには

■ ワイヤレスリモコンを使用する

→P.58

■ キーを使用する



1 ドアを施錠する
2 ドアを解錠する
必ず施錠されたことを確認してください。

知識

■作動の合図

→P.60

■解錠操作のセキュリティ機能

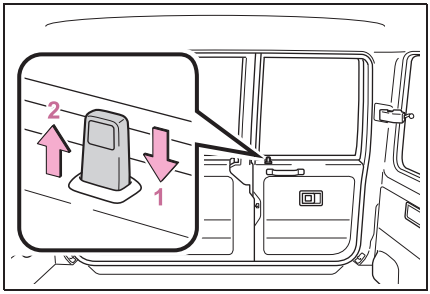
→P.60

車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

→P.61

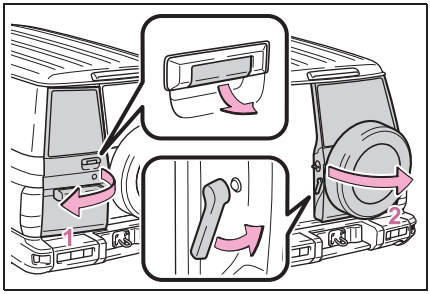
■ ロックボタンを使用する



1 ドアを施錠する
2 ドアを解錠する
必ず施錠されたことを確認してください。

バックドアを開閉するには

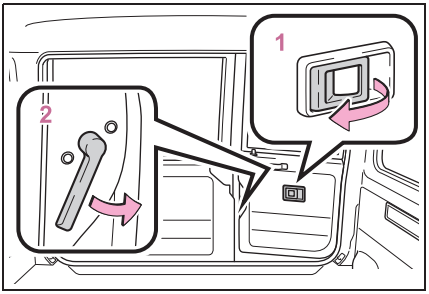
■ 外側から開ける



1 助手席側ドアを開ける

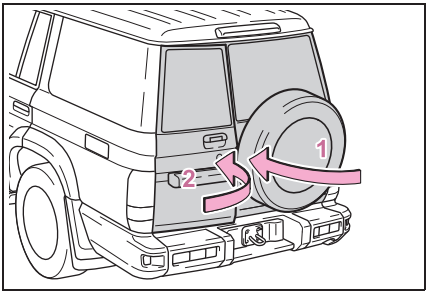
2 運転席側ドアを開ける
レバーを手前に引いて開けます。

■ 内側から開ける



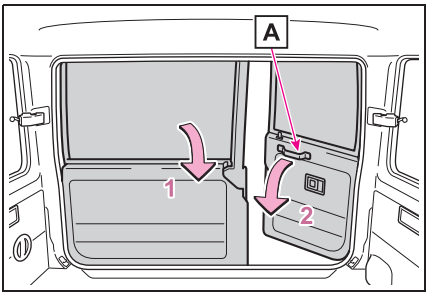
1 助手席側ドアを開ける
レバーを引きます。
2 運転席側ドアを開ける
レバーを外側に倒して開けます。

■ 外側から閉める



1 運転席側ドアを閉める
2 助手席側ドアを閉める

■ 内側から閉める



1 運転席側ドアを閉める
2 ドアハンドルAを持って助手席側ドアを閉める

フロントシート

レバー操作により、シートの前後などの調整ができます。正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。（→P.21）

⚠警告

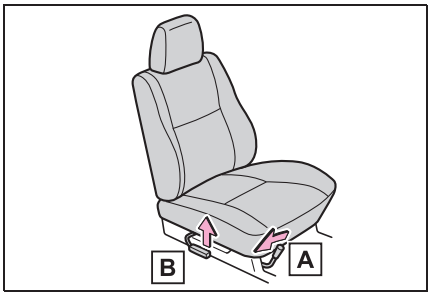
■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

調整するには



A 前後位置調整

B リクライニング調整

知識

■シートを調整するときは

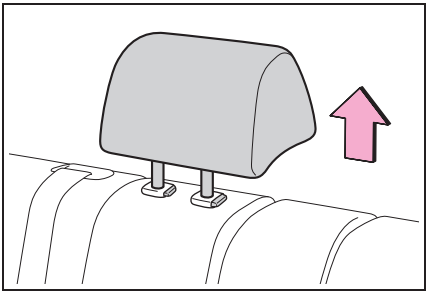
- 周囲の人やものがシートに挟まれないよう注意してください。

リヤシート

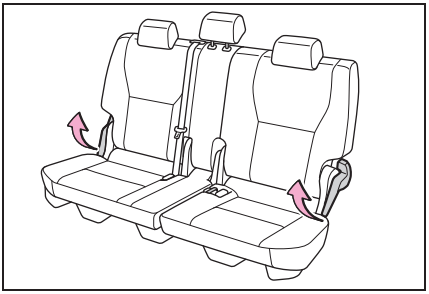
レバー操作により、リクライニングの調整や背もたれを倒すことができます。

調整するには

1 ヘッドレスト（中央席）を上げる



2 レバーをひいて、背もたれを調整する



リヤシートの折りたたみ

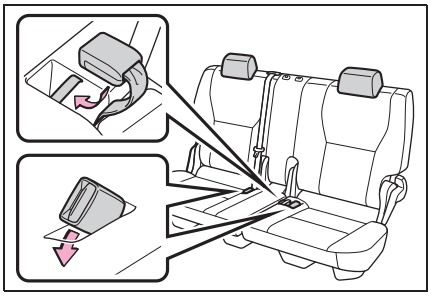
■ 折りたたみ

1 リヤシートヘッドレスト（中央席）を取り外す (→P.70)

2 フロントシートをいちばん前までスライドさせる

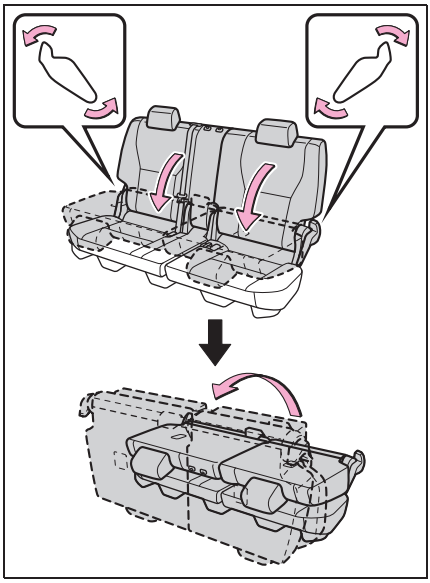
3 バックルを格納し、ヘッドレストをいちばん下まで下げる

中央席のバックルは、バンドで固定してください。

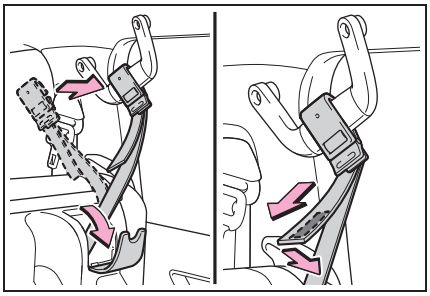


4 レバーを引く

背もたれが前に倒れ、シートがはね上がります。



5 カバーを開け、アシストグリップにフックをかけ、シートが動かなくなるよう固定する



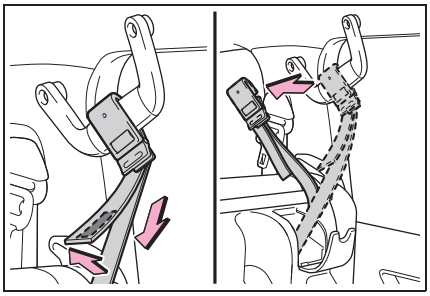
6 カバーを閉める

7 フロントシートの位置をもとにもどす

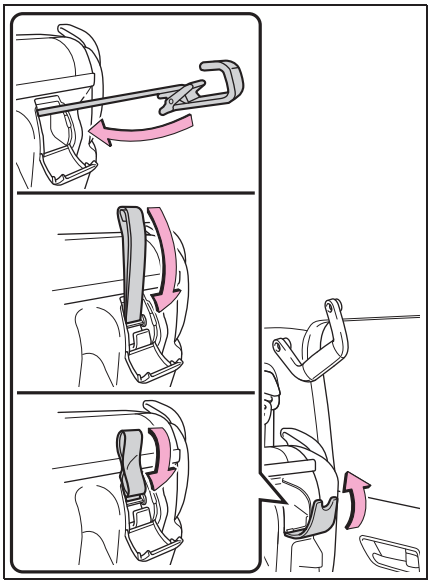
■ もとにもどすときは

1 カバーを開け、アシストグリップからフックを取り外す

アシストグリップから取り外しにくいときは、ベルトを緩めてください。

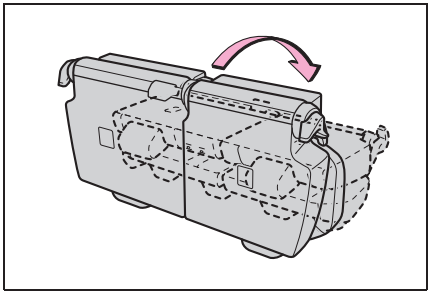


2 フックとタンブルバンドを格納し、カバーを閉める



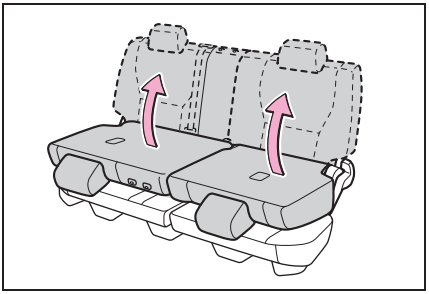
3 シートをもとにもどす

ロックされる位置までシートを押してください。



4 背もたれをおこす

ロックされる位置まで背もたれをおこしてください。



5 リヤシートヘッドレスト（中央席）を取り付ける（→P.70）

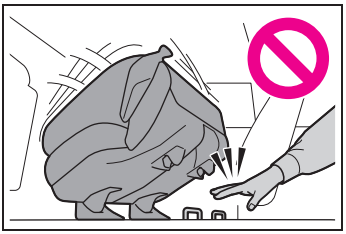
⚠警告

■リヤシートを操作するときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する
- リヤシートを格納した状態で、ラゲージルームに人を乗せて走行しない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない
- シートをもとにもどしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認する
- 中央席に座るときは、リクライニング角度を左右のシートで同じにしてください
- シートをもとにもどすときは、シート脚部と床面ロック部のあいだに手や足を近付けないでください



■リヤシートを格納したときは

走行するときは、助手席側のリヤシートを格納した状態で中央席に座らないでください。

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

⚠警告

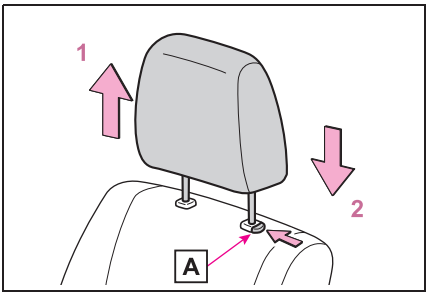
■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

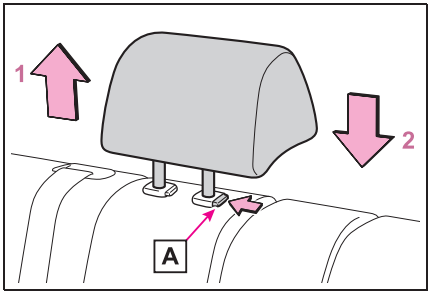
■ フロントシート・リヤシート（外側席）



1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタンA を押しながら操作します。

■ リヤシート（中央席）



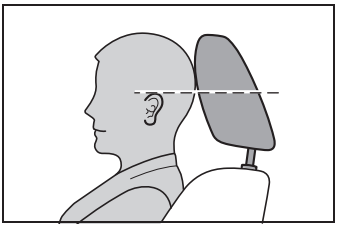
1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタンA を押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤシートについて

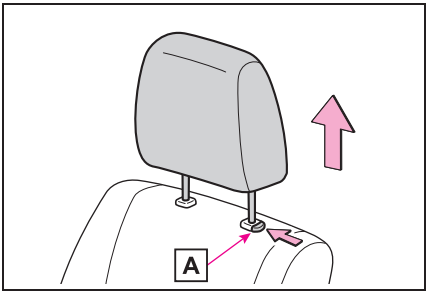
使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

ヘッドレストを取りはずすには

■ フロントシート・リヤシート（外側席）

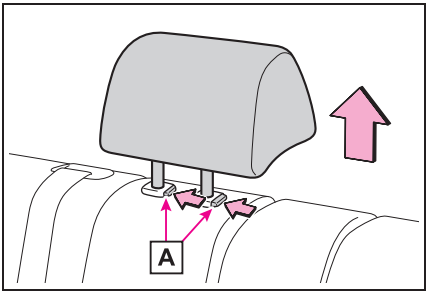
解除ボタンA を押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの角度をかえてください。(→P.65, 66)



■ リヤシート（中央席）

解除ボタン[A]を押しながらヘッドレストを引き上げます。

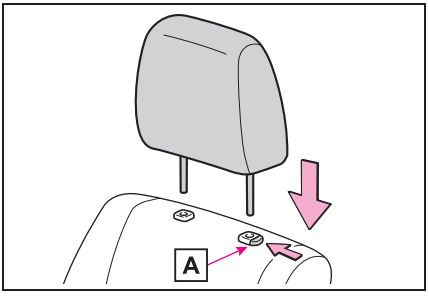


ヘッドレストを取り付けるには

■ フロントシート・リヤシート（外側席）

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

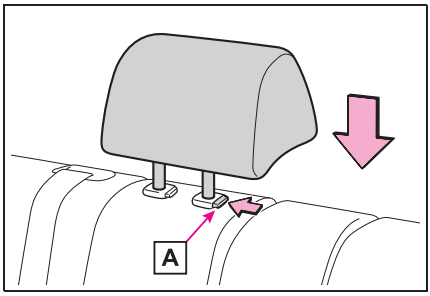
さらに下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作してください。



■ リヤシート（中央席）

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

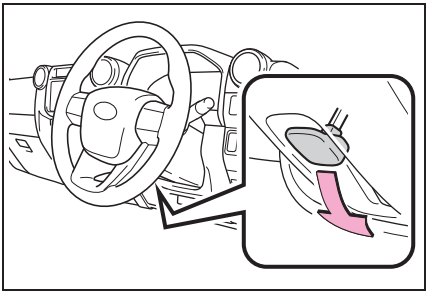
さらに下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作してください。



ハンドル

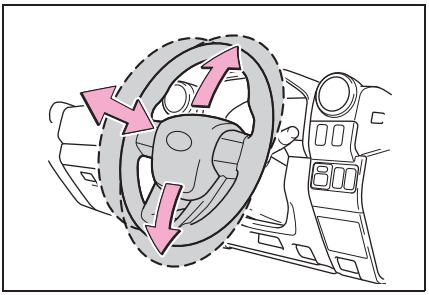
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



⚠ 警告

■走行中の留意事項

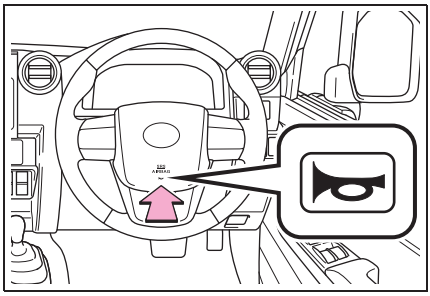
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

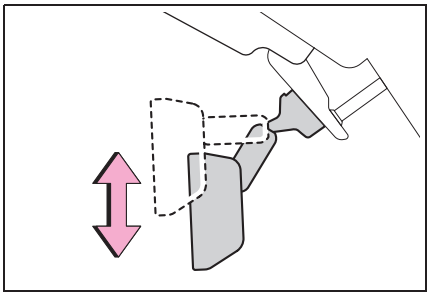


インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



⚠警告

■走行中の留意事項

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■インナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

- ミラー本体の取り外し・分解・改造はしないでください。
- 表面をふくときは、強くこすらないでください。強くこすると、ミラー表面が傷ついて車両後方の状態が見えにくくなることがあります。
- ハーネスやコネクタ接続部分にアクセサリーなどのものを掛けないでください。

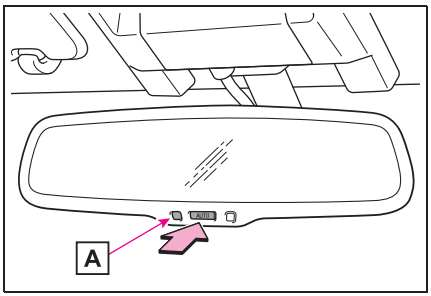
防眩機能

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ

ON ／ OFF

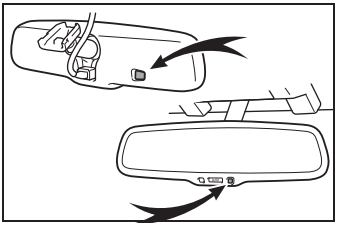
ON のときはインジケーターが点灯します。エンジンスイッチを “ON” にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。ボタンを押すと OFF になりインジケーター A が消灯します。



知識

■センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたり、センサーを覆ったりしないでください。



ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

知識

■寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

⚠警告

■走行中の留意事項

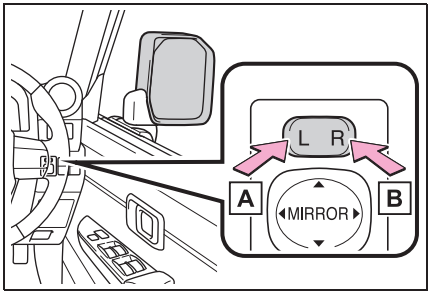
走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない

必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

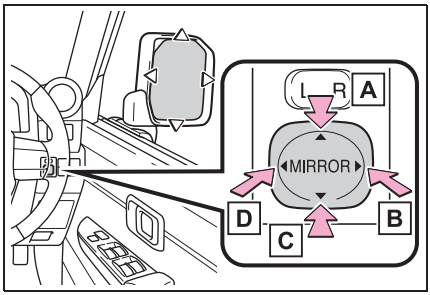
1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す



A 助手席側

B 運転席側

2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを操作する



A 上

B 右

C 下

D 左

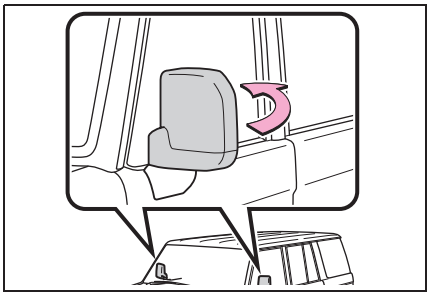
知識

■鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチが “ACC” または、“ON” のとき

ドアミラーを格納するには

手で押して格納します

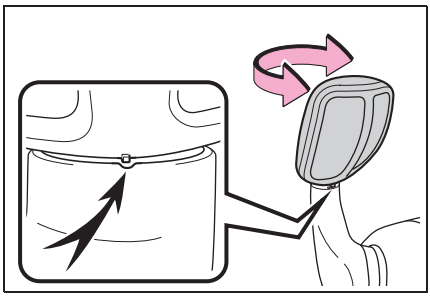


補助確認装置

発進時またはごく低速時に、車両前面と助手席側車両側面を確認するときに役立ちます。

ミラーが動いてしまったときは

突起とマークの位置を合わせて、ミラーの位置をもどします。



⚠ 注意

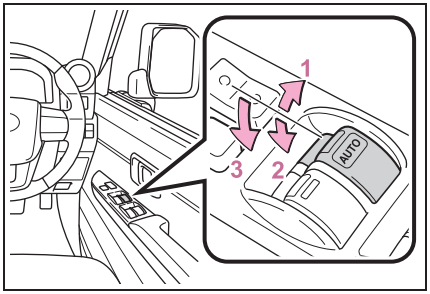
■補助確認装置について

- 補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

パワーウインドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、ドアガラスを開閉できます。



1 閉める
2 開ける
3 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

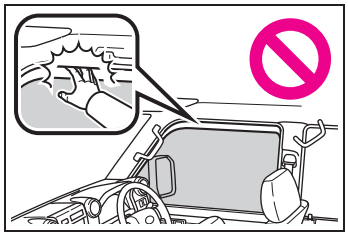
エンジンスイッチが “ON” のとき

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
  また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P.75)
- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。

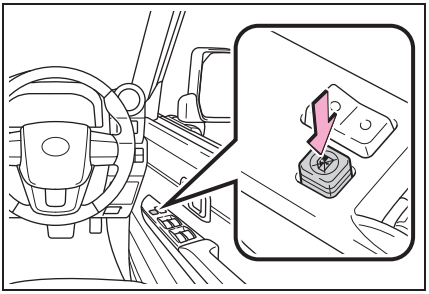


- 車から離れるときはエンジンスイッチを “LOCK” にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが非作動になります。



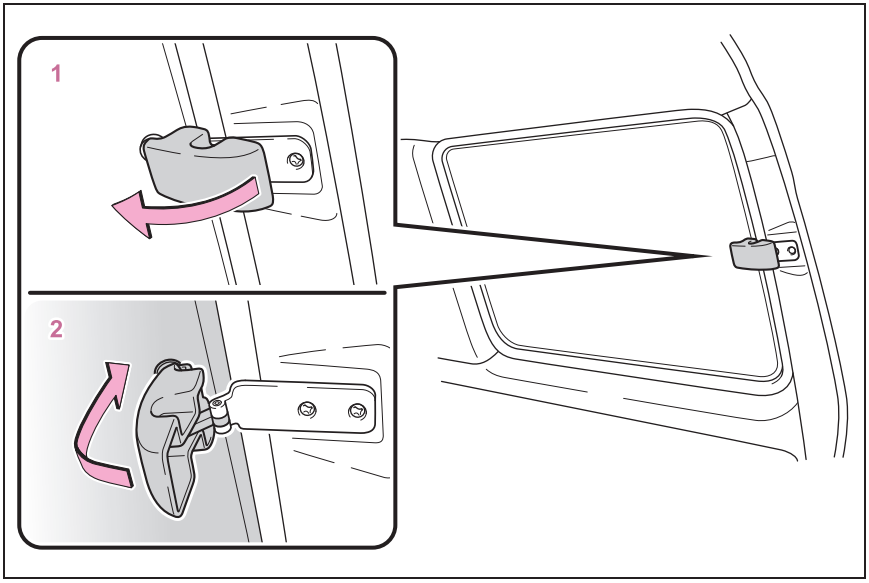
知識

■作動条件

エンジンスイッチが “ON” のとき

リヤクォーターガラス

リヤクォーターガラスを開けるには



1 レバーを引いてロックをはずす
2 レバーを外側に押してガラスを開ける

操作後は、ガラスが確実に固定されたことを確認してください。

知識

■開閉時のレバー操作について

レバーを操作する際に指を挟まないよう注意してください。

⚠警告

■リヤクォーターガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤクォーターガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、リヤクォーターガラスの操作をさせないでください。リヤクォーターガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 80
荷物を積むときの注意 86
ステップバンパー 87
4-2. 運転のしかた
エンジン（イグニッション）スイッチ 89
オートマチックトランスミッション 91
方向指示レバー 94
パーキングブレーキ 95
4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ 97
AHB（オートマチックハイビーム） 100
フロントフォグランプスイッチ 102
ワイパー&ウォッシャー（フロント） 103
ワイパー&ウォッシャー（リヤ） 104
4-4. 給油のしかた
給油口の開け方 106
4-5. 運転支援装置について
Toyota Safety Sense 108
PCS（プリクラッシュセーフティ） 113
LDA（レーンディパーチャーアラート） 122
クルーズコントロール 127
バックモニター 130
RSA（ロードサインアシスト） 136
先行車発進告知機能 139
4WD システム 141
デフロック 145
ダウンヒルアシストコントロールシステム 146
排出ガス浄化装置（DPF） 148
運転を補助する装置 152
アクセサリコネクタ 156
アンテナ 157
4-6. 運転のアドバイス
寒冷時の運転 158

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。

安全に走行するには

■ エンジンを始動する

→P.89

■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P.91）

2 パーキングブレーキを解除する（→P.95）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける（→P.95）

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P.91）

■ 駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 パーキングブレーキをかけて（→P.95）、シフトレバーを P にする（→P.91）

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

3 エンジンスイッチを "LOCK" にしてエンジンを停止する

4 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする（→P.91）

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→P.152）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行し

ていると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

●ブレーキペダルを踏んだとき

■エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

■運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

■エンジン停止前のアイドリング運転について

ターボ装置などの損傷を防ぐため、高速走行・登坂走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況		アイドル運転時間
市街地などの一般走行		不要
高速走行	約 80km/h 定速	約 20 秒
	約 100km/h 定速	約 1 分
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびレース場などの 100km/h 以上の連続走行		約 2 分

⚠警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

⚠警告

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.206 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→P.91）

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。

急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーを N に入れると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する

・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをP に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。高温になる場合がありますので、注意してください。（→P.148）

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは 2 つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

⚠ 注意

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ターボ装置の故障を防ぐために

- 高速走行・登坂走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドリング運転を行い、ターボ装置を冷却してからエンジンを停止してください。(→P.81)
- 排気管などには指定以外の部品を使わないでください。
- 排気管の改造は絶対にしないでください。
- エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。
- 極寒の環境では、エンジン始動後に30 秒以上アイドリング運転を行ってください。また、アイドリング運転中は空ぶかしをしないでください。
- 定期的なオイル交換を必ず行ってください。(→P.240)

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P.222 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンスト
- 電装品のショート
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良
- 電装部品
- 配線や配管部品（ワイヤーハーネス、燃料配管、ブレーキ配管、排気管など）

冠水した道路を走行すると水中の浮遊物などにより、アンダー部品を損傷するおそれがあります。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

急発進の抑制（ドライブスタートコントロール）

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、エンジン出力を抑制することがあります。

- R に切りかえたとき※
- P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※状況によっては操作できない場合があります。

知識

■ドライブスタートコントロールについて

- TRC ／アクティブ TRC の作動を停止（→P.153）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御が作動してぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC ／アクティブ TRC の作動を停止してください。（→P.153）

また、次のときは急発進の抑制制御は作動しません。

- トランスファーレバーが L4 にあるとき

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

・フタのない小物入れ／トレイ

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

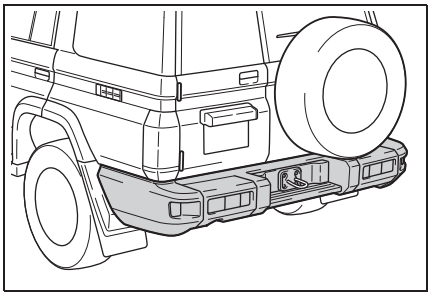
●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ステップバンパー

ステップバンパーは、車両後部を保護し、荷物を積むときの踏み台として使用できます。

リヤステップバンパー



⚠ 警告

■走行中の警告

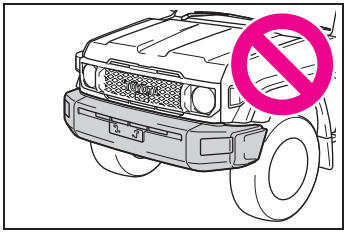
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●リヤステップバンパーの上に人を乗せて走行しない。

⚠注意

■ステップバンパーの損傷を防ぐために

●フロントバンパーに乗らないでください。フロントバンパーが損傷するおそれがあります。



●リヤステップバンパーの上には、一度に複数人で乗らないようにしてください。

エンジン（イグニッション）スイッチ

エンジンをかけるには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。
2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
3 ブレーキペダルをしっかり踏む
4 エンジンスイッチを“START” の位置にまわす

“ON” の位置までまわし、（予熱表示灯）が点灯後消灯したら“START” の位置にまわします。

知識

■エンジンが始動しないとき

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
（→P.43）
トヨタ販売店へご連絡ください。

■極寒時のエンジン始動について

極寒時は約３０秒を限度に、エンジンが始動するまでエンジンスイッチをまわし続けてください。約３０秒スターターを回しても始動しないときは、エンジンスイッチを “ACC” にもどし、約２０秒以上待ってから再始動してください。

警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

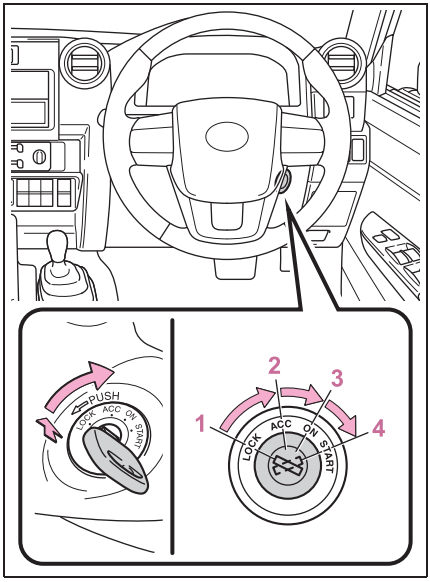
■エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- エンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■予熱表示灯について

- 予熱表示灯が消灯してからエンジンを始動してください。消灯する前に始動操作を行うと、バッテリーの寿命に悪影響をおよぼします。
- 予熱表示灯の点灯時間は、エンジンが冷えていると長くなります。

エンジンスイッチを切りかえるには



1 “LOCK” (OFF)

・ステアリングロックがかかります。
・キーを抜き挿しすることができます。

2　“ACC”

オーディオなどの電装品が使用できます。

3　“ON”

すべての電装品が使用できます。始動する前に、グロープラグをオンにし、エンジンを予熱します

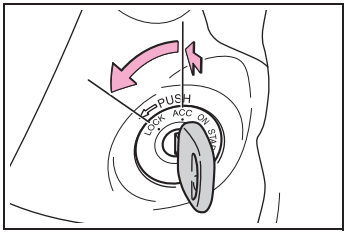
4　“START”

エンジンが始動できます。

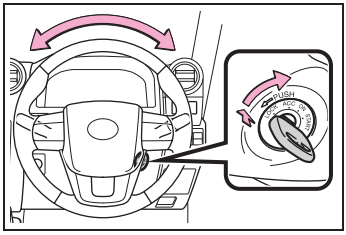
知識

■キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
2 キーを押し込みながら“LOCK”までまわす



■ステアリングロック機能



ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。

⚠警告

■走行中の警告

●エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中はエンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。緊急時、走行中にエンジンを停止したい場合には“ACC”にしてください。(→P.206) ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

オートマチックトランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動・停止
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
M	M モード走行 ※2 (→P.93)

※1燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2M モードは任意のギヤ段に固定して走行することができます。

知識

■オートマチックトランスミッションの保護制御

●ぬかるみや砂地・雪道などでスタックしてタイヤが空転する状態が続くときや、走行時にアクセルペダルをくり返し踏んだり離したりする状況が続くと、トランスミッションが高温になり損傷するおそれがあります。
このとき、トランスミッションが損傷しないように、ギヤ段が一時的に固定される場合があります。
トランスミッションの温度が下がるとギヤ段の固定は解除され、通常作動にもどります。

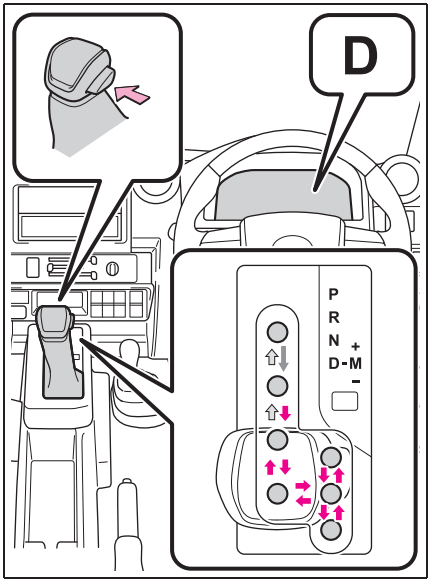
●トランスミッションフルードの温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに “AT オイル高温 取扱書を確認してください” が表示されます。
ただちに安全な場所に停車し、シフトレバーを P にして、エンジンをかけたまま温度が下がるまで待ちます。しばらくして表示が消えたら、走行可能になります。表示が消えないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

⚠警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

シフトレバーの動かし方



⬅：エンジンスイッチが ON の状態で、ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーのボタンを押し

ながら操作します。※

⇦：シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

⬅：シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

※ シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを最初に押してもシフトロックは解除されません。

知識

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

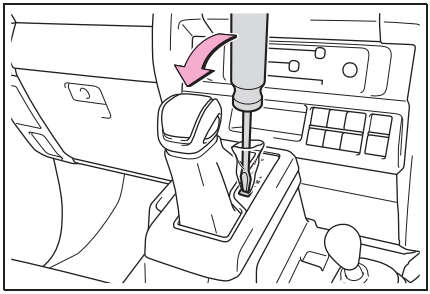
エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■シフトレバーをPからシフトできないとき

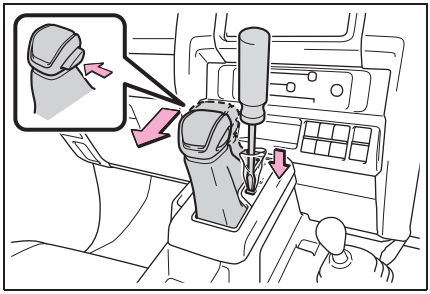
ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

1 パーキングブレーキをかける
2 エンジンスイッチを OFF にする
3 ブレーキペダルを踏む
4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す
シフトロック解除ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



警告

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

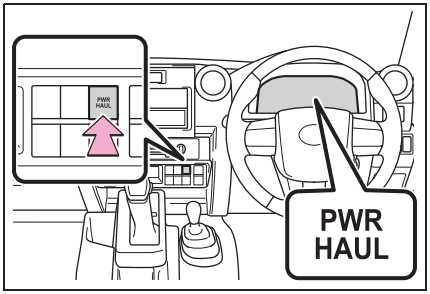
走行モードの選択

■ “PWR/HAUL” モード

より力強い走りや強めのエンジンブレーキが必要なときは“PWR/HAUL” モードに切り替えます。

“PWR/HAUL” モードにするにはスイッチを押す

解除するには再度スイッチを押します。

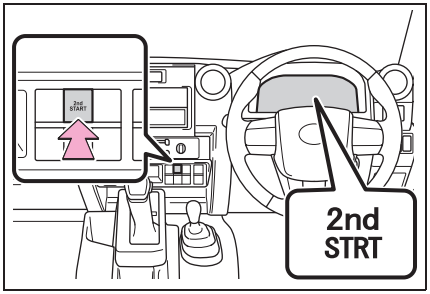


■ 2nd スタート

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行時に、走行モードをセカンドスタートモードに切りかえます。

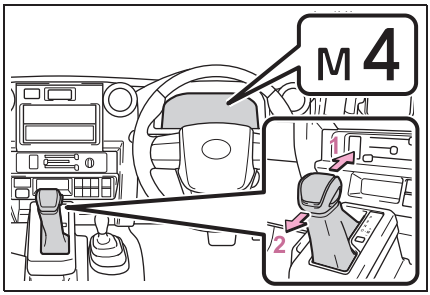
セカンドスタートモードにするにはスイッチを押す

解除するには再度スイッチを押します。



M モードでのギヤ段選択

シフトレバーを M ポジションにすると、M モードに切りかわります。シフトレバーの操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 速ずつ変速します。

M1 から M6 の中で選択したギヤ段に固定され、ギヤ段がメーターに表示されます。

M ポジションでは、次の場合を除いてシフトレバーを操作しない限り、変速しません。

- 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）

また、車速が低い場合はシフトアップ操作をしても変速しません。

知識

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

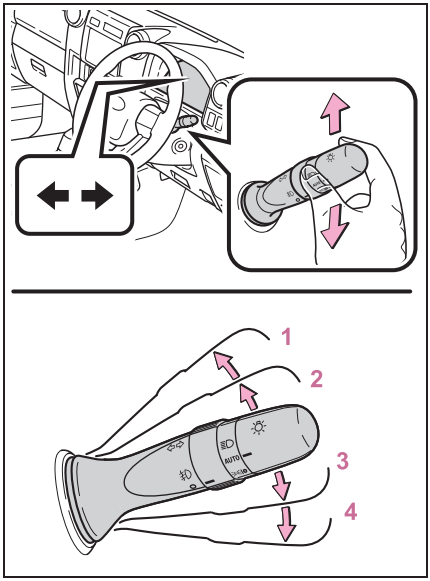
■シフトレバーを M にしてもシフトポジション・ギヤ段表示に M が表示されないとき

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



1 左折

2 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

3 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

4 右折

知識

■作動条件

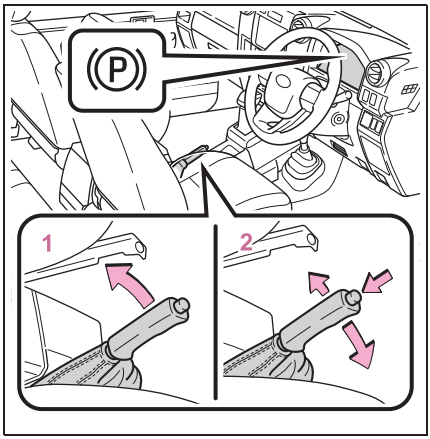
エンジンスイッチが "ON" のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた



1 パーキングブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く

2 パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす

知識

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P.216

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.160

■駐車するとき

→P.80

警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■走行前の注意

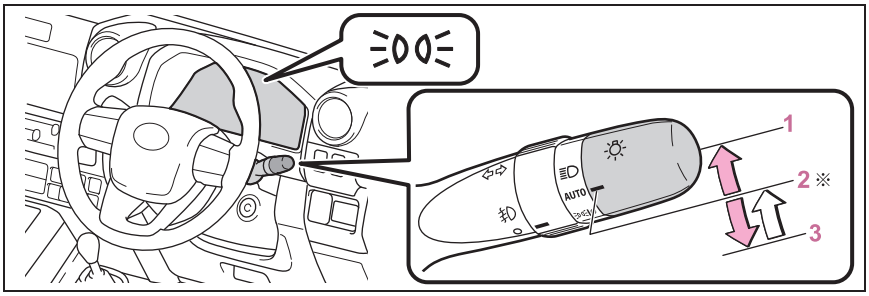
パーキングブレーキを完全に解除してください。パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTO の位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2AUTO ※1	LED デイタイムランニングランプ（→P.98）が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3 ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※2

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを意味します。

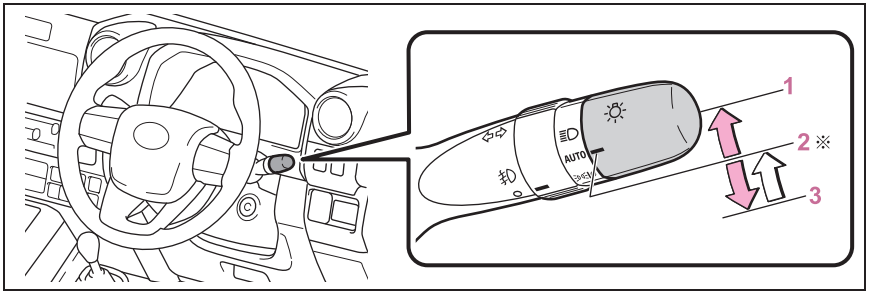
※1 操作するたびに、2AUTOによる点灯状態と 3 による点灯状態が切りかわります。

※2 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると 2AUTOによる点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

スイッチを 3 の位置で約 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に 1 か 3 の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2 AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイタイムランニングランプ（→P.98）が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■AUTO モードの作動条件

エンジンスイッチが “ON” のとき

■LED デイタイムランニングランプ

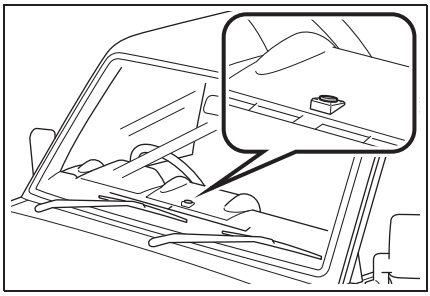
日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチをAUTOにすると、LED デイタイムランニングランプが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します）
LED デイタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。

■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチを “ACC”、または “OFF” にし、ドアを開けたときにすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを ON にするか、一度ランプスイッチをAUTOにしてからまたは の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが “ACC” または “OFF” のとき、ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■カスタマイズ機能

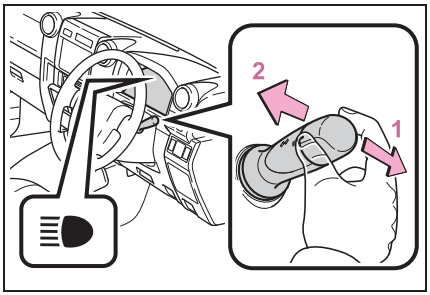
ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.246）

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

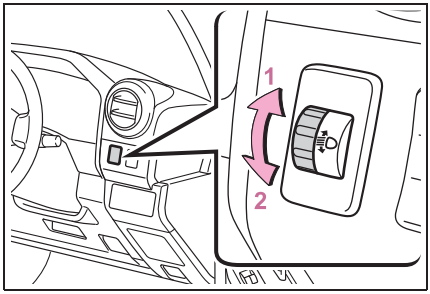
2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

手動光軸調整ダイヤル

■ 調整するには

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。



1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席	なし	0
全乗員	なし	1
全乗員	荷室満載時	4
運転者	荷室満載時	5

AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

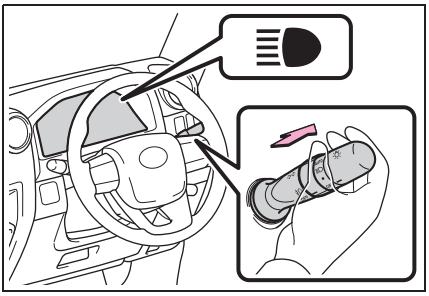
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

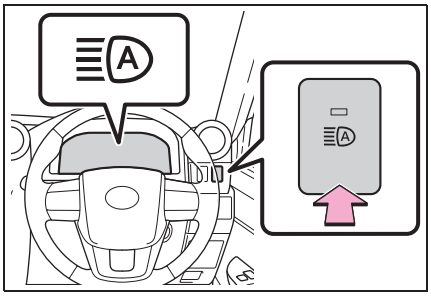
オートマチックハイビームを使うには

1 ランプスイッチをAUTOまたはにし、レバーを前方へ押す



2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 前方にランプを点灯した車両がいない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 前方車両がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方カメラの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
- 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- 前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合

があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・前方カメラが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■マルチインフォメーションディスプレイに “ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください” が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

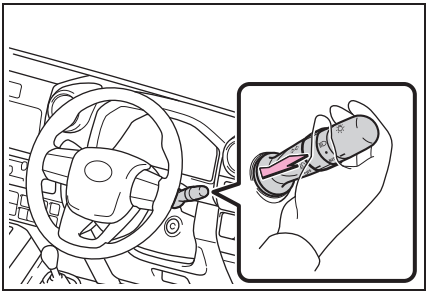
手動制御に切りかえるには

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置へもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方へ押します。

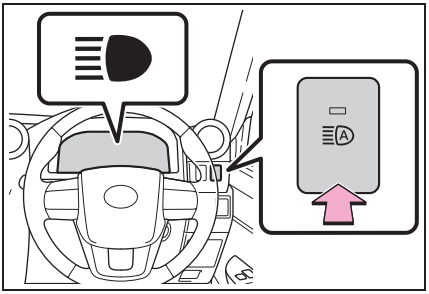


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

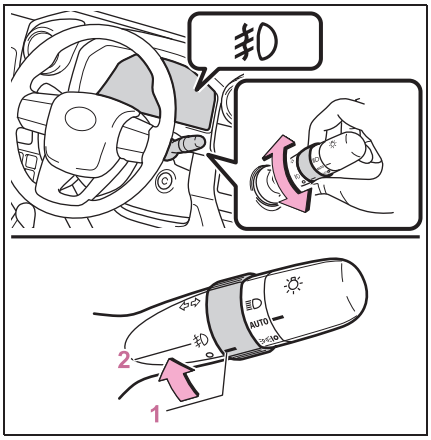
オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



フロントフォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下では、前方の視界を確保するためにフロントフォグランプを点灯させます。

操作のしかた



1　O　消灯する

2　点灯する

知識

■点灯条件

車幅灯が点灯しているときに使用できます。

ワイパー&ウォッシャー（フロント）

レバー操作で、ワイパーやウォッシャーを作動することができます。

⚠ 注意

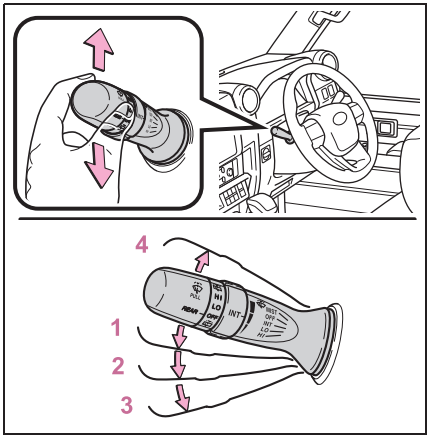
■フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。



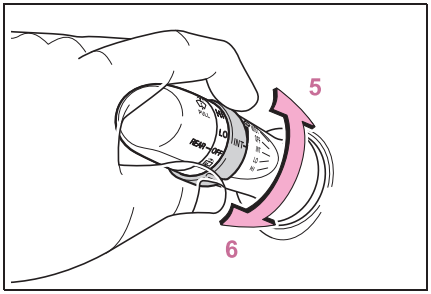
1 INT 間欠作動（INT）

2 LO 低速作動（LO）

3 HI 高速作動（HI）

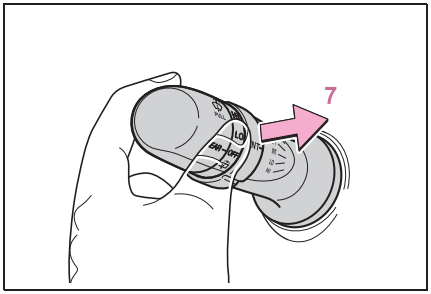
4 MIST 一時作動（MIST）

間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。



5 間欠ワイパーの作動頻度 (減)

6 間欠ワイパーの作動頻度 (増)



7 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが "ON" のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

⚠ 警告

■ウォッシャーを使用するとき

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防止するために

バッテリーあがりを防止するためにエンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

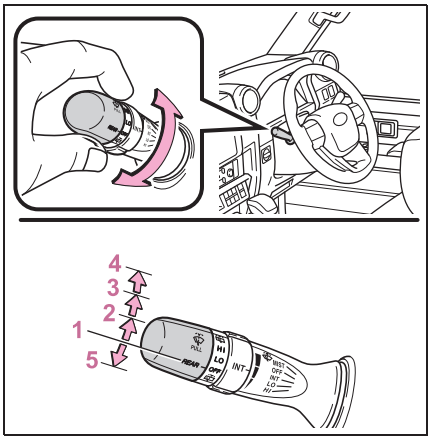
⚠ 注意

■リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のようにREARスイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。



1 OFF OFF

2 LO 間欠作動（LO）

3 HI 通常作動（HI）

4 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

5 ウォッシャー液を出す

知識

■作動条件

エンジンスイッチが “ON” のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防止するために

バッテリーあがりを防止するためにエンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

給油する前に

● ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを "LOCK" にしてください。

● 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類について

超低硫黄軽油（S10ppm 以下）

⚠ 警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。
除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意

■給油するとき

指定の軽油を使用してください。指定以外の軽油や、他の燃料（ガソリン・灯油・高濃度バイオ混合軽油※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。次のような状態になるおそれがあります。

●エンジンの始動性が悪くなる

●エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

●エンジン出力が低下する

●排気制御システムが正常に機能しない

●燃料系部品が損傷する

●塗装が損傷する

●排出ガス浄化装置が正常に機能しない

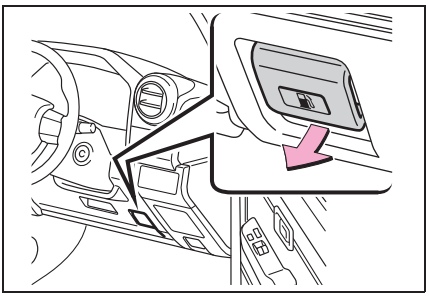
指定以外の軽油を補給すると、白煙が発生し続ける場合があります。また、排出ガス浄化装置の故障につながるおそれがあります。

※ 脂肪酸メチルエステル混合率 5%をこえるもの

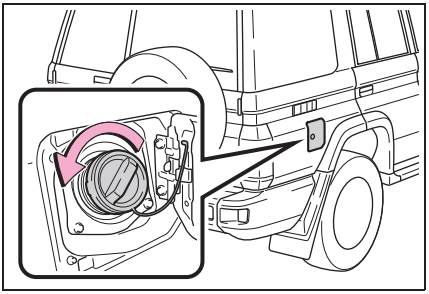
給油口を開けるには

1 オープナーを上げて、給油扉を開ける

キーで車外から給油扉を開けることも可能です。



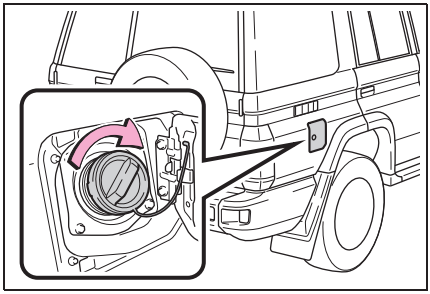
2 キャップをゆっくりまわして開ける



給油口を閉めるには

キャップを “カチッ” と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→P.113

■ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→P.122

■ AHB（オートマチックハイビーム）

→P.100

■ RSA（ロードサインアシスト）

→P.136

■ 先行車発進告知機能

→P.139

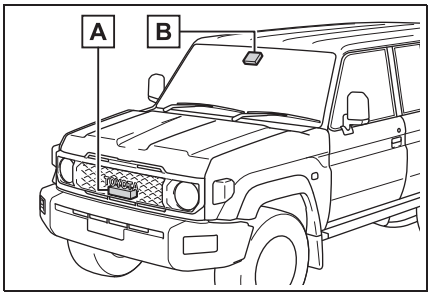
⚠ 警告

■Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



A レーダー

B 前方カメラ

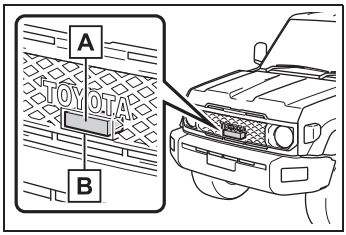
⚠ 警告

■レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

・ レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき

・ フロントバンパーを交換したとき

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

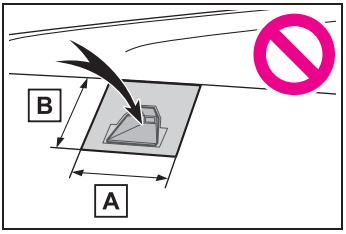
●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A 約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）

B フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで

⚠警告

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.162）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
  フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く （フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.162）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
“プリクラッシュセーフティ レーダー向き調整中 取扱書確認ください” が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
・暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
・車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないときその場合には “プリクラッシュセーフティ 現在使用できません 取扱書確認ください” が表示されます。

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JP 01

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.113）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.115）

システムの作動対象

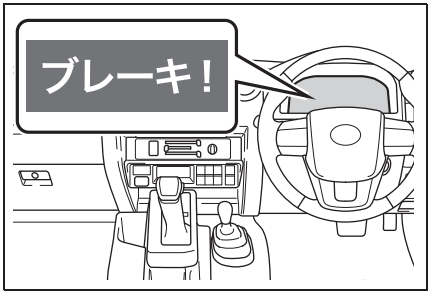
システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

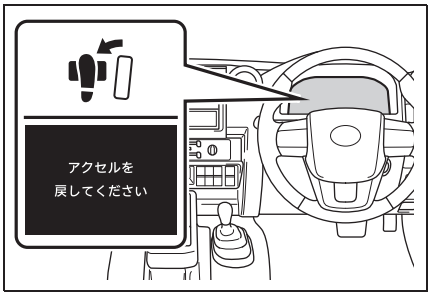
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、エンジン出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。

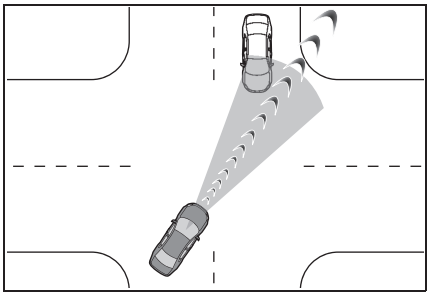


■ 交差点右左折支援

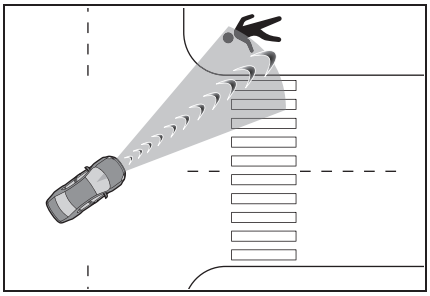
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

● 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



● 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき（自転車運転者は対象ではありません）



⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P.118

・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P.120

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。
対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠警告

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない場合があります。

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティの設定変更

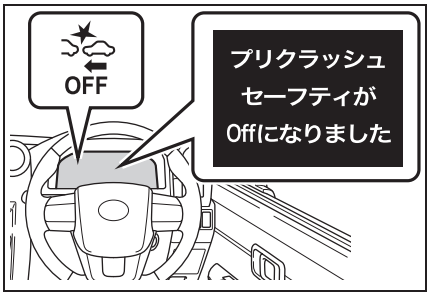
■ プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.54）から、プリクラッシュセーフティの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

走行中はシステムを OFF に変更できません。

エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるとシステムは ON になります。

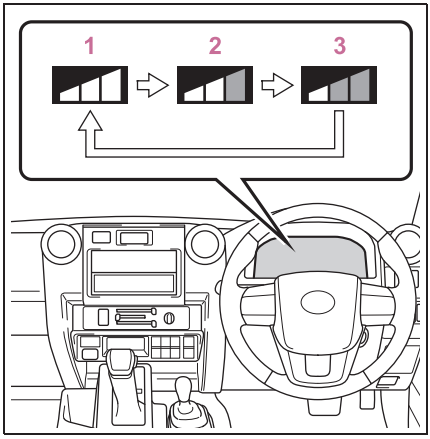
システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.54）から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはエンジンスイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。



1 早い

2 中間

初期設定

3 遅い

知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

・ バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

・ シフトレバーが R のとき

・ VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 15km/h 以下	約 15km/h 以下

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

・ アクセルペダルを離す

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●交差点右左折支援（衝突警報）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 10 ～ 25km/h	約 30 ～ 55km/h	約 40 ～ 80km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

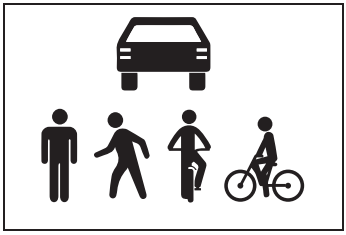
●交差点右左折支援（プリクラッシュブレーキ）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 15 ～ 25km/h	約 30 ～ 45km/h	約 45 ～ 70km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

■作動対象の検出

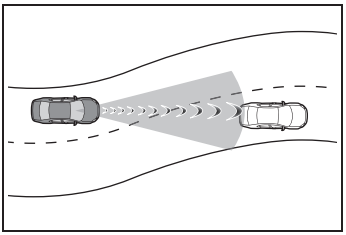
大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→P.120）
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



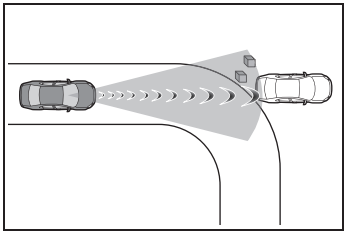
■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

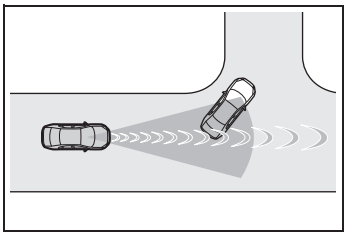
・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



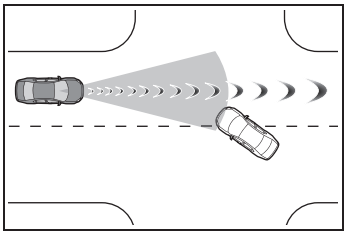
・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



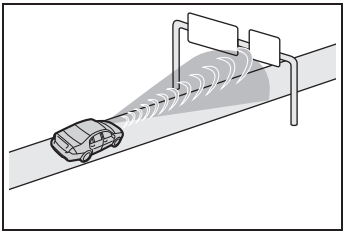
・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



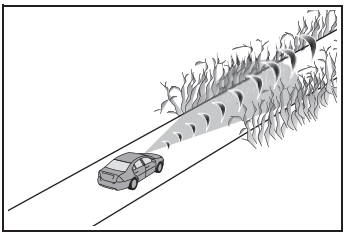
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



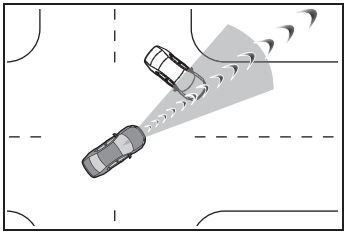
・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・洗車機を使用するとき
・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



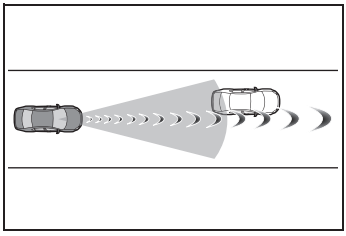
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
・周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
・右折中に、対向車が自車の前方を通過したとき
・右折中に、対向車の手前を通過しようとしたとき
・右折中に、対向車が自車進路に入る手前で停止したとき
・交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき



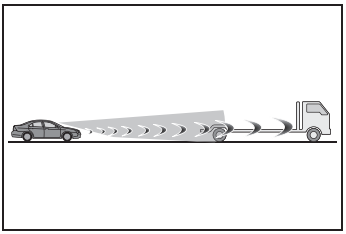
・対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
・右左折中に、横断歩行者が自車進路に入る手前で停止したとき
・右左折中に、横断歩行者が自車の前方を通過したとき
・右左折中に、横断歩行者の手前を通過しようとしたとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

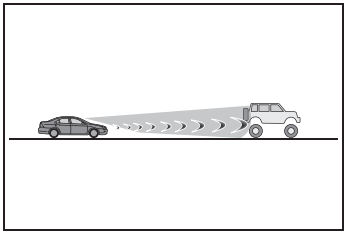
●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が自車の中心軸からずれているとき



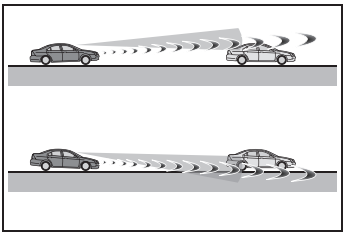
・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
・他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両がオートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



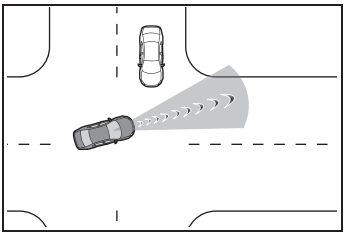
・前方車両の最低地上高が極端に高いとき



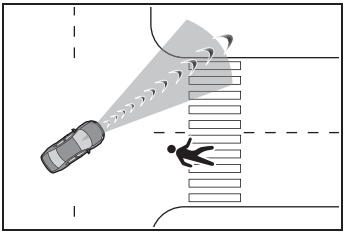
・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき



・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき
・右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも 2 つ以上離れた車線を走行しているとき
・右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



・右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき



●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
・道路面に深いわだちがあるとき
・坂道を走行しているとき
・左右に傾きのある道路を走行しているとき

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→P.153）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します ” が表示されます。

LDA（レーンディパーチャーアラート）

⚠警告

■LDA をお使いになる前に

●LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●雪道を走行しているとき

●水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき

●応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき

■LDA の故障、または誤作動を防ぐために

●ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

●サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠警告

●ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

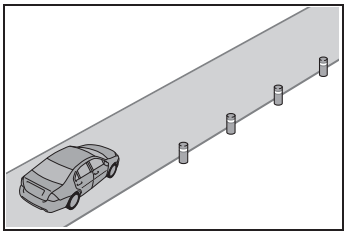
●フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

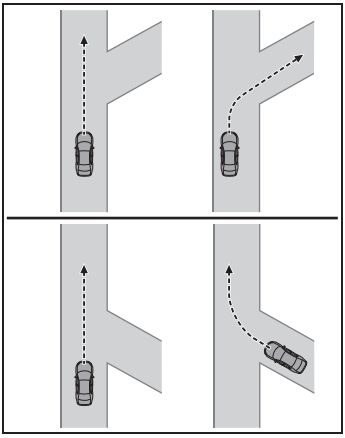
次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

●急カーブを走行しているとき

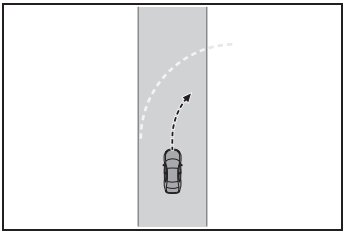
●路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）



●分岐・合流路などを走行するとき



●道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

⚠ 警告

- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき

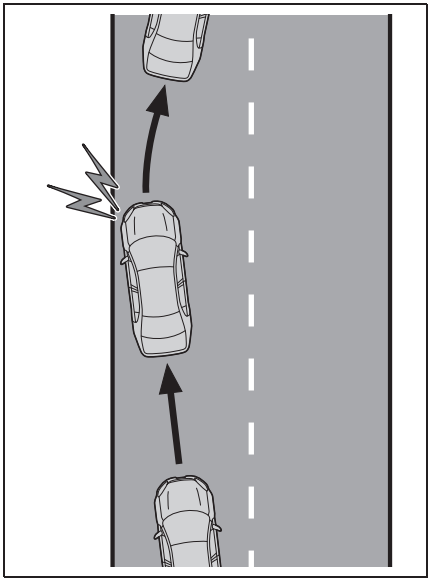
LDA に含まれる機能

■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

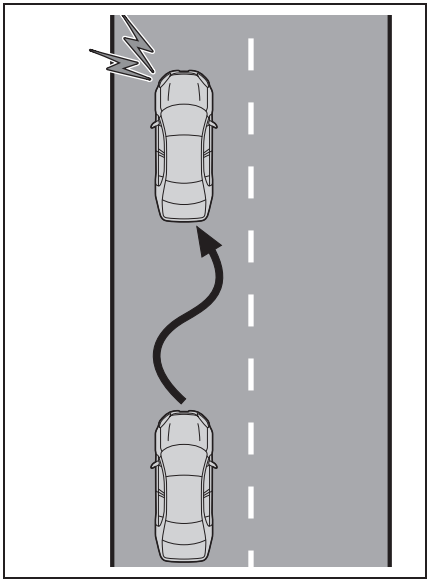
警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



LDA を OFF にする

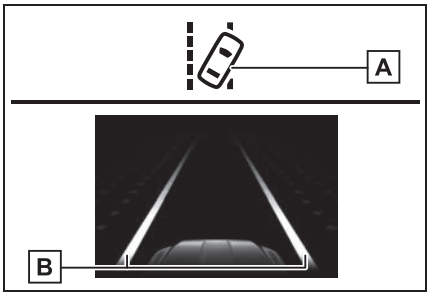
LDA スイッチを長押しする

LDA が OFF されると、LDA 表示灯が消灯します。

ON にするには、再度スイッチを押します。

エンジンスイッチが ON になるとシステムは ON になります。

マルチインフォメーションディスプレイ表示



A LDA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

緑色に点灯：車線逸脱監視中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

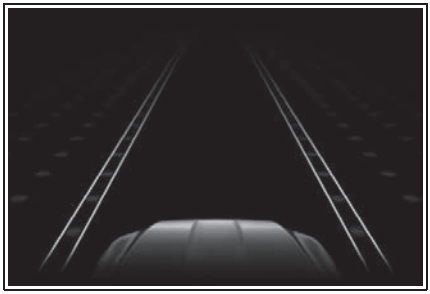
B 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報表示画面に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LDA を ON にしているとき
・車速が約 50km/h 以上のとき
・システムが白（黄）線または走路※を認識しているとき（白［黄］線または走路※が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.126）

※アスファルトと草・土・縁石等の境界

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの⚙で“ふらつき検知”を“ON”に設定しているとき（→P.52）
・車速が約 50km/h 以上のとき
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.126）

■機能の一時解除

●作動条件（→P.126）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報機能について

●外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報が作動しない場合があります。

●車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※アスファルトと草・土・縁石等の境界

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LDA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

●“LDA 故障販売店で点検してください”

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

●“LDA 現在利用できません”

・前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LDA を OFF にして、しばらくしてから再度、LDA を ON にしてください。

● “LDA 現在の車速では使用できません”

車速が LDA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

■カスタマイズ機能

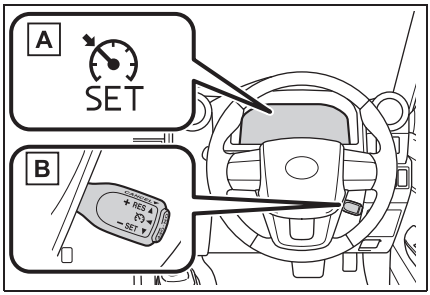
機能の設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.245）

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても一定の車速で走行できます。

システムの構成

■ メーターの表示



A 表示灯

B クルーズコントロールスイッチ

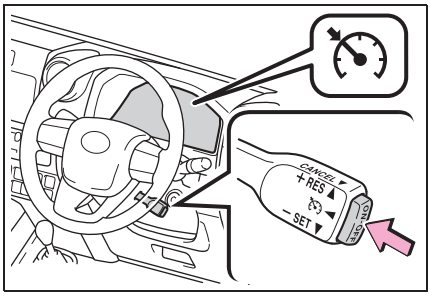
速度を設定する

■ 定速クルーズコントロールをセットするとき

1 ON/OFF スイッチを押して、システムを ON にする

クルーズコントロール表示灯が点灯します。

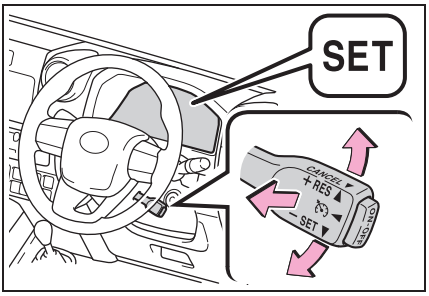
OFF にするには、再度スイッチを押します。



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

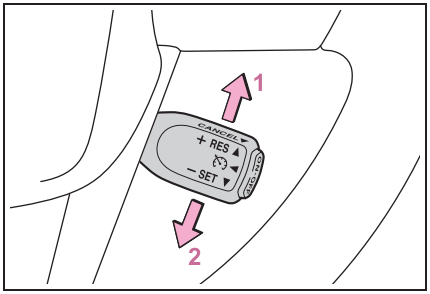
クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

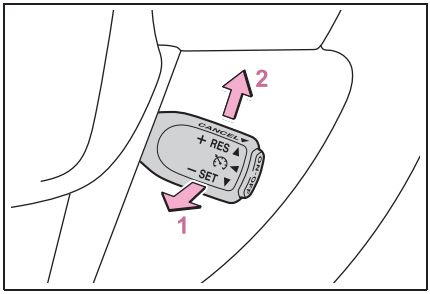
大幅調整：希望の速度になるまでレバーを保持する

設定速度は、次のとおりに増減されます。

微調整：レバー操作するごとに約 1.0km/h

大幅調整：レバーを保持する間

定速クルーズコントロールの解除方法



1 定速走行を解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

2 定速走行を復帰させるには、レバーを上げる

ただし、車速が約 30km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき設定できます。

■速度設定後の加速について

●通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。

●クルーズコントロールを解除しなくても、希望の車速まで加速して、レバーを下げることにより設定速度を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下した

●車速が約 30km/h 以下になった

●VSC が作動した

●TRC が一定時間作動した

●VSC OFF スイッチでTRC またはVSC を OFF にした

■定速走行中、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

ON/OFF スイッチでシステムを一度OFFにし、再度設定してください。設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠警告

■誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使用しないときは、ON/OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

●車両けん引時

バックモニター

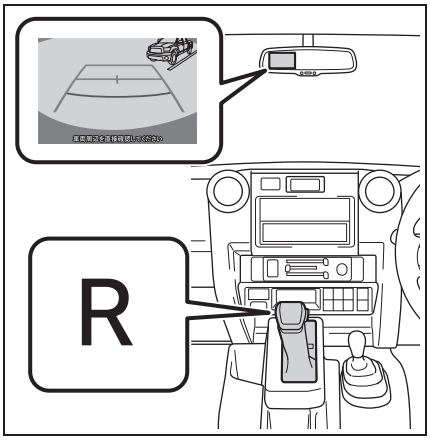
バックガイドモニターは、車両に取り付けたバックカメラの映像を表示させることで、駐車時などの後退操作を補助する装置です。

知識

本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

バックモニター画面の表示条件について

エンジンスイッチが “ ON ” のとき、シフトレバーを R にすると、バックモニターの画面が表示されます。

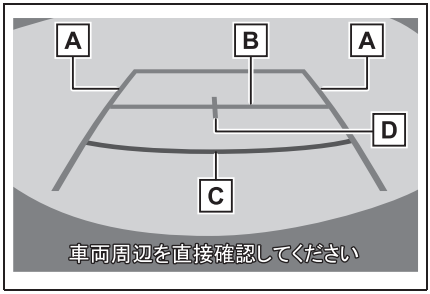


次のとき、バックモニターの画面が解除されます。

シフトレバーを R 以外にしたとき

画面の見方について

ガイド線は画面に表示されます。ガイド線は車両や路面の状況により、誤差を生じることがあります。



A 車幅延長線（青色）

車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示します。
実際の車幅より広く表示します。

B 距離目安線（青色）

バンパー後端から約 1m 先を示します。

C 距離目安線（赤色）

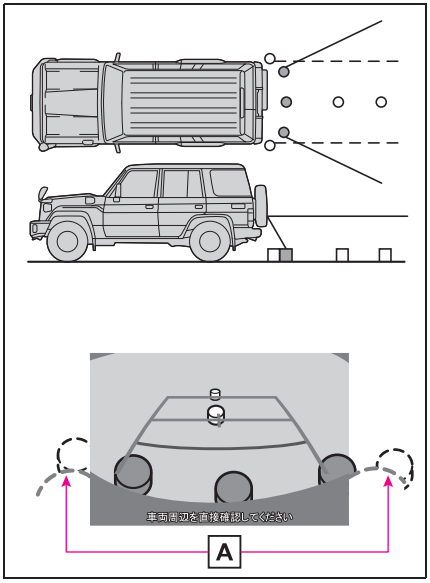
バンパー後端から約 0.5m 先を示します。

D 車両中央線（青色）

後方車幅延長線の中心位置を示します。

バックモニターの注意点について

■ 画面に映る範囲について

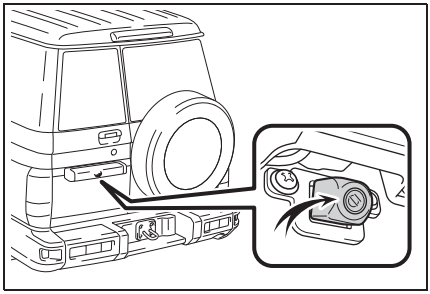


A バンパーの両端付近

バックモニターは、バンパー後端から車の後方が映ります。

- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
- カメラのレンズの特性により、画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- カメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。
- 字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。

■ カメラについて



バックモニターのカメラは、ナンバープレートの上側にあります。

● カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像をみることができません。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。

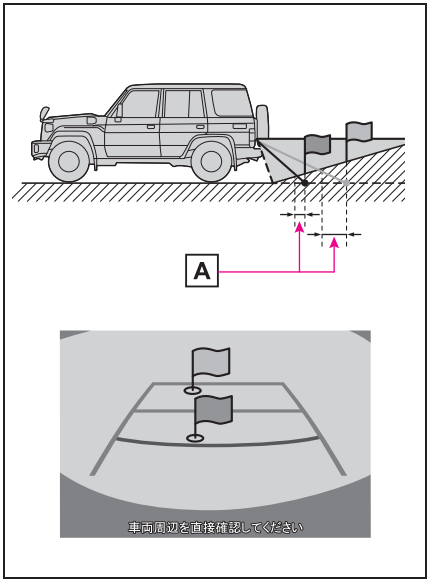
■ 画面と実際の路面との誤差について

距離目安線や車幅延長線と駐車スペースの区画線が画面では平行に見えても、実際は平行ではないことがあります。必ず直接確かめてください。

車幅延長線と駐車スペース左右の区画線の間隔が画面では左右均等に見えても、実際は左右均等ではないことがあります。必ず直接確かめてください。

距離目安線は、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、次の状態のときは、画面のガイドと実際の路面上の距離・進路に誤差が生じます。

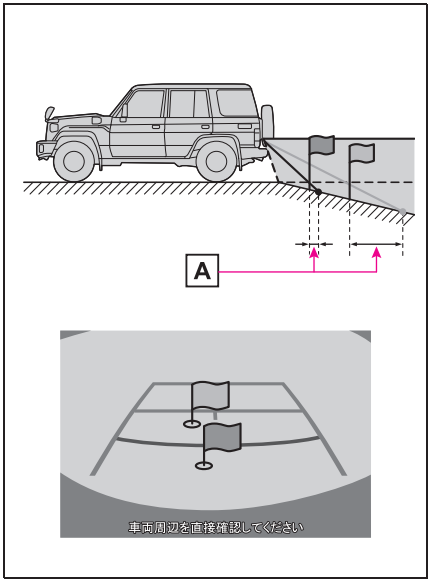
- 急な上り坂が後方にあるとき



A 誤差

実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂にある障害物は実際より遠くにあるように見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。

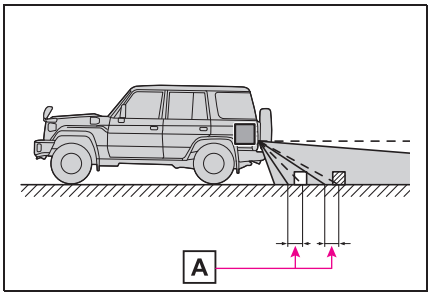
● 急な下り坂が後方にあるとき



A 誤差

実際の距離よりうしろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂にある障害物は、実際より近くにあるように見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。

● 車が傾いているとき



A 誤差

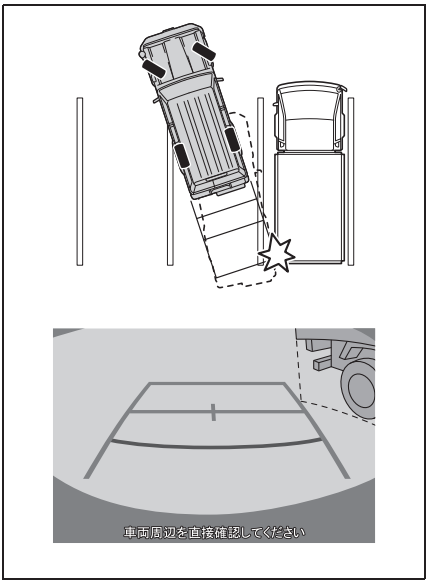
乗車人数、積載量などにより車が傾いているときは、実際の距離、進路と誤差が生じます。

■ 立体物が近くにあるとき

車幅延長線・距離目安線は路面に

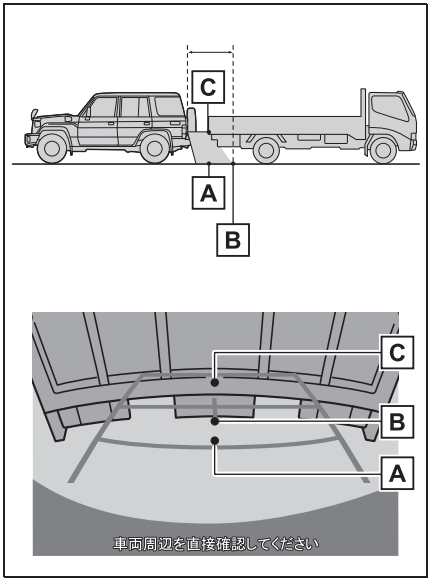
対して表示されているため、立体物の距離を判断することができません。張り出しのある立体物（トラックの荷台のような障害物）が近くにあるときは、次のことにご注意ください。

● 車幅延長線について



後方や周囲の安全を直接確認してください。画面では、トラックの荷台が車幅延長線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際は荷台が進路上に張り出しているためぶつかることがあります。

● 距離目安線について



後方や周囲の安全を直接確認してください。画面では、距離目安線により**B**の位置にトラックが駐車してあるように見えますが、実際には**A**の位置まで後退すると、ぶつかります。画面では**A**、**B**、**C**の順に近く見えますが、実際の距離は**A**と**C**は同じ距離で、**B**は**A**と**C**より遠い距離にあります。

知っておいていただきたいこと

■ 故障とお考えになる前に

下記のような症状になったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
画面が見にくい	●夜間など暗いところで使用するとき ●レンズ付近の温度が高い、または低いとき ●外気温が低いとき ●カメラに水滴が付いたとき ●雨天時など湿度が高いとき ●カメラ付近に異物（泥など）が付いたとき ●カメラにすり傷が付いたとき ●白壁や明るいものが画面に映り込んだとき ●太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたったとき ●蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明下で使用したとき	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。（カメラおよびその周辺環境が改善されてから、バックモニターをご使用ください）
画面が不鮮明	カメラのレンズに水滴・雪・泥など異物や汚れが付着しているとき	大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。
画面がずれている	カメラ部に強い衝撃が加わったとき	トヨタ販売店で点検を受けてください。
ガイド線が大きくずれる	カメラの位置がずれているとき	トヨタ販売店で点検を受けてください。
	●車が傾いているとき（重い荷物の積載やパンクしてタイヤ空気圧が低いときなど） ●傾斜地で使用するとき	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。

知識

インナーミラーの防眩機能が解除されます。

■バックモニターを使用するときは

⚠ 警告

■バックモニターを使用するときは

後退するときは、必ず目視やミラーなどで後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に後退してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●バックモニターは、車両周囲確認を補助する装置です。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

●画面だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。
画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て後退すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

●後退するときは、ブレーキペダルを踏んで速度調整しながら、ゆっくり後退してください。

●駐車時の道路事情・路面や車の状況などにより、ハンドル操作のタイミング・操作量は異なります。十分理解したうえで、バックモニターをご使用ください。

●駐車するときは、必ず駐車スペースに車を駐車できるかを確認してから後退してください。

●次のような状況では、使用しないでください。

・雪道、凍結した道などのすべりやすい路面

・タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき

・バックドアが完全に閉まっていないとき

・カーブや坂道など平坦・まっすぐではない道路

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れたりすることがあります。とくに動いている物の映像が歪む、または画面から見えなくなることがあります。

●タイヤサイズを変更した場合、画面に表示されるガイド線の位置に誤差が生じることがあります。

●カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。(→P.131)

■駐車するとき

●乗車人数・積載量などにより、画面のガイド線の示す位置は変わります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

●車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

⚠ 注意

■カメラの取り扱いについて

●バックモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけたりして、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。

・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。

⚠ 注意

・ カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。

・ カメラのカバーは樹脂でできていますので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。

・ 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。

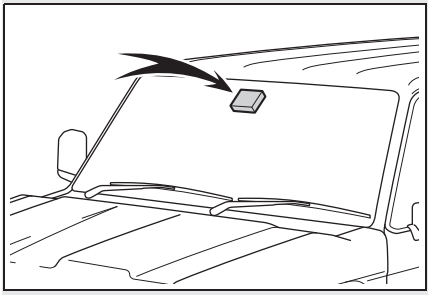
・ 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

● カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

バックモニター（後方視界支援装置）は道路交通法により義務付けられた装備です。故障時は速やかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラを使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音で運転者に告知します。

⚠ 警告

■ RSA をお使いになる前に

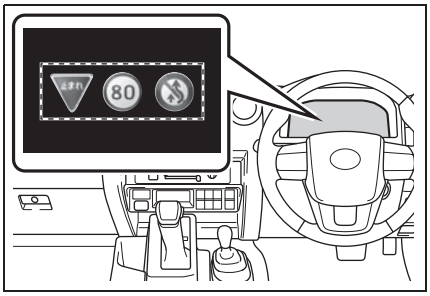
RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラによって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

● 運転支援機能情報表示画面を選

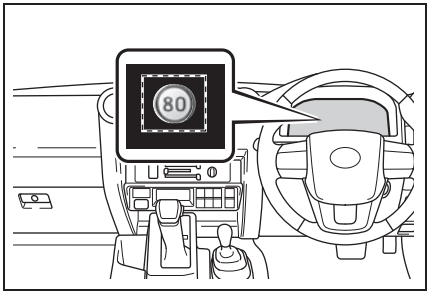
択したときは、最大 3 つの標識を表示できます。(→P.52)



● 運転支援機能情報表示画面以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。(→P.52)

・ 最高速度標識

・ 車両進入禁止標識（告知時のみ）



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

また、標識の種類・形状によって、認識しにくい場合があります。

最高速度

車両進入禁止

一時停止

はみ出し通行禁止

終わり ※

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

● 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。

● システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

● はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、は

み出し通行禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■設定のしかた

1 メーター操作スイッチの ❮ または ❯ を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “RSA” を選択し、⊙ を押す

■RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 標識の後ろに木・電柱・建物・看板などがあるとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、エンジンスイッチを OFF にすると、次回

エンジンスイッチを ON にしたときには再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに “RSA 故障 販売店で点検してください” が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

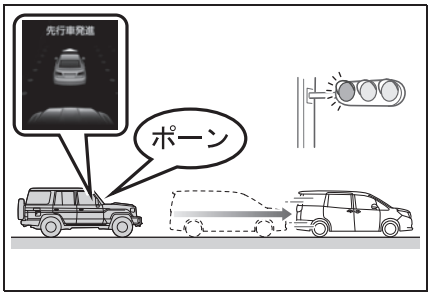
一部の機能は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.247）

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

シフトレバーが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーが N で停止しているとき

■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

●自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき

●先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき

●坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき

●先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき

●先行車がオートバイ・自転車などのとき

●先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき

●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき

●前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき

●プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS 警告灯が点灯しているとき

●右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき

●坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■先行車発進告知機能の設定を変更するには

●先行車発進告知機能の ON ／ OFF

システムの ON ／ OFF を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチの ❮ または ❯ を押して⚙を選択する

2 ∧または∨を押して “車両設定” を選択し、⊙を長押しする

3 ∧または∨を押して “先行車発進告知” を選択し、⊙を押す

4 ∧または∨を押して “先行車発進告知” を選択し、⊙を押す

●先行車発進告知機能の告知距離

告知する距離を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチの ❮ または ❯ を押して⚙を選択する

2 ∧または∨を押して “車両設定” を選択し、⊙を長押しする

3 ∧または∨を押して “先行車発進告知” を選択し、⊙を押す

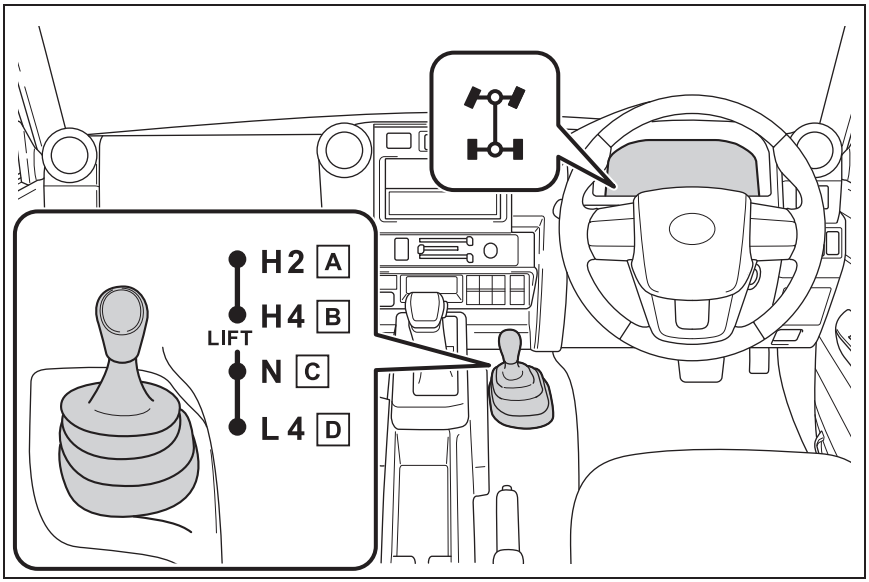
4 ∧または∨を押して “告知距離” を選択し、⊙を押す

4WD システム

トランスファーレバーを操作して駆動系の作動状態を切りかえます。

トランスファーモード

H4・N・L4 モードに切りかえるとメーターに 4WD 作動表示灯が点灯します。



A H2（ハイレンジ 2WD）

市街地や高速道路などの乾燥した舗装路面を一般走行する場合に使用します。通常はこの位置で使用します。

B H4（ハイレンジ 4WD）

悪路・氷雪路・砂地など、すべりやすい路面を走行する場合に使用します。

C N（ニュートラル）

動力の伝わらない状態。この位置では走行できません。

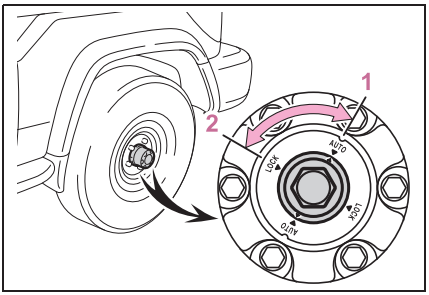
D L4（ローレンジ 4WD）

悪路・砂地・ぬかるみ・深雪路などでとくに大きな駆動力を必要とするときや急な降坂路を走行するときに使用します。

デュアルモードオートマチックロッキングハブ

■ 装置について

前輪と前輪駆動系の接続・切り離しをする装置です。



1 “AUTO”

2WD および 4WD の位置（ハブをロック状態とフリー状態に切りかえる位置）

通常は “AUTO” の位置にしておくことをおすすめします。

2 “LOCK”

4WD の位置（ハブをロック状態に保持）

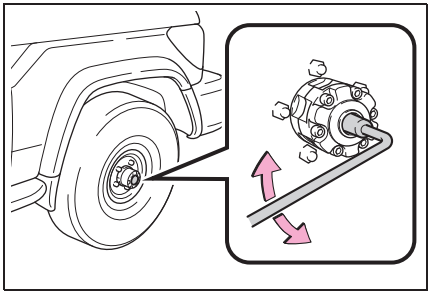
“LOCK” の位置でも 2WD での走行は可能です。

■ ハブの切りかえかた

“LOCK” ⇔ “AUTO” の切りかえは、図のようにホイールナットレンチを使って行います。

ホイールナットレンチは工具袋に搭載されています。(→P.223)

必ず左右とも同じ位置にあわせてください。



トランスファーレバーの操作

■ H2 から H4 へ切りかえ

▶ ハブが “AUTO” 位置のとき

1 車両を完全に停車させる

2 トランスファーレバーを H2 から H4 へ操作する

▶ ハブが “LOCK” 位置のとき

トランスファーレバーを H2 から H4 へ操作する

走行中でも操作可能です。

■ H4 から H2 への切りかえ

トランスファーレバーを H4 から H2 へ操作する

走行中でも操作可能です。なお、ハブが “LOCK” の位置のままでも走行は可能です。

■ H4 から L4 への切りかえ

1 車両を完全に停止させる

2 シフトレバーを N にする

3 トランスファーレバーを持ち上げて H4 から L4 へ操作する

■ L4 から H4 への切りかえ

1 車両を完全に停止させる

2 シフトレバーを N にする

3 トランスファーレバーを L4 から H4 へ操作する

知識

■”LOCK” 位置での 2WD 走行について

2WD 走行時、ハブは “LOCK” 位置でも走行は可能ですが、走行時の駆動系からの騒音や摩擦抵抗を低減するため、2WD 走行が多いときは "AUTO" の位置にすることをおすすめします。

■ “AUTO” 位置でのハブの切りかえについて

ハブをフリー状態に切りかえるときは、周囲の安全を確認して次のいずれかの操作を行ってください。

●H4 でおよそ 1m 後退させたあと、停車して H2 で前進させる

●H4 で前進させたあと、停車して H2 でおよそ 1m ほど後退させる

■H4 から H2 への切りかえについて

H4 から H2 への切りかえ操作をしても 4WD 作動表示灯が消灯しないときは、少し加減速または後退を行うと消灯します。周囲の安全を確認して行ってください。

■駆動系からの音について

次の場合は駆動系から音が聞こえる場合があります。異常や車両に損傷を与えるものではありませんがなるべく避けてください。

●H4 および L4 で走行時、後輪が空転したとき

●2WD から4WD に完全に切り替わっていないとき

●急加速したとき

●極端な低温（− 15 ℃以下）でエンジンを暖気せず 2WD で高速走行したとき

■前輪駆動系の潤滑について

長期間 4WD 走行を行わないときは、前輪駆動部品のオイルを循環させるため、月に 1 回程度は次のいずれかを約 15km ほど行ってください。

●ハブ位置を “LOCK” にして2WD で走行

●ハブ位置を “AUTO” にして 4WD で走行

■4WD の取り扱い

●4WD 車といっても万能車ではありません。アクセル・ハンドル・ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。

●スタック（立ち往生）したら、タイヤの下に石や木などをあてがい脱出するか、前進・後退をくり返し慣性を利用して脱出します。また、ぬかるみがひどいときはタイヤチェーンを利用するのも効果的です。

●急坂路を登るときは、登る前にあらかじめ路面の状態を確かめ、凹凸の少ないところを選びます。登りはじめと終わりはなだらかな斜面を選びます。

●急坂路を降りるときは、降りる前にあらかじめ路面の状態を確かめ、斜度にあった変速ギヤを選びます。降りる途中での変速は避けてください。

■渡河について

●4WD 車といえども水中走行に対しては万全ではありません。やむを得ず渡河する場合は次の事項を厳守してください。

・水中走行する前にあらかじめ河川の深さ・地形などを確かめてください
・すべてのドア・ドアガラス・リヤクォーターガラスなどが閉まっていることを確認してください。
・河川進入時は最徐行（5km/h 以下）してください
・河川に対し、直角または下流方向へ横断してください
・渡河途中での変速操作は避け、一気に

渡りきってください
・流れが急な場合は渡河走行しないでください。

●渡河など水中走行したときは、次の項目を必ず点検し、メンテナンスを行ってください。
・ブレーキの効き具合
・泥水の中を走行したあとは、ラジエーターに詰まった異物（泥や木の葉）を取り除く
・エンジン・トランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますのでオイルの交換が必要です）
・プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などのグリースアップ

⚠警告

■走行中の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください

●車両旋回中や車輪空転中は、トランスファーレバー操作を行わないでください

●タイヤが空転中に急激なブレーキ操作をしないでください

●乾燥した舗装路面および高速道路では必ず H2 で走行してください。H4 または L4 で走行すると、駆動系部品に悪影響を与え、駆動系のオイルもれや焼きつきなどにより、思わぬ事故につながることがあります。また、タイヤの早期摩耗や燃料消費量の悪化につながることがあります。

●H4 または L4 での急旋回は避けてください。急旋回した場合、タイトコーナーブレーキング現象（ブレーキをかけた状態と同じような現象）を起こし、運転しにくくなります。これは前・後輪の回転差のため起きる現象で、異常ではありませんが危険ですので避けてください。

●トランスファレバーはアクセルペダルを踏まずに H4 または L4 の位置に確実に操作してください。H4 または L4 の位置に入っていないと、動力が伝わらなかったり、坂道での駐車時にシフトレバーが P に入っていても車両が動き出すおそれがあります。また、異音が発生したり、故障の原因になることがあります。

■ハブを切りかえるときは

ハブを切りかえるときは必ず左右とも同じ位置に切りかえてください。左右とも同じ位置に切りかえないと、故障の原因となったり、走行に悪影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

■H4-L4 間の切りかえについて

●車両を完全に停止させてください。

●トランスファーレバーの操作中は、シフトレバーを N 以外に入れた状態でアクセルペダルを踏んだりしないでください。ギヤ鳴りが発生し故障の原因になります。

デフロック

デフロックは、すべりやすい路面や凹凸のある路面でタイヤが空転するときにのみ使用する緊急脱出用の装置です。

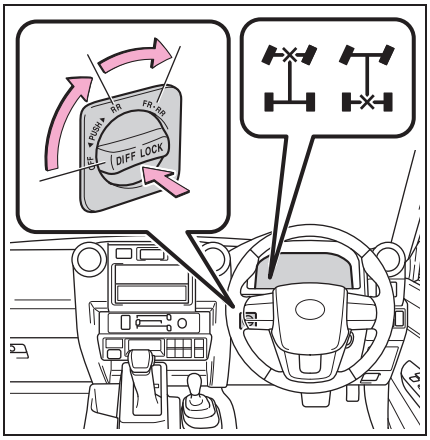
トランスファーレバーを L4 にしても脱出できないときに合わせて使用します。

デフロックスイッチ

1 車輪の空転を止める
2 トランスファーレバーを L4 の位置にする
3 デフロックスイッチを押しながら “RR” または “FR・RR” の位置にまわす
4 アクセルペダルをゆっくり踏み込む

スイッチをまわすとデフロック作動表示灯が数秒間点滅し、デフロックが完了すると表示灯が点灯にかわります。

表示灯が点灯したらシステムが使用できます。



デフロックの状態	スイッチの状態	作動表示灯
OFF	“OFF”	—
リヤデフロック ON 状態	“RR”	
フロント / リヤデフロック ON 状態	“FR・RR”	

5 脱出できたら、デフロックスイッチをただちに “OFF” の位置に戻してデフロック状態を解除する

知識

■デフロック状態自動解除機能

トランスファーレバーを H2 にするとデフロック状態が解除されますが、走行を続けるときはデフロックスイッチを “OFF” の位置に戻してください

■デフロック使用後は

通常走行する前にデフロックスイッチが “OFF” の位置にあり、作動表示灯、スリップ表示灯および ABS 警告灯が消灯したことを確認してください。

■デフロック作動表示灯について

次のときはデフロック作動表示灯が点滅し、デフロックは作動しません。

- 車速が約 8km/h 以上でスイッチ操作したとき
- 2WD のとき

■デフロック状態のときは

デフロック状態のときは、次のシステムが使用できません。

- ABS
- ブレーキアシスト
- VSC

●ダウンヒルアシストコントロールシステム

●TRC ／アクティブ TRC※

※ デフロック状態のとき

⚠ 警告

■デフロックを使用するにあたって

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●一般走行中に使用しない

・ デフロックを使用すると、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

・ 直進性が非常に強くなるため、舗装路では非常に曲がりにくくなります。とくにフロント / リヤデフロックを使用するとハンドルが切れなくなるおそれがあります。

・ 雪や氷の路面では安定した旋回ができなくなります。

・ 片側のタイヤのみがすべりやすい路面にある場合、減速時や加速時に車両の向きが急にかわりやすくなります。

●空転が止まるまで使用しない

●デフロック状態では、車速約 8km/h 以上で走行しない

●デフロックの使用後はすぐにスイッチを OFF にし、デフロック状態のまま走行しない

ダウンヒルアシストコントロールシステム

急な下り坂を一定の低速度で走行することができます。

システムはトランスファーレバーが L4 または H4 で、ブレーキペダルとアクセルペダルを操作しておらず、かつ車速が 30km/h 以下のときに使用できます。

⚠ 警告

■ダウンヒルアシストコントロールシステムを使うときは

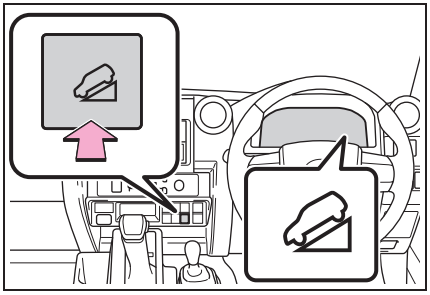
ダウンヒルアシストコントロールシステムを過信しないでください。車両性能の限界を高めるためのものではないので、常に路面状況をよく確認した上で、安全運転を心がけてください。

ダウンヒルアシストコントロールシステムを使用するときは

DAC スイッチを押す。

ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯すれば作動可能状態です。

システムが作動しているときはスリップ表示灯が点滅します。このとき制動灯とハイマウントストップランプが点灯します。また、作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。



ダウンヒルアシストコントロールシステムの解除

DAC スイッチをもう一度押す。

ダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、解除されると消灯します。

表示灯が点滅している最中はシステムは作動しません。システムを作動させたいときは、もう一度スイッチを押します。

知識

■ダウンヒルアシストコントロールシステムを使用するときは

ダウンヒルアシストコントロールシステムはシフトレバーが P または N 以外のときに作動しますが、システムの効果を十分に発揮するために、前進時は M モードの 1 または 2 レンジにすることをおすすめします。

■ダウンヒルアシストコントロールシステムが使用できないとき

●トランスファーが H2 のとき

●リヤデフロックを使用しているとき

■ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅したとき

●次の場合は、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、システムが作動しません。

・トランスファーレバーが L4 または H4 以外のとき
・リヤデフロックを使用しているとき
・シフトレバーが P にあるとき
・車速が約 30km/h をこえたとき
・ブレーキシステムが異常過熱したとき

●次の場合は、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅しますが、システムは作動します。

・シフトレバーが N にあるとき

ダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅します。

■長時間の使用について

ダウンヒルアシストコントロールシステムが長時間作動すると、ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り機能が自動的に解除されます。

この場合、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、TRC OFF 表示灯が点灯します。（通常走行は可能です）しばらくして、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯にかわり、TRC OFF 表示灯が消えればシステムが使用可能となります。

■作動音や振動について

●エンジン始動時や発進直後に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■システムに異常があるときは

次の場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●エンジンスイッチを“ON”にしてもダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯しない

●DAC スイッチを押しても、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯しない

●スリップ表示灯が点灯する

⚠警告

■正しく作動しないおそれのある状況

次の路面を走行する場合、車両を一定の低速度に維持できないことがあり、乗員が重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●泥、砂利の道路などのすべりやすい路面

●凍結路

●未舗装路

排出ガス浄化装置（DPF）

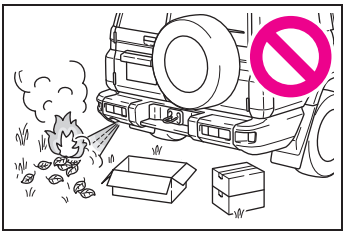
排出ガス浄化装置内のフィルターに捕集したススが一定量堆積すると、自動的にススを燃焼（再生）処理します。

⚠警告

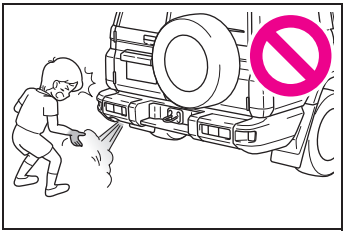
■ススの燃焼（再生）処理中は

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、高温になった排気管・排気ガスによりやけどなどの重大な傷害を受けたり、火災などが発生するおそれがあり危険です。

●燃えやすいものや乾いた草などの近くに車を停車しない



●排気管周辺に人がいないことを確認する



●車庫内など囲まれた場所ではススの燃焼（再生）処理を行わない

●燃焼処理中は排気管・排気ガスにふれない

⚠ 注意

■排出ガス浄化装置の故障を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、排出ガス浄化装置やエンジンなどの損傷につながるおそれがあります。

- マルチインフォメーションディスプレイに “DPF 再生不可　販売店で点検してください” と表示されたまま長時間走行しない
- 指定以外の燃料を補給しない
- 指定の規格に相当する品質以外のエンジンオイルを使用しない
- 排気管の改造をしない
- 排気管の腐食や亀裂、異音の発生などがないか定期的に点検する
  異常が発見された場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

燃焼（再生）処理について

- 一般走行では数百km※ 走行するごとに、自動で捕集したススの燃焼処理が行われます。自動で燃焼処理が行われているときは、マルチインフォメーションディスプレイに “DPF 再生中” が表示されます。
- ススが規定量以上になったとき、燃焼処理を行うことができます。(→P.149)

※ 気候や走行状況等により異なります。

排出ガス浄化装置について

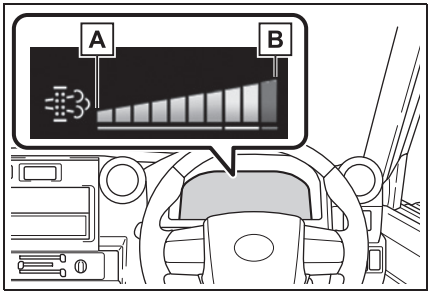
排出ガス浄化装置には、次のような特徴があります。

- 燃焼処理中はアイドリング回転数が上がる
- 排気ガスの臭いが従来のディーゼル車とは異なる
- 始動時や燃焼処理中に、排気管から白い煙（水蒸気）が出る場合がある
- 燃焼処理中は作動音（シューという音）が出る場合がある
- 燃焼処理中は加速が悪くなる場合がある

排ガス浄化装置堆積モニターについて

マルチインフォメーションディスプレイ内の表示でススの堆積量を確認することができます。

排出ガス浄化スイッチを押したとき、または警告メッセージと一緒に表示されます。表示される情報は、参考としてご利用ください。



A 少ない

B 多い

排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたときは

- マルチインフォメーションディスプレイに “DPF 再生不十分

取扱書を確認ください” と表示されたときは、次の手順で燃焼処理を行ってください。

▶ 走行して燃焼処理を行う場合

次の運転手順を推奨します。※1

・ 継続運転（例：時速 60km で 20 ～ 30 分間）
・ 短い距離の走行を回避、または継続運転（長時間エンジンをかけたまま）

燃焼（再生）処理の運転を行う前にエンジンが暖まっていることを確認してください。エンジンが冷えているときは、シフトダウンしてエンジン回転数を上げることでエンジンを暖めてください。※2

燃焼（再生）処理が終了すると、マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消えます。運転の状況（渋滞など）によってはススがさらに堆積し、警告メッセージが消えないことがあります。運転後も警告メッセージが消えないときは、スイッチ操作で燃焼処理を行ってください。

※1走行時は道路交通法に従い、天候、路面状況、地形、交通状況を考慮し、十分に注意してください。

※2状況により、エンジン回転数が 3000rpm になるまでシフトダウンする必要があります。エンジン冷却水、または排出ガスの温度が低いと、燃焼（再生）処理に時間がかかったり、燃焼（再生）処理ができなかったりする場合があります。

▶ スイッチを操作して燃焼処理を行う場合

1 車を安全な場所に停車する

2 パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする

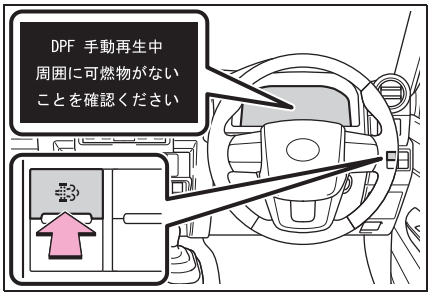
エンジンは停止しないでください。

また、排気管の周辺に可燃物等がないことを確認してください。（→P.148）

エンジンが暖まっていることを確認してください。エンジンが冷えているときは、アクセルペダルを踏み込んでエンジンを暖めてください。※3

3 排出ガス浄化スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、アイドリング回転数が上がります。



燃焼（再生）処理が終了するまでに、約 15 ～ 40 分 ※4 程度の時間が必要です。

燃焼（再生）処理が終了すると、マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消え、アイドリング回転数がもとにもどります。

※1走行時は道路交通法に従い、天候、路面状況、地形、交通状況を考慮し、十分に注意してください。

※2状況により、エンジン回転数が 3000rpm になるまでシフトダウンする必要があります。エンジン冷却水、または排出ガスの温度が低いと、燃焼（再生）処理に時間がかかったり、燃焼（再生）処理ができなかったりする場合があります。

※3状況により、エンジン回転数が 3000rpm になるまでアクセルペダルを踏み込む必要があります。エンジン冷却水、または排出ガスの温度が低

いと、燃焼（再生）処理に時間がかかったり、燃焼（再生）処理ができなかったりする場合があります。

※4燃焼（再生）に必要な時間は、外気温により異なります。また、排出ガス浄化スイッチを押してから 10 分後のエンジン回転数が約 2000rpm のときは、排気ガスの温度が低い状態です。その場合は、アクセルペダルを踏み込んで、しばらくのあいだ約 3000rpm までエンジン回転数を上げてください。

- マルチインフォメーションディスプレイに “DPF 再生不十分 取扱書を確認し手動再生を実施ください” と表示されたときは、スイッチ操作で燃焼処理を行ってください。（→P.149）
- マルチインフォメーションディスプレイに “DPF 再生不可 販売店で点検してください” と表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■燃焼処理について

- 排出ガス浄化スイッチを押したあとは、アクセルペダルを踏まないでください。ペダルを踏むと処理が中断されます。処理が中断されてしまった場合は、すみやかに燃焼処理をやり直してください。
- 燃焼（再生）処理が終了した後は、排気管をきれいにするために数回空ぶかしをしてください。
- 走行直後など排気管の温度が高いときに行うと、エンジンが冷えているときよりも早く処理が終了します。

■エンジンオイルについて

必ず指定の規格に相当する品質のオイルをご使用ください。（→P.240）

■排出ガス浄化装置の警告メッセージについて

走行距離が短い運転が連続したときや、ひんぱんなアイドリングストップを行った場合などに、通常より早く排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示される場合があります。

注意

■排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたとき

排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたまま走行を続けると、エンジン警告灯が点灯します※。そのまま放置すると、排出ガス浄化装置やエンジンが損傷するおそれがあるため、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ このときは、排出ガス浄化スイッチが機能しなくなります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面や険しいオフロードでの発進時や加速時に生じる車輪の空転を 4 輪別々に抑制すると共に車両の方向安定性と駆動力を確保します。

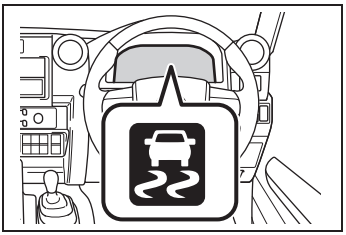
■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

知識

■ABS・VSC・TRC ／アクティブ TRC が作動しているとき

ABS・VSC・TRC ／アクティブ TRC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

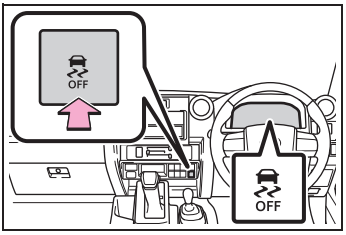


■TRC／アクティブTRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC ／アクティブ TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、VSC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC ／アクティブ TRC を停止するには VSC OFF スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。



■TRC ／アクティブ TRC・VSC を停止するには

TRC ／アクティブ TRC・VSC を停止するには、停車時に VSC OFF スイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました ” と表示されます。※

もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P.122)

■VSC OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC ／アクティブ TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

●エンジンスイッチが ON

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトレバーをPまたはNの位置にした

●アクセルペダルを踏んだ

●ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

●エンジンスイッチが OFF

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC ／アクティブ TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後や、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■TRC ／アクティブ TRC・VSC の自動復帰について

TRC ／アクティブ TRC・VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

●エンジンスイッチを OFF にしたとき

●(TRC ／アクティブ TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき

ただし、TRC ／アクティブ TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■長時間の使用について

ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り、TRC OFF 表示灯が点灯するかマルチインフォーメーションディスプレイに “TRC Off しました ” と表示され、TRC ／アクティブ

TRC とヒルスタートアシストコントロールが一時的に作動出来なくなります。この場合、速やかに安全な場所に停車して、表示が消えるまでブレーキシステムを十分に冷却してください。（この間の通常走行は可能です）

しばらくして、TRC OFF 表示灯が消えれば、TRC ／アクティブ TRC とヒルスタートアシストコントロールが作動可能となります。

■衝突時の急加速抑制について

●次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。
・車速が約 60km/h 以下のとき
・SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
・衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
・アクセルペダルを早く強く踏み込んだ※あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを早く強く踏み込んだ※とき

※アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

●次のような状況では衝突していなくても、システムが作動する場合があります。
・縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
・深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
・ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

●アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

⚠警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC ／アクティブ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC ／アクティブ TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC ／アクティブ TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC ／アクティブ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC ／アクティブ TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC ／アクティブ TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC ／アクティブ TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
（→P.243）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC ／アクティブ TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■トレーラーがふらつくときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ハンドルをまっすぐ、しっかりと握ってください。ハンドルを操作してトレーラーのふらつきを抑えようとしないでください。
- アクセルペダルから急に足を離さず、徐々に離して速度を落としてください。速度を上げないでください。ブレーキを掛けないでください。

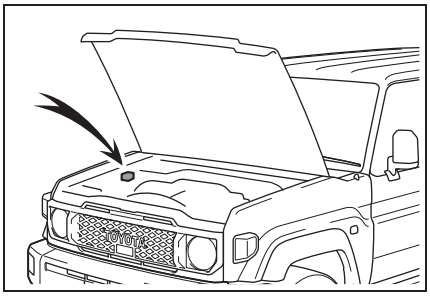
■衝突時の急加速抑制

- 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

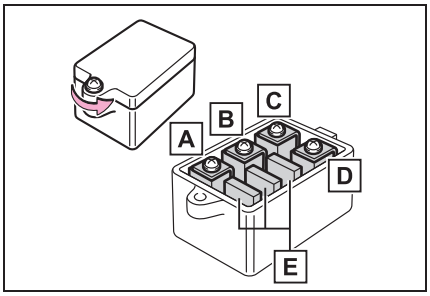
アクセサリコネクタ

アクセサリコネクタは、各種電装品の電源としてお使いください。

位置



アクセサリコネクタ



A 常時通電端子（+）

B エンジンスイッチ “ON” 時通電端子（+）

C エンジンスイッチ “ACC” 時通電端子（+）

D アース端子（−）

E ヒューズ

⚠警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやアクセサリコネクタを改造しないでください。
- アクセサリコネクタの消費電力合計は 240W 以下（DC12V で最大電流 20A 以下）になるようにしてください。
- アクセサリコネクタの通電端子に水などがかかったりしないように常時フタを閉めておいてください。
- 通電端子に接続してある電線が、隣接する端子に接触しないようにしてください。
- 各種電装品を取りつける際は、通電端子の緩みなきよう締め付けてください。

⚠注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンを停止した状態でアクセサリコネクタを長時間使用しないでください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

各端子（+）とアース端子（−）間の最大電流（最大消費電力）は下記の容量をこえないようにしてください。

- 常時通電端子：DC12V/11A（132W）

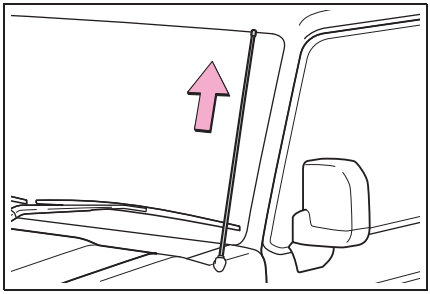
⚠ 注意

- エンジンスイッチ “ON” 時通電端子：DC12V/6A（72W）
- エンジンスイッチ “ACC” 時通電端子：DC12V/6A（72W）

アンテナ

ラジオを使用するときは

ラジオ使用時は、いっぱいまで引き出してください。



⚠ 注意

■アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき
- 自動洗車機で洗車するとき

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備について

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液
・ 燃料

● バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。
タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.189）

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●後 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

●取り付け後0.5 ～ 1.0km走行したら締め直しを行う

■燃料について

軽油は外気温が低温になると凍結し、燃料配管のつまりなどの故障の原因となります。寒冷地へ行くときは、現地に着くまでに燃料残量を半分以下にしておき、現地に着いたら寒冷地用燃料を補給してください。

使用燃料	使用限界温度の目安※
JIS 2 号軽油	− 5 ℃
JIS 3 号軽油	− 12 ℃
JIS 特 3 号軽油	− 19 ℃

※ 環境や使用状況により異なります。

⚠ 警告

■冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用する

●摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

⚠ 警告

■タイヤチェーンを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用しない

⚠ 注意

■タイヤチェーンの使用について

- この車両に適合したトヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
  なお、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげになるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- アルミホイールにタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷が付くことがあります。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

⚠ 注意

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め※1をしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※2を確認してください。

※1輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※2ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

室内装備・機能 5

5-1. エアコンの使い方

エアコン 162

リヤヒーター 166

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 167

5-3. 収納装備

収納装備一覧 169

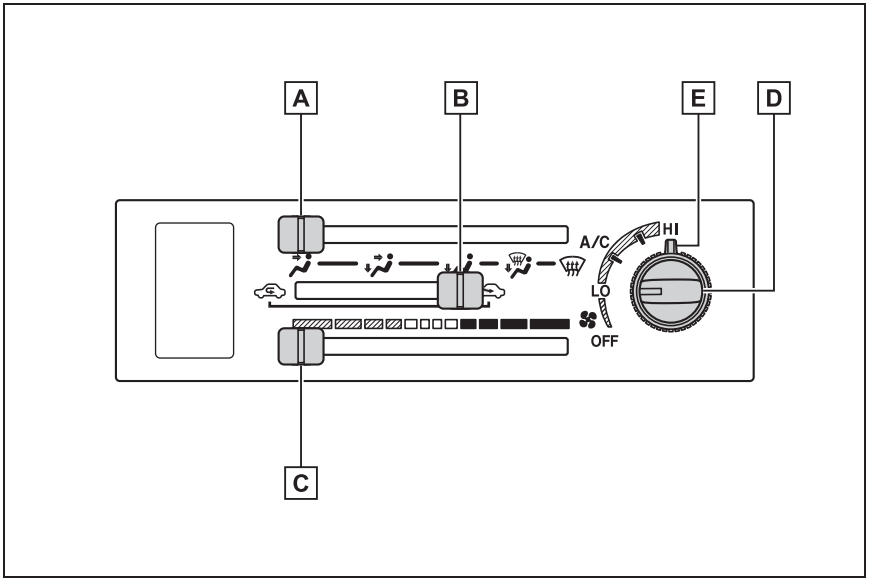
ラゲージルーム内装備 173

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 174

エアコン

エアコン操作スイッチについて



A 吹き出し口切りかえレバー

B 外気導入・内気循環切りかえレバー

C 温度調整レバー

D ファン調整スイッチ

E エアコンスイッチ

■ エアコン（冷房・除湿機能）の ON・OFF を切りかえるには

エアコンスイッチを OFF 以外の位置にするとエアコンが作動する

ファン調整スイッチが作動中のときエアコンを作動させることができます

■ 温度をかえるには

温度調整レバーを右（暖）か左（冷）へ操作する

エアコンスイッチが OFF のときは送風または暖房で使用できます。

■ 風量をかえるには

ファン調整スイッチを右（増）か左（減）へまわす

送風を止めるときはスイッチを OFF の位置にしてください。

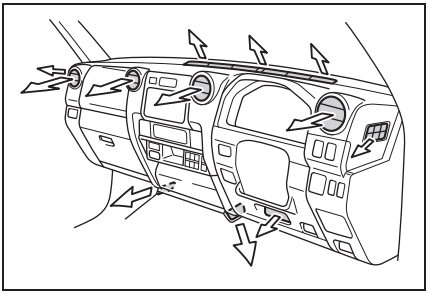
■ 吹き出し口を切りかえるには

吹き出し口切りかえレバーを操作して吹き出し口を選ぶ

■ 吹き出し口の位置

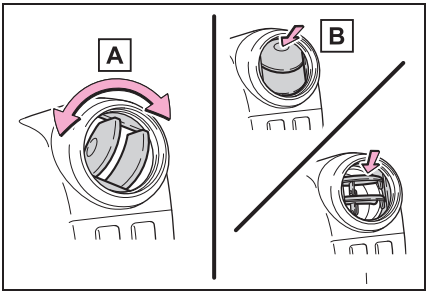
吹き出し口の切りかえ設定により、

風が出る位置や風量が変化します。

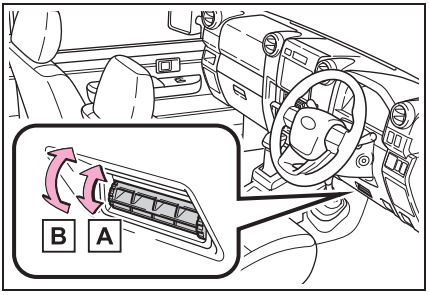


■ **風向きの調整と吹き出し口の開閉**

▶ インストルメントパネル上部



▶ インストルメントパネル下部



A 風向きの調整

B 吹き出し口の開閉

■ **内気循環／外気導入を切りかえるには**

外気導入・内気循環切りかえレバーを の位置にすると外気導入、 の位置にすると内気循環に切りかわります。

■ **フロントウインドウガラスの曇りを取る**

吹き出し口切りかえレバーを の位置 にし、外気導入・内気循環切りかえレバーを の位置にする

エアコンスイッチを OFF 以外にすると曇りが早く取れます。

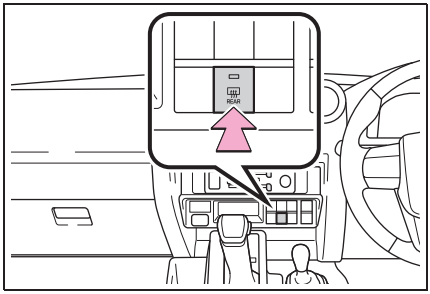
■ **リヤウインドウデフォッガー**

リヤウインドウガラスの曇りを取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガーが ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

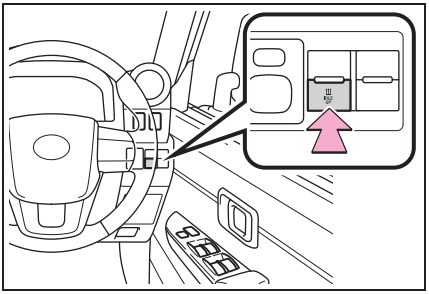


■ **アイドルアップ機能**

寒冷時に暖房効果を高めるためにご使用ください。

アイドルアップスイッチを押す

アイドル回転数が上がります。もう一度スイッチを押すと、もとのアイドル回転数にもどります。



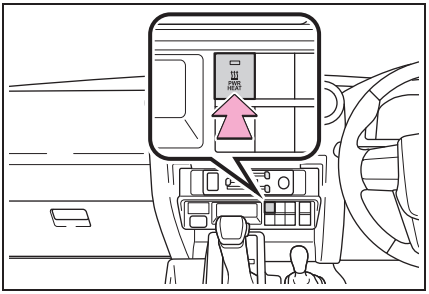
■ パワーヒーター

エンジン冷却水の温度が低いとき、寒冷時に車内を急速に暖めるとき、車内の暖房効果を保持するときに使用してください。

パワーヒーターを使用するには、パワーヒータースイッチを押す

パワーヒーターが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

スイッチを押した状態でエンジン停止後にエンジンを再始動すると、アイドル回転数が上がります。



知識

■ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、エアコンスイッチを OFF 以外にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- エアコンスイッチを OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

エアコンを ON にしても除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■PTC ヒーター

エンジン冷間時の暖房効果を高めます。次の条件をすべて満たすと、自動的に作動します。

- ファンが作動しているとき
- 最大暖房時
- エンジン冷間時
- 外気温が低いとき

■エアコンフィルターについて

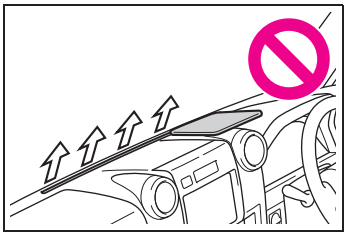
→P.192

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切りかえレバーを の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。



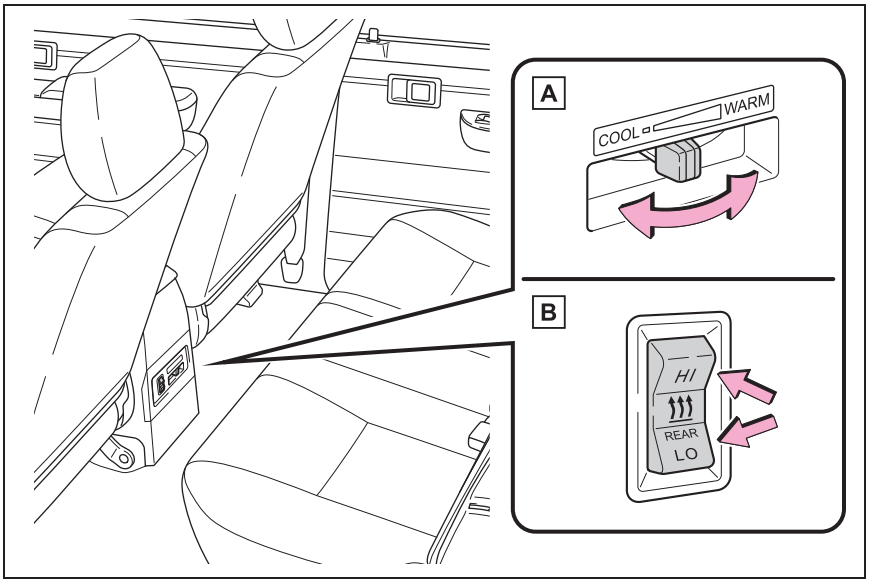
⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

リヤヒーター

リヤエアコン操作スイッチについて



A 温度調整レバー

B リヤヒータースイッチ

■ リヤヒーターを使用するには

スイッチの “HI”（強風）または “LO”（弱風）側を押す

使用しないときはスイッチを中立の位置にしておいてください。

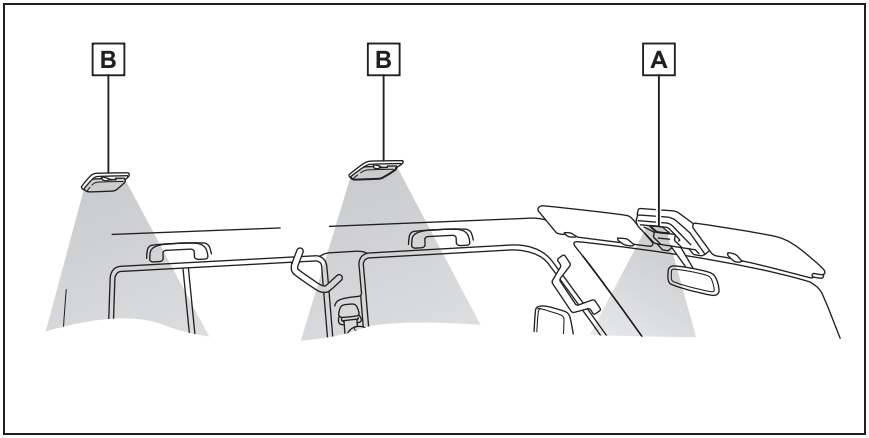
■ 温度を変更するときは

温度調整レバーを “WARM”（暖）か “COOL”（冷）へ操作する

使用しないときは温度調整レバーを “COOL” の位置にしておいてください。

室内灯一覧

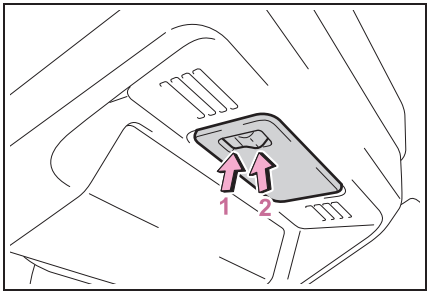
室内灯の位置



A フロントルームランプ（→P.167）

B リヤルームランプ（→P.167）

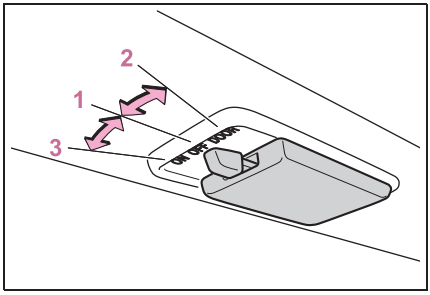
フロントルームランプ



1 ランプを点灯する

2 ランプを消灯する

リヤルームランプ



1 ランプを消灯する

2 ドアの開閉に連動して、ランプ点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

3 ランプを点灯する

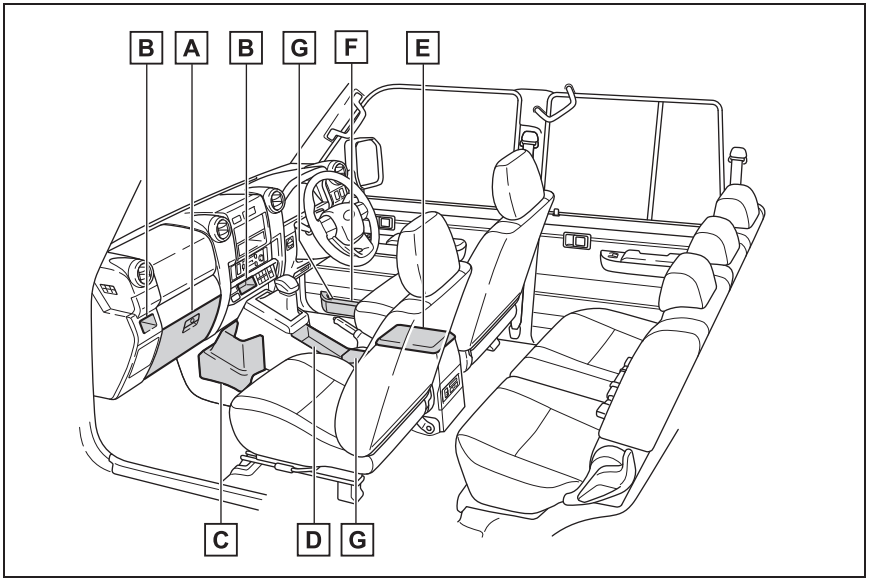
⚠注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間点灯しないでください。

収納装備一覧

収納装備の位置



A グローブボックス（→P.170）

B オープントレイ（→P.172）

C フロントコンソールボックス（→P.170）

D センターコンソールボックス（→P.170）

E リヤコンソールボックス（→P.170）

F ドアポケット（→P.172）

G ボトルホルダー（→P.172）

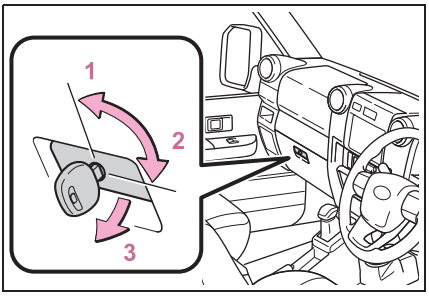
⚠ 警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックスを使うには



1 キーで解錠
2 キーで施錠
3 開ける（レバーを引き上げる）

知識

■施錠・解錠について

サブキー（灰色）ではグローブボックスの施錠・解錠はできません。

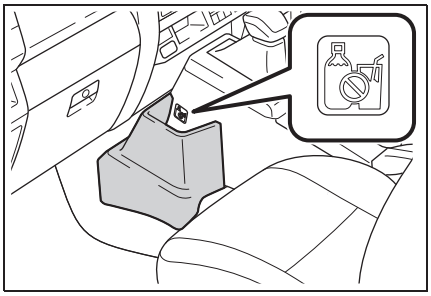
⚠ 警告

■グローブボックスを使用しないときは

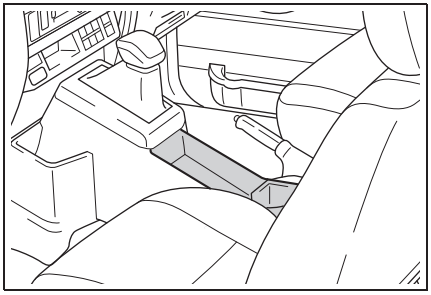
グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックスを使うには

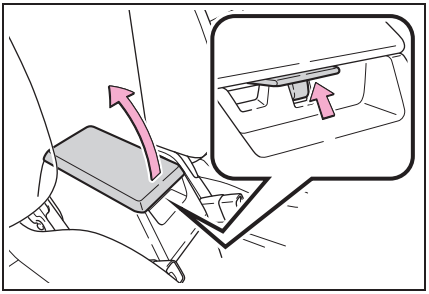
▶ フロントコンソールボックス



▶ センターコンソールボックス



▶ リヤコンソールボックス

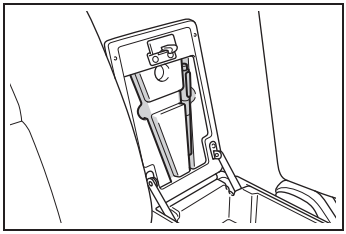


リヤコンソールボックスを開けるにはレバーを引く

知識

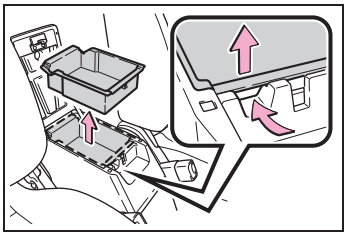
■ペンホルダーについて

リヤコンソールボックスのフタの裏側にペンホルダーがあります。



■中間トレイについて

ボックス内の中間トレイは取りはずすことができます。



⚠警告

■コンソールボックスを使用しないときは

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■コンソールボックスを開閉するときは

指などを挟まないよう注意してください。

■収納してはいけないもの（フロントコンソールボックス）

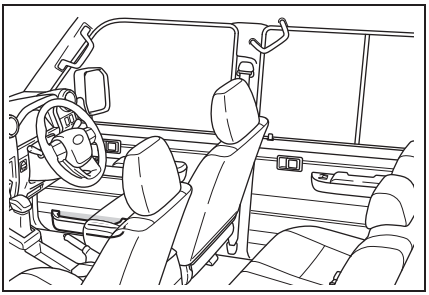
フロントコンソールボックスにものを入れるときは、次の注意事項を守ってください。

急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛びだし、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ドリンクホルダーとして、使用しないでください。
- ボックスの端よりも高くものを積み重ねないでください
- ボックスの端からはみ出してものを置かないでください

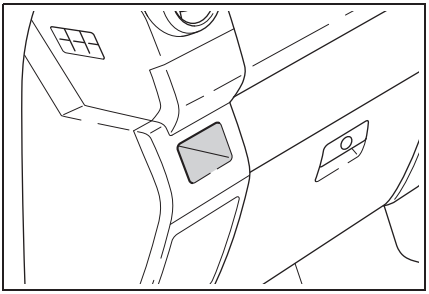
フロントコンソールボックスとインストルメントパネルとのあいだにはすき間があるため、ものを落とさないようご注意ください。

ドアポケット

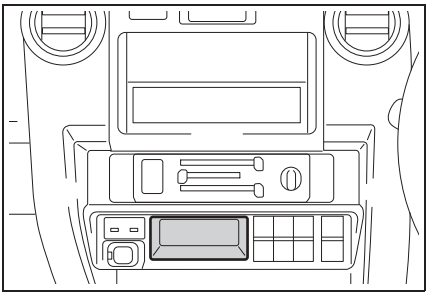


オープントレイ

▶ 助手席側



▶ センターパネル



⚠ 警告

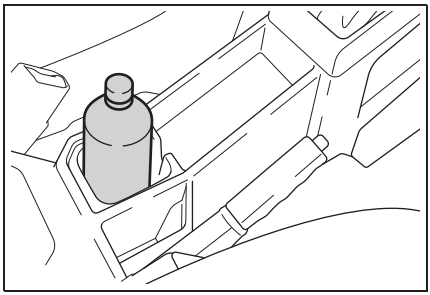
■オープントレイを使う時は

オープントレイには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。

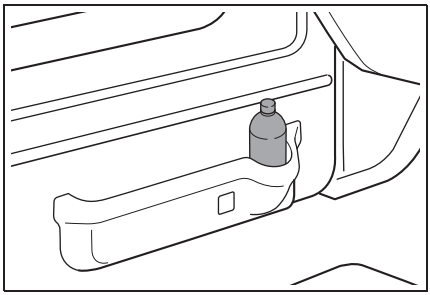
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ボトルホルダーを使うには

▶ センター



▶ ドア



知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

⚠ 警告

■収納してはいけないもの

センターボトルホルダー：カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。急ブレーキや事故により収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

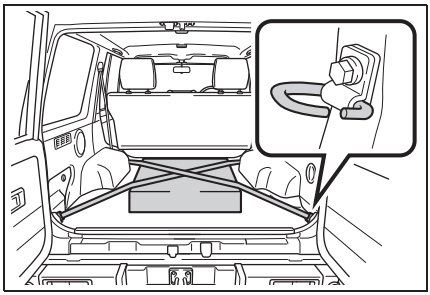
ドアボトルホルダー：ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

ラゲージルーム内装備

デッキフック

フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。



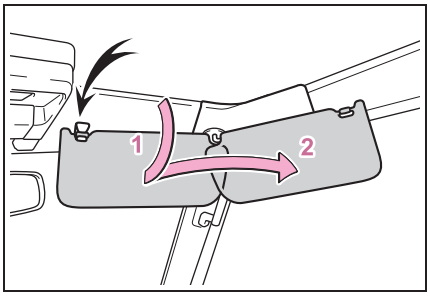
⚠ 警告

■デッキフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

その他の室内装備

サンバイザーを使うには

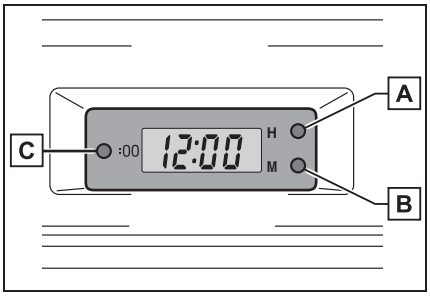


1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。



A “時” を調整する（H）

B “分” を調整する（M）

C “分” を 00 にする（:00）

（例）1:00 ～ 1:29 → 1:00
1:30 ～ 1:59 → 2:00

知識

■次のとき、時刻が表示されます。

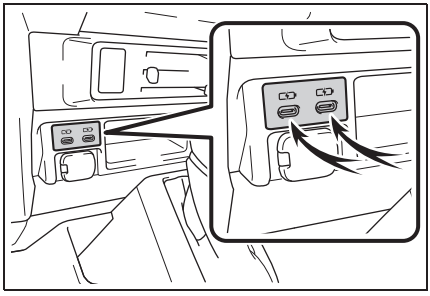
●エンジンスイッチが “ACC” または “ON” のとき、時刻が表示されます。

■バッテリー端子を脱着したとき

●時刻は自動で 1：00 にセットされます。

充電用 USB Type-C 端子

DC5V/3A（消費電力 15.75W）の電源としてお使いください。
この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。
また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。



知識

■充電用 USB Type-C 端子の作動条件

エンジンスイッチが "ACC" または "ON" のとき

■充電用 USB Type-C 端子が正常に働かないおそれのある状況

●DC5V/3A（消費電力 15.75W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき

●パソコンと通信を行う機器を接続したとき

●接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）

●炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

⚠ 注意

■充電用USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

●端子部に異物を入れないでください。

●水や液体をかけないでください。

●強い力や衝撃を加えないでください。

●分解や改造、取りはずしをしないでください。

■外部機器の損傷を防ぐために

●機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。

●機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

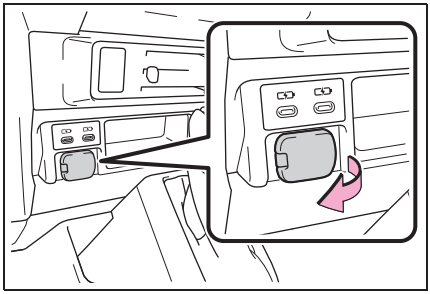
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、充電用USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

アクセサリーソケットを使うには

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

■作動条件

エンジンスイッチが "ACC" または "ON" のとき

⚠ 注意

■ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V/10A（消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

■ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

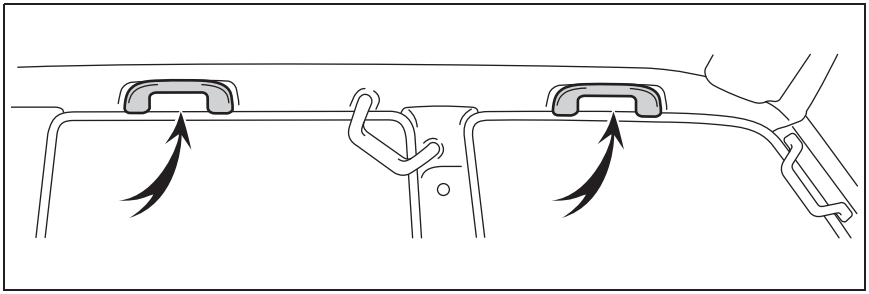
■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アシストグリップをを使うには

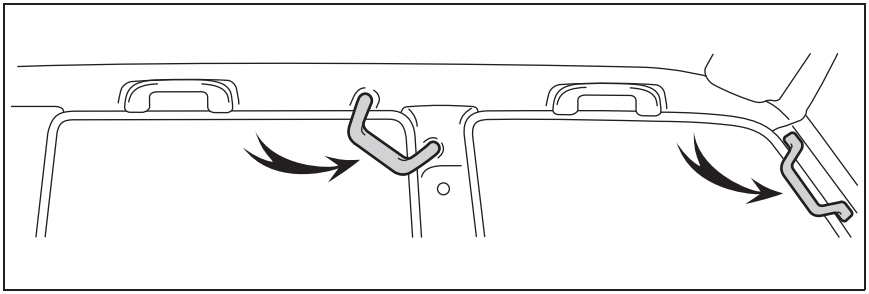
▶ 回転式

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



▶ 固定式

ピラーに取り付けられているアシストグリップは、乗降時などにお使いください。



⚠ 警告

■アシストグリップ（回転式）について

乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

⚠ 注意

■アシストグリップの破損を防ぐために

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 178

内装の手入れ 181

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 183

AdBlue®（尿素水）の補充 185

ウォッシャー液の補充 188

タイヤについて 189

タイヤ空気圧について 191

エアコンフィルターの清掃 192

ワイヤレスリモコンの電池交換 194

ヒューズの点検・交換 196

電球（バルブ）の交換 198

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーおよびアンテナを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ワイパーが格納位置にあることを確認してください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 自動洗車機に入れる前に、車両の給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■高圧洗浄機を使うとき

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。

近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■ホイール・ホイールキャップについて（マット塗装ホイール非装着車）

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・ 硬いブラシを使用しない
・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ホイール・ホイールキャップについて（マット塗装ホイール装着車）

マット塗装のホイール・ホイールキャップの場合はお手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

- 水洗いで早めに汚れを落としてください。
  汚れがひどい場合は、中性洗剤を薄めて使用してください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流し、柔らかい布で水滴をふき取ってください。

●スポンジまたは柔らかい布を用いて手洗いで汚れを落としてください。

●マット塗装の損傷や艶が出ることを防ぐために、次のことをお守りください。

・コーティング剤やワックスは使用しない
・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・タイヤクリーナやタイヤワックスを付着させない
・乾いた布やブラシ等で磨いたり、こすったりしない
・自動洗車機を使用する際は、ホイール専用ブラシでの洗浄を行わない
・高圧式スプレーガンやスチームクリーナは使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーおよびオーバーフェンダーについて

●研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

●リヤバンパーの上にスペアタイヤを搭載しているため、バンパーが経時的に汚れることがあります。タイヤカバー※を装着することで汚れを防止することができます。

※タイヤカバーはトヨタ販売店で購入することができます。

■メッキ部分のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

⚠警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。
やけどをするおそれがあります。

⚠注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

⚠注意

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■高圧洗車機を使うとき

●洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装備が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●レーダー専用カバー裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品

・ステアリング部品

・サスペンション部品

・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

車内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1 % にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

⚠ 警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。(→P.25)
  電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
  - シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
  - シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

⚠ 注意

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

● 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

● 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

合成皮革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりを取り除く

● 中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る

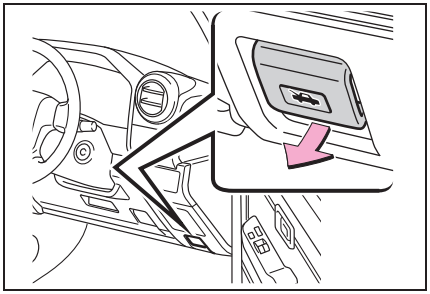
● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

ボンネット

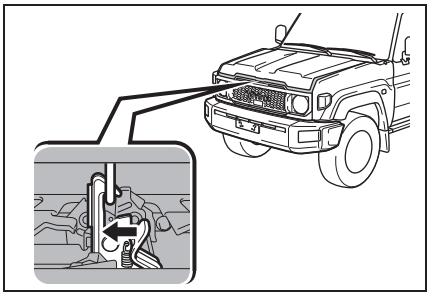
ボンネットを開けるには

1 ボンネット解除レバーを引く

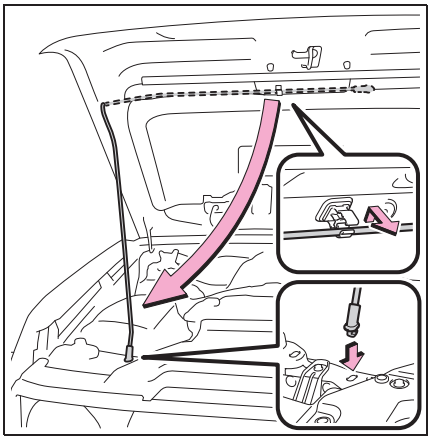
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを上に引いてフックをはずし、ボンネットを持ち上げる



3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



⚠ 警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

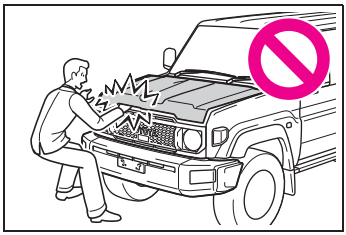
⚠ 警告

■ ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠ 注意

■ ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるとき

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ボンネットステーが差し込まれた状態でボンネットを閉めると、ボンネットが損傷するおそれがあります。
またボンネットを閉めるときは 20cm 以上の高さで落下させないでください、部品が破損するおそれがあります。

AdBlue®（尿素水）の補充

この車は排気ガス中の窒素酸化物を低減するために AdBlue® を使用しています。AdBlue® について、次のことにご留意ください。

- AdBlue® は走行に従って消費されます。
- AdBlue® の残量がなくなると、エンジンを再始動できなくなります。
- 補充する際は、トヨタ販売店で補充することをおすすめします。

走行可能距離について

AdBlue® の消費量は運転状況や走行環境などにより異なります。

AdBlue® の消費量が多くなると、AdBlue® の補給が必要になるまでの走行可能距離が短くなります。

走行可能距離		
短 ※1		長
←→		
［高負荷走行］	［通常走行］※2	［低負荷走行］
・アクセルを深く踏み込んでいるとき ・長い上り坂を走行しているとき ・排出ガス浄化装置が働いているとき		・短距離を走行するとき ・渋滞のとき

※1高地（標高が高いとき）や気温が低い時も、AdBlue® の消費量が増加します。

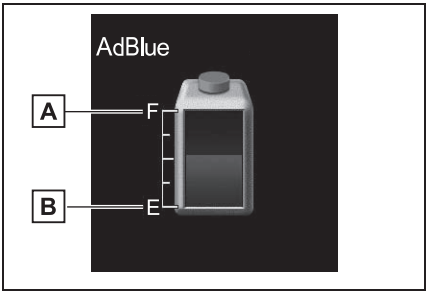
※2通常の走行では、約 500km 走行すると、1L の AdBlue® を消費します。また、最大まで補充した状態から約 10000km 走行すると、残量がなくなります。

AdBlue® 残量表示

マルチインフォメーションディスプレイ内の表示で AdBlue® 残量を確認することができます。

メーター操作スイッチ（→P.52）で

（車両情報）を選択してください。



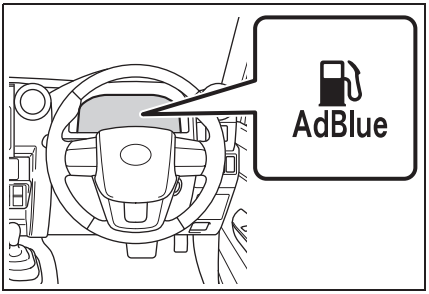
A “F”（多い）

B “E”（少ない）

AdBlue® の警告灯・警告メッセージ

AdBlue® の残量が少なくなると警告メッセージ（→P.216）と警告灯でお知らせします。

走行可能距離が約 2400km 以下になると警告灯が点灯し、警告メッセージが表示されます。



■ マルチインフォメーションディスプレイに AdBlue® に関する警告メッセージが表示されたとき

それぞれ、次のように対処してください。

警告メッセージ	対処方法
AdBlue が低下 2400km 以内に補充必要 取扱書を確認 ※1	AdBlue® をいっぱいまで補充してください。
あと 800km で 再始動不可 AdBlue 補充必要 取扱書を確認 ※1, 2	ただちに AdBlue® をいっぱいまで補充してください。表示されている距離をこえて走行すると、エンジンを再始動できなくなります。
エンジン再始動不可 AdBlue 補充必要 取扱書を確認 ※2	ただちに AdBlue® をいっぱいまで補充してください。 エンジンを停止させると、再始動できません。

※1 走行距離は、目安としてご利用ください。補充方法・運転状況・走行環境などにより、表示された走行可能距離と実際の走行距離とが異なる場合があります。（→P.185）

※2 警告メッセージに合わせてブザーが鳴ります。

⚠ 注意

■ AdBlue® の残量が少なくなったとき

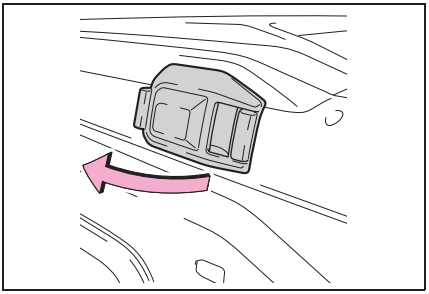
AdBlue® の残量がなくなると、エンジンを始動できなくなります。

残量がなくなる前に AdBlue® をいっぱいまで補充してください。
トヨタ販売店で補充することをおすすめします。

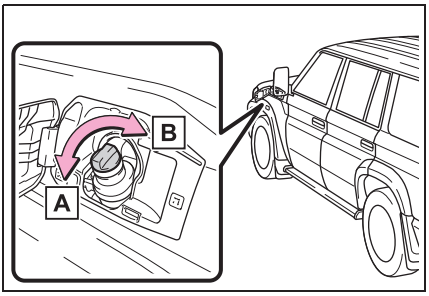
AdBlue® を補充するには

■ AdBlue® の補充

1 平坦な場所に駐車してエンジンスイッチを OFF にし、補給扉を開ける



2 補給口のキャップを開け、あふれないようゆっくりと AdBlue® をいっぱいまで補充する



A 開ける

B 閉める

キャップが “カチッ” と鳴るまで閉めてください。

3 補給扉を閉じる

補給扉がきちんと閉じていることを確認してください。

4 エンジンが始動することを確認する

警告灯・警告メッセージが消えたことを確認してください。

知識

■AdBlue® の補充について

AdBlue®（ISO 22241-1 に準拠したもの）を使用してください。

AdBlue® は、Verband der Automobilindustrie e.V.（VDA）の登録商標です。

排出ガス削減のために AdBlue® が必要な場合、AdBlue® を消費しない車両を使用することは関連法規に違反する可能性があります。

■AdBlue® を補充するとき

AdBlue® の補充後は、エンジンが始動するまでの時間が通常よりも数秒、長くなることがあります。

■AdBlue® タンクについて

タンク容量は 20.0 L です。

注意

■AdBlue® を補充するとき

AdBlue® を補充するときは次のことをお守りください。お守りいただかないと車両の部品や塗装などの損傷、また、異物混入による故障につながるおそれがあります。

- AdBlue® 以外の尿素水を補充しない
- AdBlue® が車両の塗装部分に付着してしまった場合は、すぐに水で洗い流す
- 補給口のキャップを落とさない
- 補給口のキャップを紛失しない
- 補給口のキャップ無しで走行しない

⚠ 注意

■ AdBlue® の保管について

AdBlue® を保管するときは次のことをお守りください。お守りいただかないと車両の部品や塗装の損傷、また、AdBlue® の成分が変質し異臭の発生につながるおそれがあります。

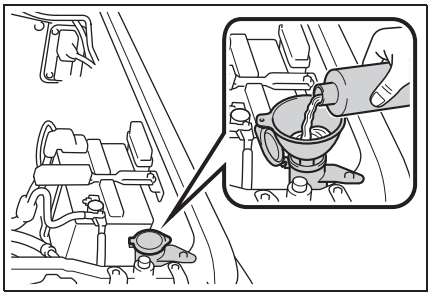
- AdBlue® を車内に放置しない
- AdBlue® の容器を密閉し、直射日光の当たらない、換気の良い冷暗所に保管する

ウォッシャー液の補充

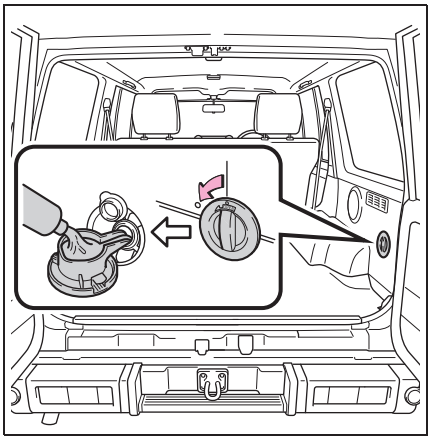
補充するには

液量を確認し、不足しているときは、キャップを開けてウォッシャー液を補充する。

▶ フロント



▶ リヤ



⚠ 警告

■ウォッシャー液を補充するとき（フロント）

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を10,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

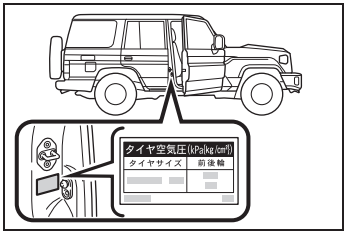
■タイヤ空気圧について

前輪：240kPa（2.4kg/cm^2）※

後輪：240kPa（2.4kg/cm^2）※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■タイヤ交換時の注意

ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。ナット部を締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

⚠注意

■走行中に空気もれが起こったら

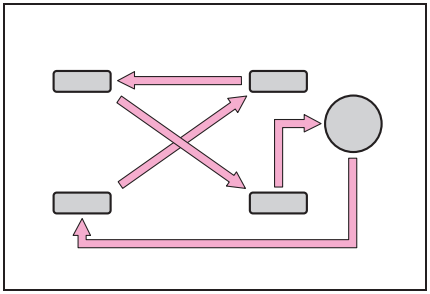
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。



タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。(→P.243)

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

⚠ 警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠ 注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

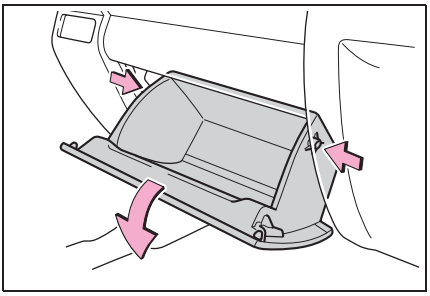
エアコンフィルターの清掃

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃してください。

清掃するには

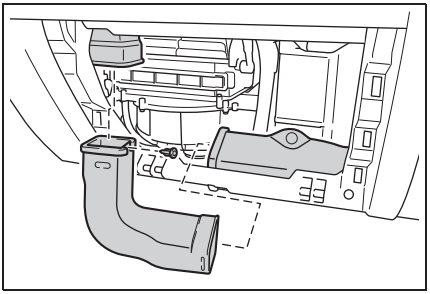
1 エンジンスイッチを “LOCK” にする

2 グローブボックスを開き、グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす



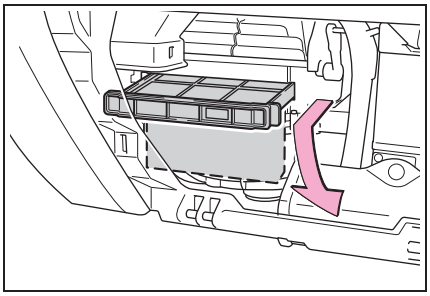
3 エアコンダクトのクリップをはずし、エアコンダクトを取りはずす

クリップの脱着方法（ P.193）



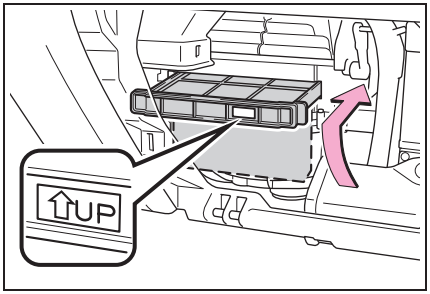
4 フィルターを取りはずして清掃する

水洗いするか、裏面からエアブローでほこりを取り除きます。



5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

「⇧UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの清掃について

エアコンを快適にお使いいただくために、フィルターを定期的に清掃してください。

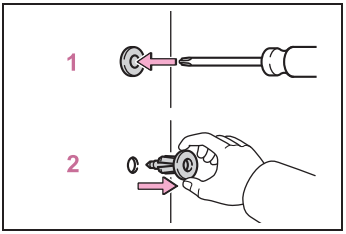
■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを清掃してください。

■エアコンダクトを取りはずすときは

エアコンダクトのクリップをはずしてからエアコンダクトを取りはずします。

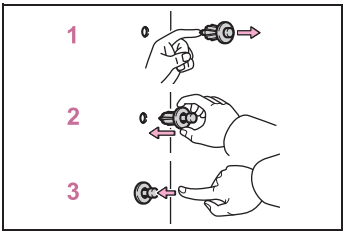
●クリップの取りはずし方



1 クリップの中心部分をドライバーなどの先のとがったもので押す

2 クリップを引き抜く

●クリップの取りつけ方



1 クリップの中心部分を押してクリップ頭部が出るようにする

2 クリップを差し込む

3 クリップの中心を押す

注意

■エアコンを使用するときの注意

●フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

●フィルターは水洗いするか、エアブローを使って清掃してください。ブラシなどでこすると、フィルターが損傷するおそれがあります。

ワイヤレスリモコンの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

知識

■ワイヤレスリモコンの電池が消耗しているとき

次のような状態になります。

●ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

事前に準備するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

● マイナスドライバー

● 小さいマイナスドライバー

● リチウム電池：CR2032

知識

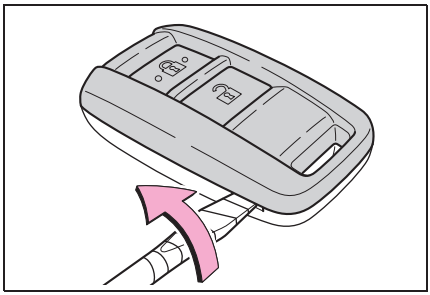
■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

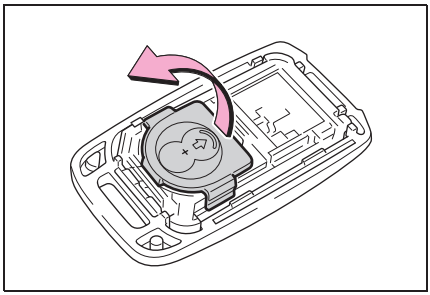
電池を交換するには

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

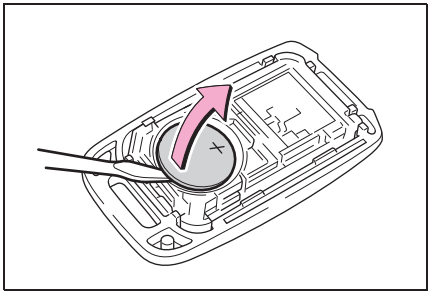


2 電池カバーをはずす



3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

⚠警告

■取りはずした電池と部品について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- ワイヤレスリモコンにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠注意

■電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

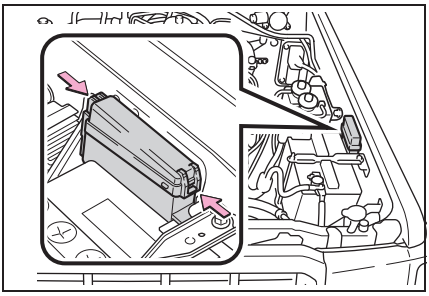
ヒューズの点検・交換をするには

1 エンジンスイッチを “LOCK” にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（バッテリー後方）

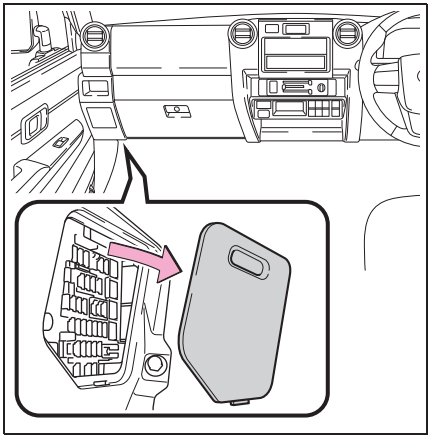
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



▶ エンジンルーム（アクセサリコネクタ）: P.156

▶ 助手席足元 (カウルサイドパネル)

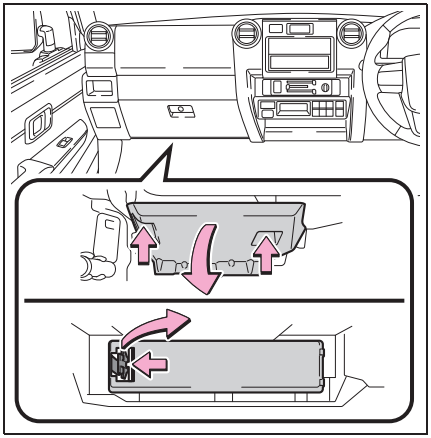
カバーを取りはずす



▶ 助手席足元 (インストルメントパネル)

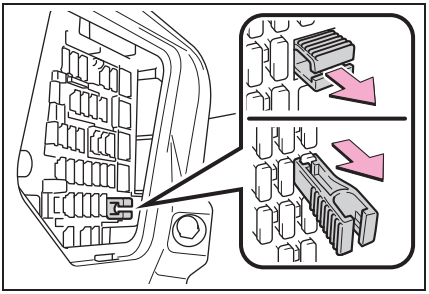
足元のカバーをとりはずし、ヒューズボックスのカバーをとりはずす

ヒューズボックスのカバーを取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。



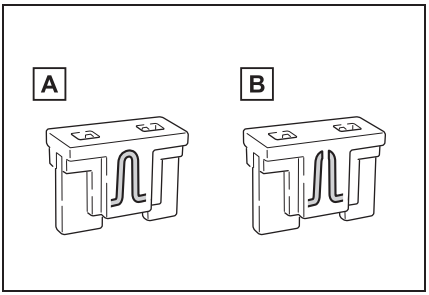
3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ

知識

■ヒューズを交換したあと

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P.198)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

⚠警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

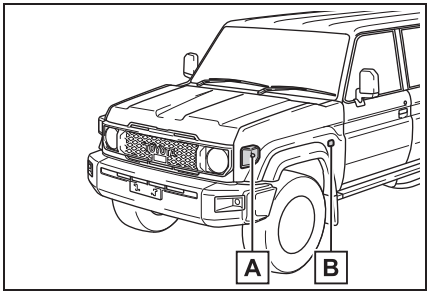
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P.244）

電球位置

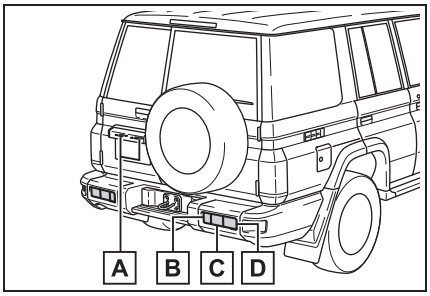
■ フロント



A フロント方向指示灯／非常点滅灯

B サイド方向指示灯／非常点滅灯

■ リヤ



A 番号灯

B 後退灯

C 制動灯／尾灯

D リヤ方向指示灯／非常点滅灯

■ トヨタ販売店で交換が必要なランプ

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ
- 車幅灯 /LED デイタイムランニングランプ
- フロントフォグランプ
- ハイマウントストップランプ

知識

■LED ランプについて

ヘッドランプ、車幅灯 /LED デイタイムランニングランプ、フォグランプ、ハイマウントストップランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

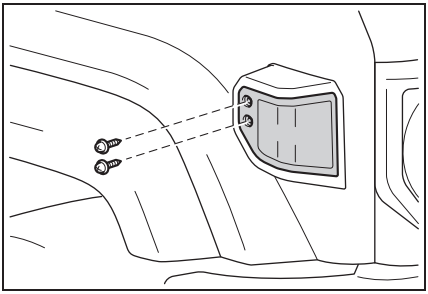
■電球（バルブ）を交換するとき

→P.197

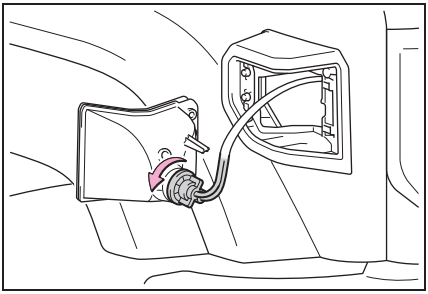
電球交換のしかた

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

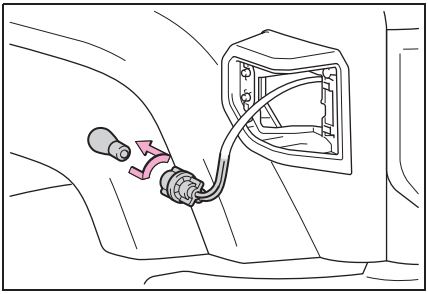
1 ネジ（2本）をはずす



2 ランプ本体の背面からソケットを取りはずす



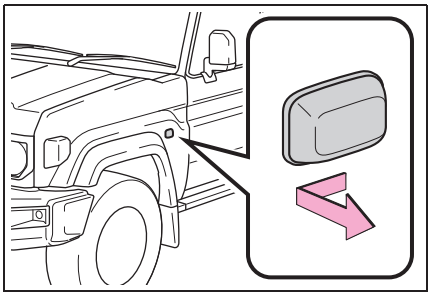
3 電球を取りはずす



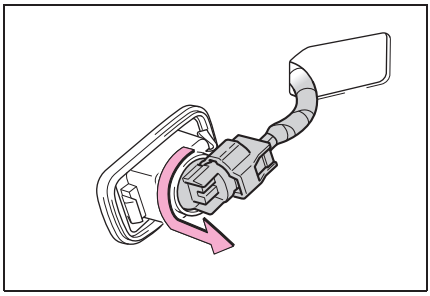
4 バルブを取り付けるときは、取りはずしたときの逆の手順で取り付ける

■ サイド方向指示灯／非常点滅灯

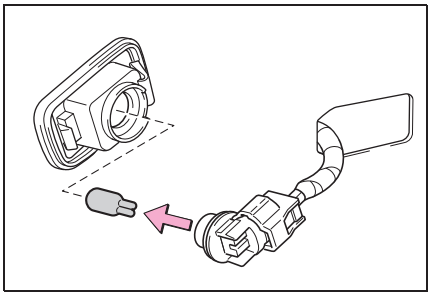
1 ランプ本体を前に押して取りはずす



2 ソケットを取りはずす



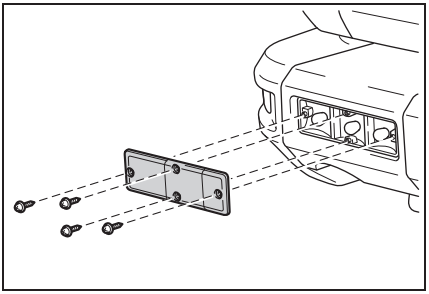
3 電球を取りはずす



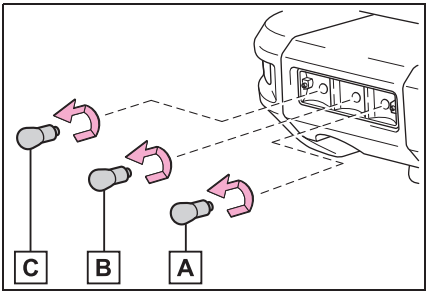
4 バルブを取り付けるときは、取りはずしたときの逆の手順で取り付ける

■ **制動灯／尾灯、リヤ方向指示灯／非常点滅灯、後退灯**

1 ネジ（4 本）をはずしてランプのレンズ部分を取りはずす



2 電球を取りはずす



A 後退灯

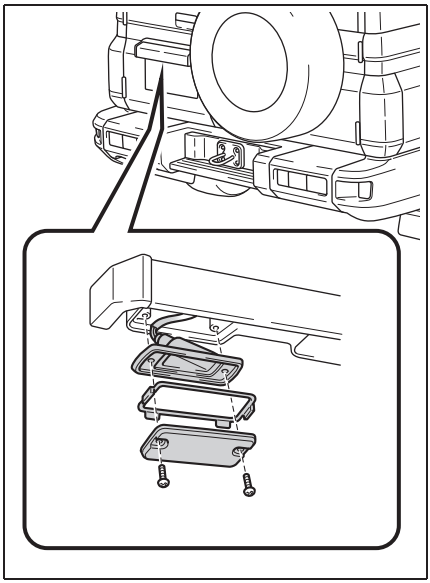
B 制動灯／尾灯

C リヤ方向指示灯／非常点滅灯

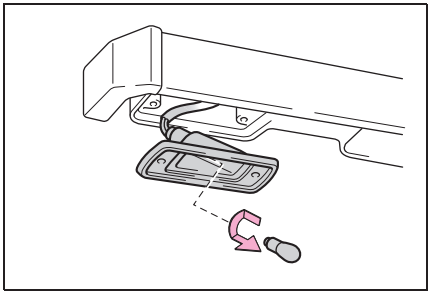
3 バルブを取り付けるときは、取りはずしたときの逆の手順で取り付ける

■ **番号灯**

1 ネジ（2本）をはずしてランプのレンズ部分を取りはずす



2 電球を取りはずす



3 バルブを取り付けるときは、取りはずしたときの逆の手順で取り付ける

⚠ 警告

■電球を交換するとき

●ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

⚠警告

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

●電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

●発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは 204
非常点滅灯（ハザードランプ） 205
発炎筒 205
車両を緊急停止するには 206
水没・冠水したときは 207
車中泊が必要なときは 208

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 209
警告灯がついたときは 213
警告メッセージが表示されたときは 218
パンクしたときは 222
エンジンがかからないときは 230
キーをなくしたときは 231
バッテリーがあがったときは 231
オーバーヒートしたときは 234
スタックしたときは 237

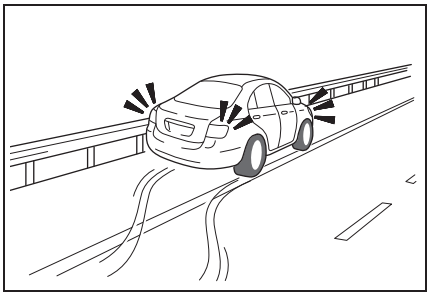
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.205）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車しする。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

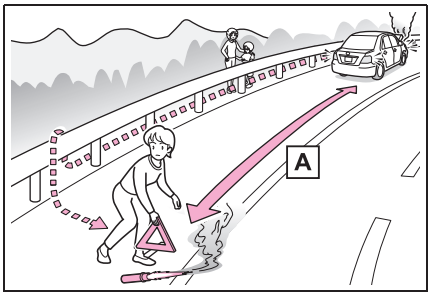
1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方（A）に発炎筒（→P.205）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。

・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

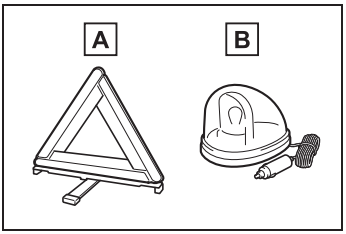
3 その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

●停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

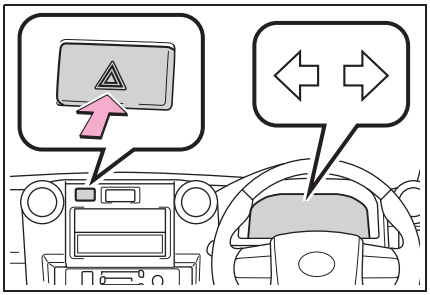
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

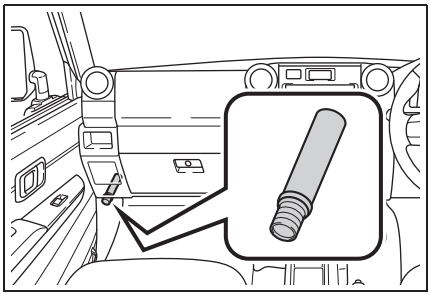
エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

発炎筒

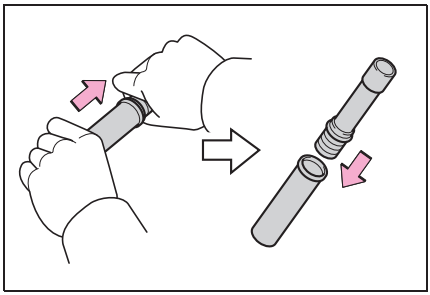
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

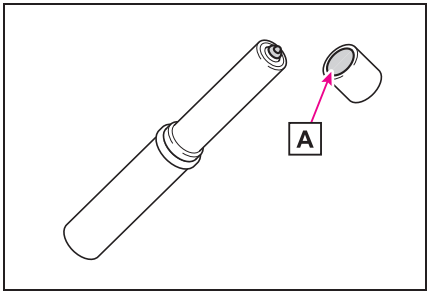


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

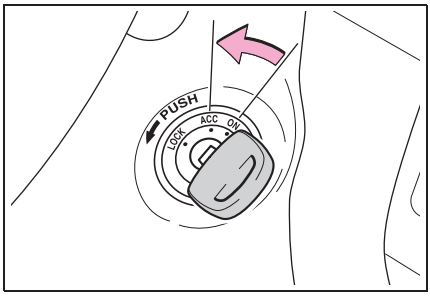
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを “ACC” にして、エンジンを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

- ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

●詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

⚠ 注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

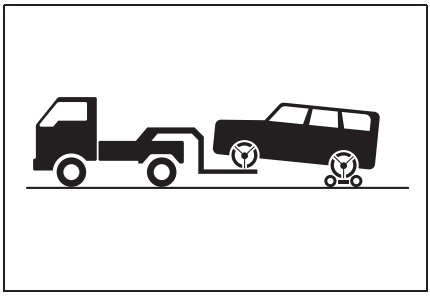
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

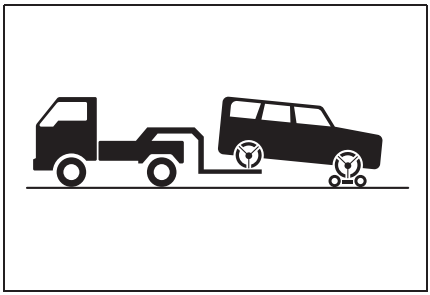
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

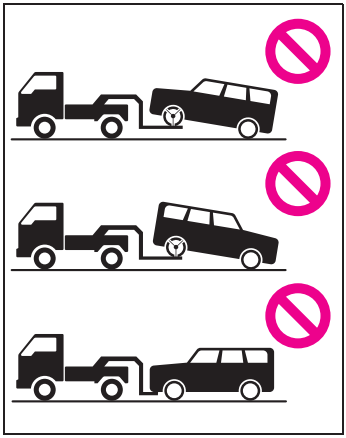
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■レッカー車でけん引するとき

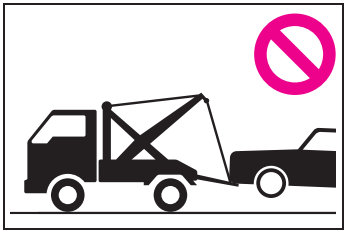
4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



⚠ 注意

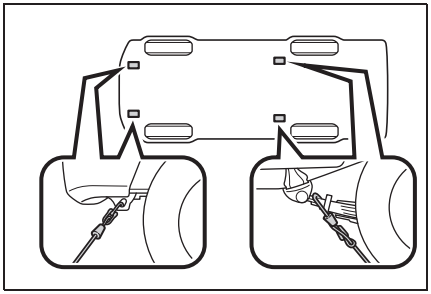
■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

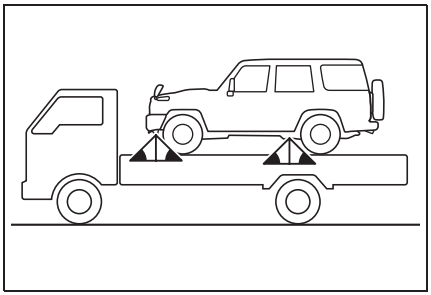


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する



⚠ 注意

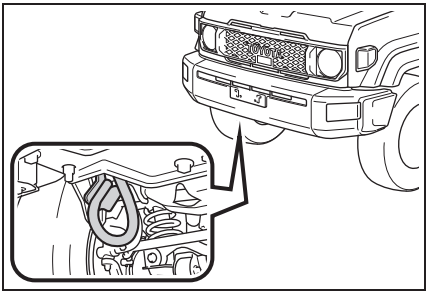
■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

他車にけん引してもらうとき

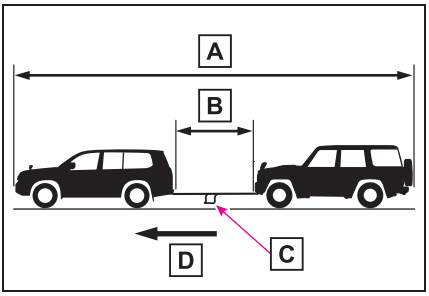
1 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。



2 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

3 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを”ON” にしてください。

4 トランスファーレバーが H2 の位置にあることを確認する

4WD 作動表示灯が消灯していることを確認してください。

5 左右のデュアルモードオートマチックロッキングハブが “AUTO” の位置にあることを確認する（→P.142）

4WD 走行時と反対方向に車両を 1m ほど移動させ、デュアルモードオートマチックロッキングハブをフリー状態にします。

6 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P.92

知識

■けん引フックの使用目的

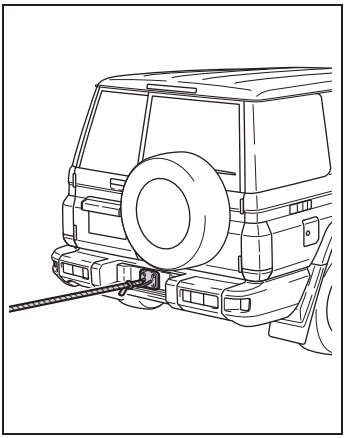
けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■リヤ側フックについて

このフックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用することができます。



⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●エンジンスイッチを"LOCK"にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

⚠ 注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■リヤ側フックについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

※ ブレーキ警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。
ブザーが鳴ったときは、ブレーキ液の不足が考えられます。

■ 充電警告灯※

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 高水温警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.234）に従ってください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 ●トランスミッション電子制御システムの異常 ●排出ガス浄化装置の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ SRS エアバッグ警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	SRS エアバッグシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ABS &ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** デフロック作動時も点灯します。 → P.145

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅または点灯）	警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.111, 220）** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 → P.122

■ LDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （橙色）	LDA（レーンディパーチャーアラート）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.126）**

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC システムの異常 ●TRC/ アクティブ TRC システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 ●ダウンヒルアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ フロントデフロック作動表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅）	表示灯が早く点滅した場合： フロントディファレンシャルロックシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ リヤデフロック作動表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
（点滅）	表示灯が早く点滅した場合： リヤディファレンシャルロックシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	パーキングブレーキがかかっているとき **→ パーキングブレーキを解除する** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h をこえたとき、警告ブザーが鳴ります。

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 21L 以下になった **→ 燃料を補給する**

■ AdBlue® 残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	AdBlue® の残量不足により再始動できなくなるおそれがある **→ AdBlue® を補充してください。（→P.187）** **トヨタ販売店で補充することをおすすめします。**

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ 半ドア警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	いずれかのドア、またはバックドアが確実に閉まっていない **→ 全ドア・バックドアを閉める**

※ 半ドア走行時警告ブザー：
いずれかのドアが確実に閉まっていない状態で走行し、車速が 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

■ オートマチックトランスミッションパーキング警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
A/T P	**→ トランスファーを H4 または L4 にする（→P.141）**

■ ペダル誤操作警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ドライブスタートコントロールの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

⚠ 警告

■警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

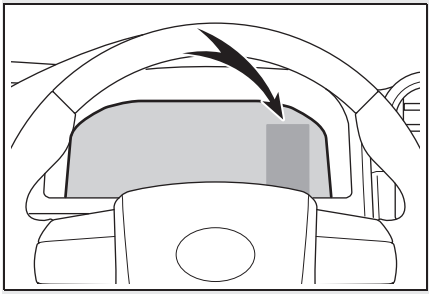
⚠ 警告

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告ブザー※	警告内容
―	あり	・走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。 ・車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
―	なし	・電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。 ・車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■各部の操作に関するメッセージが表示されたときは

●アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき

PCS（プリクラッシュセーフティ）の運転支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。
メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。

ドライブスタートコントロールが作動したときに、警告メッセージが表示されます（→P.220）。画面の指示に従って対処してください。

●各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された

部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

■取扱説明書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

●次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
・“エンジン冷却水高温”（→P.234）
・“AT オイル高温”（→P.91）
・“AdBlue が低下 2400km 以内に補充必要”（→P.186）
・“あと 800km で再始動不可 AdBlue 補充必要”（→P.186）
・“エンジン再始動不可 AdBlue 補充必要”（→P.186）
・“DPF 再生不十分”（→P.149）

●次のメッセージが表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
・“エンジン油圧不足”
・“充電システム故障”

●“燃料フィルタに水がたまっています”のメッセージが表示されたとき

燃料フィルタ内に規定レベル以上の水がたまっています。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

■“エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください”が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■“DPF 再生不十分 取扱書を確認し手動再生を実施ください”が表示されたとき

排出ガス浄化装置に捕集したススの燃焼処理が必要です。（→P.149）

■“DPF 再生中”が表示されたとき

排出ガス浄化装置に捕集したススの燃焼処理が自動で行われています。（→P.149）

■前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→P.111, 215）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）
●LDA（レーンディパーチャーアラート）
●AHB（オートマチックハイビーム）
●RSA（ロードサインアシスト）
●先行車発進告知機能

■レーダーの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→P.111, 215）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）
●LDA（レーンディパーチャーアラート）
●先行車発進告知機能

■“アクセルを戻してください”が表示されたときは

次の機能が作動したときに表示されます。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

●ドライブスタートコントロール（→P.86）

⚠ 警告

■警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■エンジンオイル量に関する警告が表示されたとき

エンジンオイルが不足した状態で走行を続けると、エンジンの損傷につながります。

■“燃料フィルタに水がたまっています 取扱書を確認してください” が表示されたとき

警告メッセージが表示されたまま走行しないでください。燃料フィルタ内に水がたまった状態で走行を続けると、燃料噴射ポンプの損傷につながります。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P.189 を参照してください）

⚠警告

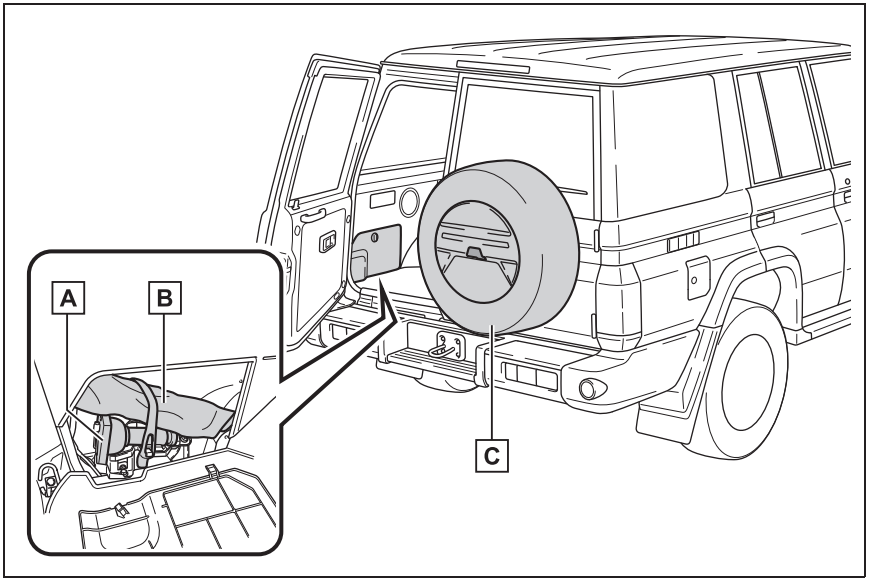
■タイヤがパンクしたとき

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P.205）

スペアタイヤ・工具・ジャッキの位置

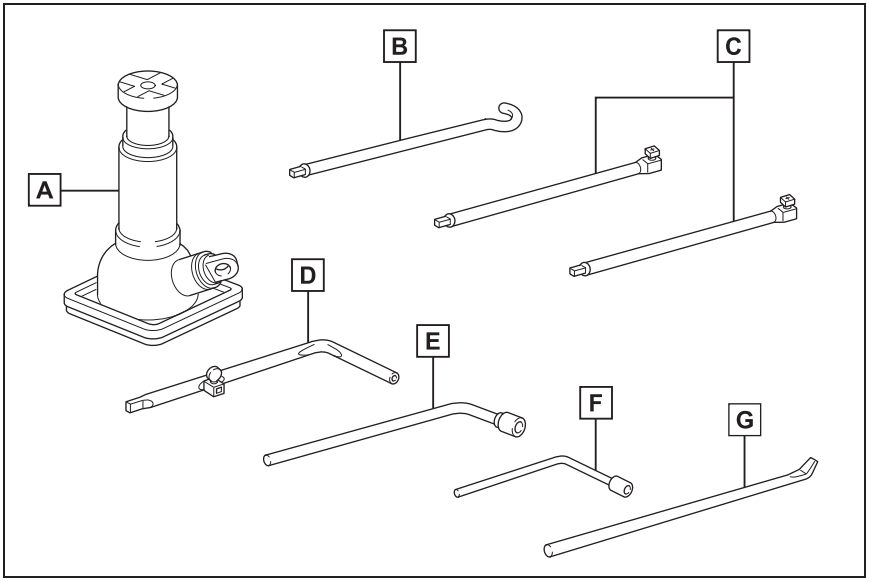


A ジャッキ

B 工具袋

C スペアタイヤ

工具



A ジャッキ

B ジャッキハンドルバー

C ジャッキハンドル延長バー２本

D ジャッキハンドル

E ホイールナットレンチ

F レンチ

G ホイールキャップレンチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

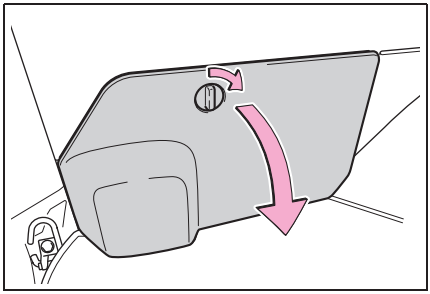
車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

■ジャッキハンドルを使用するときは

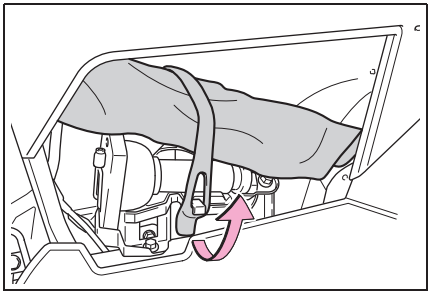
ジャッキハンドルが不意に分解しないように、ジャッキハンドルを組み付けたあと、ホイールナットレンチの穴部を使いネジ部を確実に締め付けてください。

ジャッキおよび工具袋を取り出すには

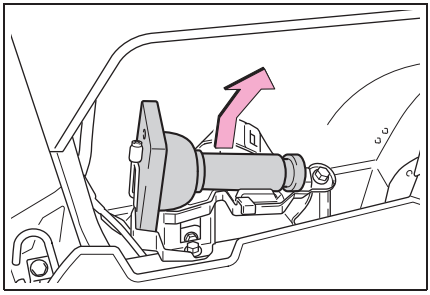
1 カバーを取りはずす



2 固定バンドをはずして工具袋を取り出す

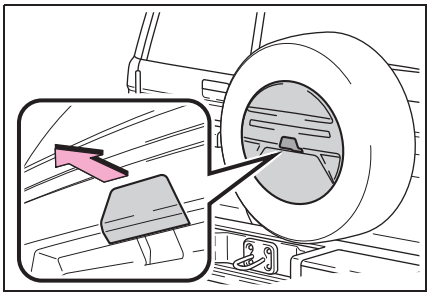


3 ジャッキを取りはずす

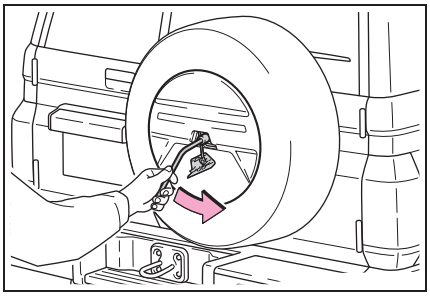


スペアタイヤを取り出すには

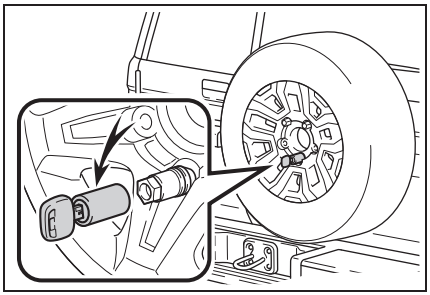
1 ボルトカバーを取りはずす



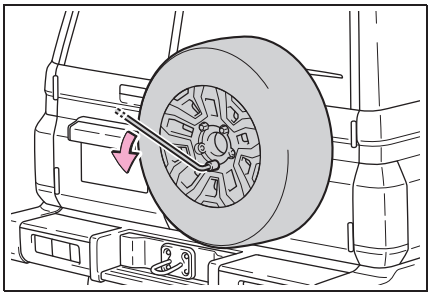
2 レンチを使用してスペアホイールカバーのボルトを取りはずし（→P.223）、スペアホイールカバーを取りはずす



3 キーをナットカバーに差し込んではずす

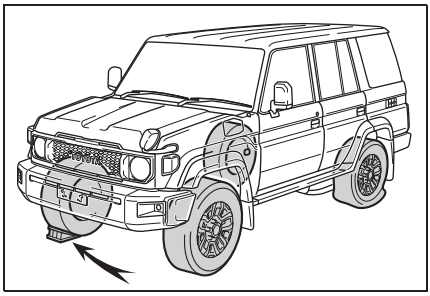


4 ホイールナットレンチでナット（3個）をはずしてスペアタイヤを取りはずす



パンクしたタイヤを交換するには

1 輪止め※をする



パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左前輪	右側後輪うしろ
右前輪	左側後輪うしろ
左後輪	右側前輪前
右後輪	左側前輪前

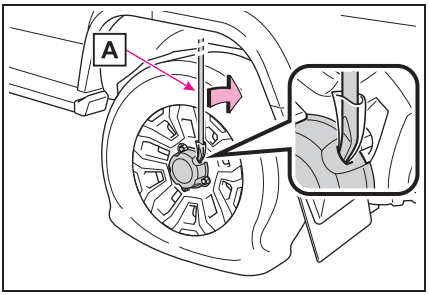
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

2 センターオーナメントをはずす

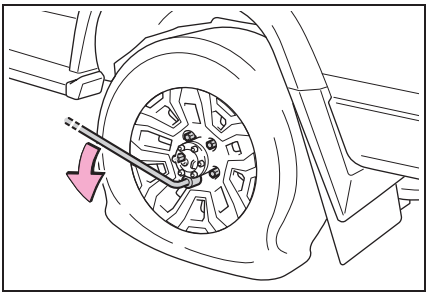
ホイールキャップレンチ**A**の先端を図のように挿し込んで、センターオーナメントをはずします。

傷が付くのを防ぐため、図のように布な

どを巻いて保護してください。

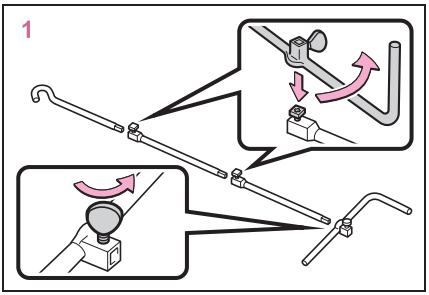


3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

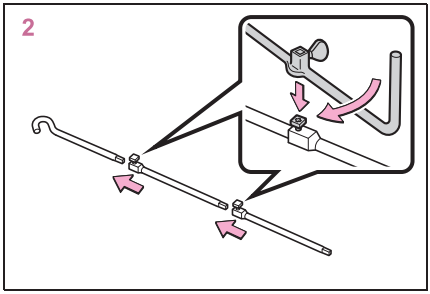


4 ジャッキハンドルを組み付ける

ジャッキハンドル・ジャッキハンドル延長バー・ジャッキハンドルバーを取り出し、図のように組み付けます。

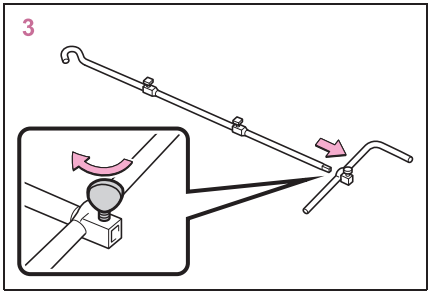


1 ボルト（2本）・ネジ部（1ヶ所）をジャッキハンドルを使用してゆるめる



2 ジャッキハンドル延長バーとジャッキハンドルバーを組み付け、ボルト（2 本）を締め付ける

ボルトがしっかりと固定されていることを確認します。



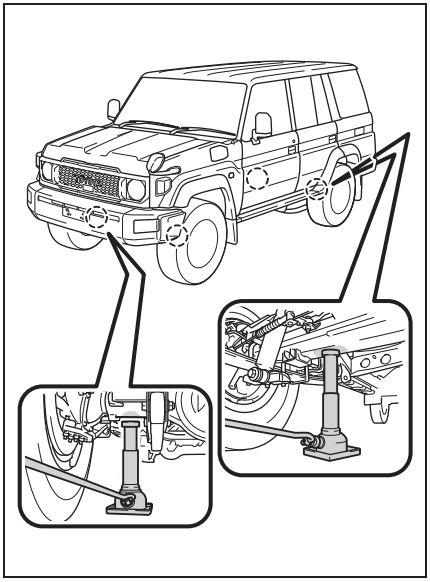
3 ジャッキハンドル延長バーとジャッキハンドルを組み付け、ネジ部（1ヶ所）を締め付ける

ネジ部がしっかりと固定されていることを確認します。

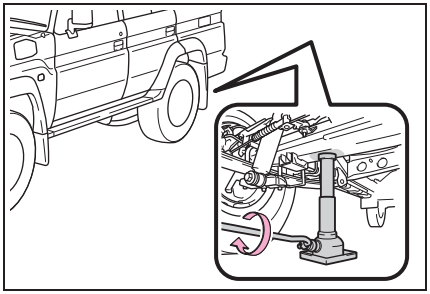
5 組み付けたジャッキハンドルをジャッキの穴部に挿し込み、ジャッキセット位置にジャッキをかける

ジャッキセット位置：

フロント	フロントアクスルハウジング下
リヤ	リヤアクスルハウジング下

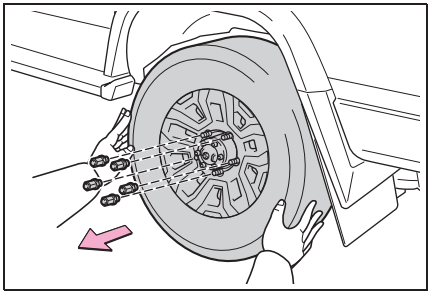


6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



⚠警告

■タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

・ スペアタイヤは、ジャッキアップする前に格納具から取り外しておく

・ センターオーナメントは直接手をかけて取らない

取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。

⚠ 警告

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

・タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。
締め付けトルク：131N・m（1336kgf・cm）

・タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。
お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

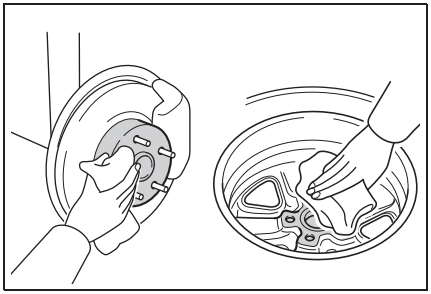
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける

スペアタイヤを取り付けるには

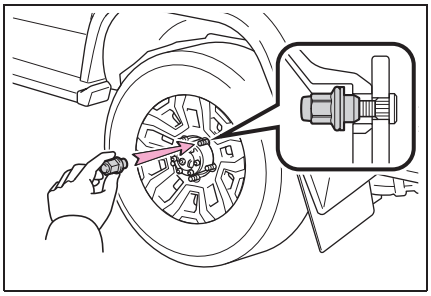
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

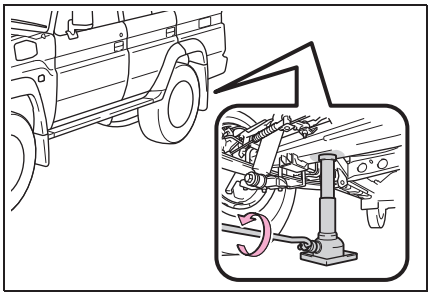


2 スペアタイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金がホイールにあたるまでまわします。

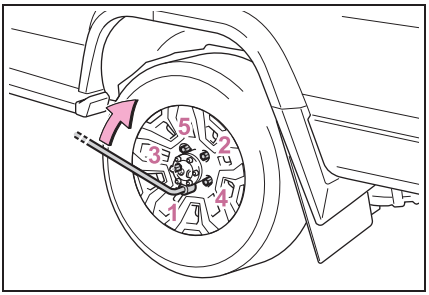


3 車体を下げる



4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
131N・m（1336kgf・cm）



5 センターオーナメントを取り付ける

はずしたタイヤからセンターオーナメントを取りはずして、交換したタイヤに取り付けます。

パンクしたタイヤ・ジャッキ・工具の収納

1 タイヤをバックドア背面に取り付ける
2 ナットを回してタイヤを固定する

必要に応じナットカバーを取り付け再度施錠をしてください

3 取りはずしたときと逆の手順でホイールカバーを取り付ける
4 工具・ジャッキを収納する

知識

■スペアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。
（→P.189）

⚠警告

■パンクしたタイヤを収納するときは

正しい手順をお守りいただかないと、格納具の損傷やタイヤの落下により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

■走行するときは

タイヤキャリアからタイヤを外した状態での走行は、タイヤキャリアが直接歩行者に接触する可能性があり危険です。必ずタイヤキャリアにタイヤとスペアホイールカバーを搭載して走行してください。

⚠注意

■スペアタイヤを格納するときは

- タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。
- タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P.89）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P.89）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.43）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.231）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.231）
- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

バッテリーがあがったときは

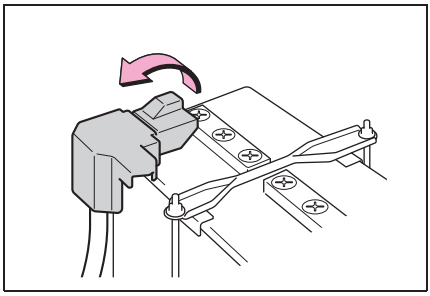
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

エンジンを再始動するには

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

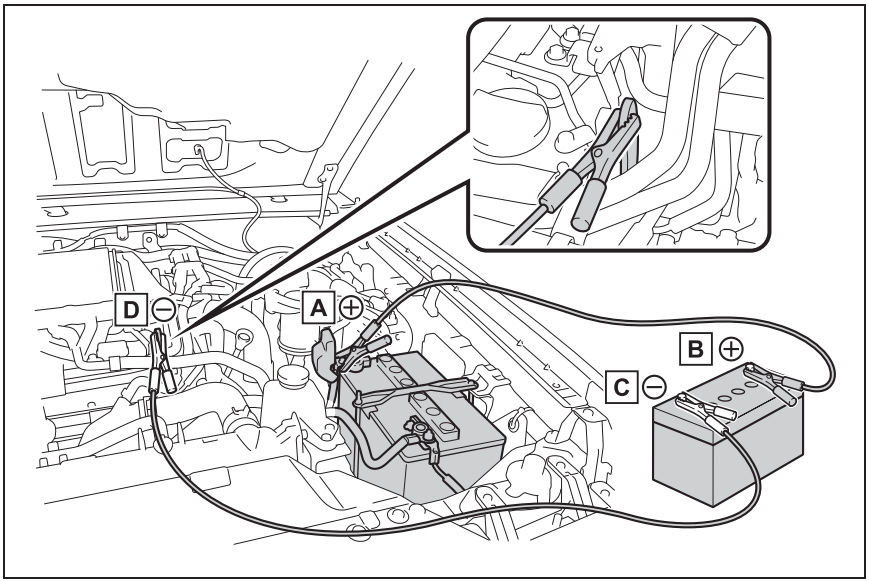
1 ボンネットを開ける（→P.183）

2 バッテリーの＋端子のカバーを開ける



3 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子[A]につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子[B]につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子[C]につなぎ、もう一方の端を金属部[D]につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



[A] バッテリーの＋端子（自車）

[B] バッテリーの＋端子（救援車）

[C] バッテリーの－端子（救援車）

[D] 図に示す金属部

4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約５分間自車のバッテリーを充電する

5 救援車のエンジン回転を維持したまま、自車のエンジンをかける

6 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ブースターケーブルをはずした後は、バッテリー＋端子のカバーをもとに戻してください。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンが停止しているときは、ランプやエアコン、オーディオなどの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがってしまったとき

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリー端子をはずすとき

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

⚠警告

■バッテリー端子をはずすとき

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない

●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする

●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない

●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

⚠ 警告

- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

■ バッテリーを交換するときは

バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

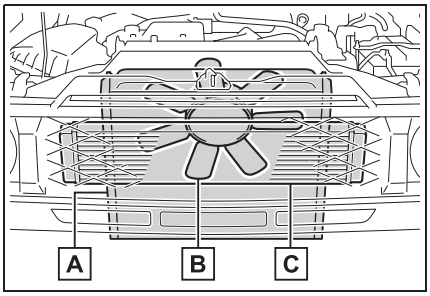
次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→P.49）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジンの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処するには

1. 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する
2. 蒸気が出ている場合：
   蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
   蒸気が出ていない場合：
   注意してボンネットを開ける
3. エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）

やホースなどからの冷却水もれを点検する



A エンジンラジエーター

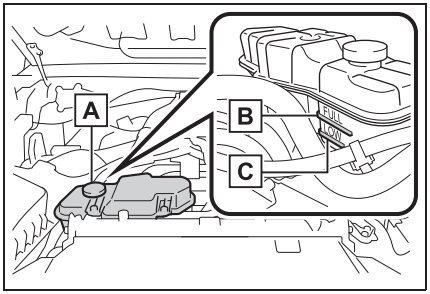
B ファン

C インタークーラーラジエーター

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

▶ エンジン

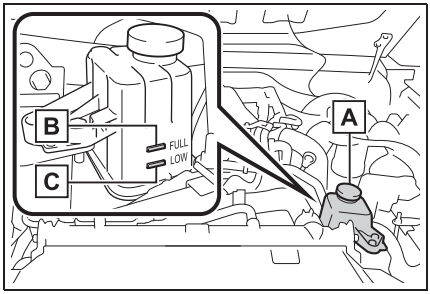


A リザーバータンク

B “FULL”（上限）

C “LOW”（下限）

▶ インタークーラー



A リザーバータンク

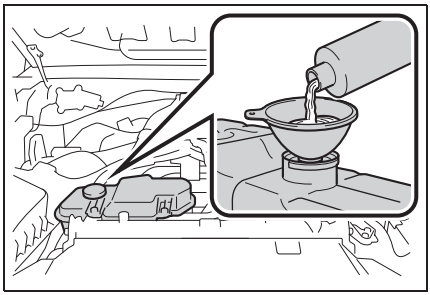
B “FULL”（上限）

C “LOW”（下限）

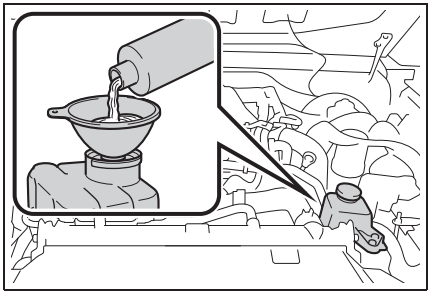
5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→P.241）

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

▶ エンジン



▶ インタークーラー



6 エンジンを始動し、ラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

8 マルチインフォメーションディスプレイの “エンジン冷却水高温” 表示を確認する

表示が消えていない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡してください。
表示が消えている場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ボンネット（→P.183）の注意事項も併せてお読みください。

- エンジンおよびエンジンラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

脱出するには

1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、エンジンを停止する

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

2 後輪周辺の土や雪などを取り除く

3 後輪の下に木や石などをあてがう

4 エンジンを再始動する

5 シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

脱出しにくいときは、次の機能を使用または OFF にすると脱出が容易になる場合があります。スタックの状況に合わせて参考にしてください。

- TRC/ アクティブ TRC を OFF にする（→P.152）
- 4WD システムを使用する（→P.141）
- デフロックを使用する （→P.145）
- リヤデフロックを使用する（→P.145）

⚠警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

スタックから脱出後はアンダー部品の損傷有無を確認してください。
各部品の変形や損傷があるまま走行すると、思わぬ事故や故障につながるおそれがあり危険です。異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。
- スタックから脱出する際にオートマチックトランスミッションの油温に関する警告メッセージが表示されたときは、ただちにアクセルペダルから足を離して警告メッセージが表示されなくなるまで待ってください。トランスミッションが故障するおそれがあります。（→P.218）

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 240
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能..... 245
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目..... 248

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
超低硫黄軽油（S10ppm 以下）	130

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル C5 0W-20 —ACEA C5, SAE 0W-20 適合： トヨタ純正モーターオイル DL-1 0W-30 —JASO DL-1, SAE 0W-30 トヨタ純正モーターオイル DL-1 5W-30 —JASO DL-1, SAE 5W-30	7.8	8.2

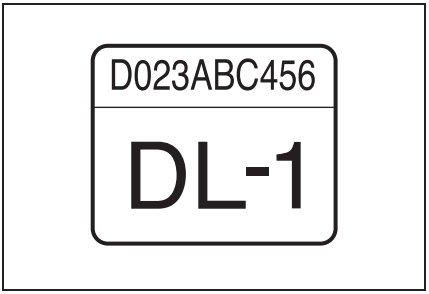
※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

ACEA 規格 C5 に合致したオイルをご使用ください。

0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。

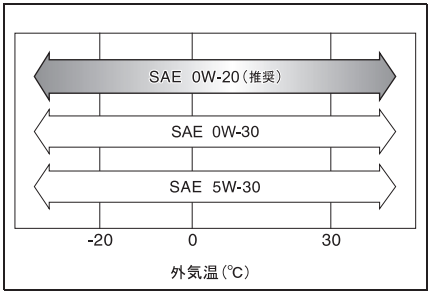
0W-20 が入手困難な場合は、JASO DL-1 0W-30、5W-30 もご使用いただけます。
なお、JASO 規格合格油の缶には JASO DL-1 マークがついています。



JASO DL-1 マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
	エンジン	インタークーラー
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12 ℃ 濃度 50%　－ 35 ℃	11.1	2.0

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※）
トヨタ純正オートフルード WS	10.6

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

注意

■オートマチックトランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ディファレンシャル

指定銘柄（推奨粘度）	項目	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギアオイル LT（API GL-5 SAE 75W-85）	フロント	2.9
	リヤ	2.3

注意

■ディファレンシャルフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

トランスファー

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ (API GL-3 SAE 75W-90) 1.5	1.5

パワーステアリング

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正パワーステアリングフルード	1.3

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	136 以上

※ エンジン回転時に 300N（31kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値です。

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 [回数]
引きしろ操作力 200N（20kgf）のときのノッチ数 ※	7 ～ 9

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）	フロント	3.0
	リヤ	1.5

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
265/70R16 112S	16 × 7J	240（2.4）	240（2.4）

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク［N・m（kgf・cm）］
131（1336）

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	5
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	制動灯／尾灯	21/5
	後退灯	21
	番号灯	5
車内	フロントルームランプ	5
	リヤルームランプ	10

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
GDJ76W	1 GD-FTV（2.8L ディーゼル）	4WD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディアディスプレイ・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

設定を変更するには

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 メーター操作スイッチで⚙を選択し、⊙を押してカスタマイズモード画面を表示する

2 メーター操作スイッチで変更する項目を選択し、⊙を押す

3 メーター操作スイッチで設定したい項目を選択し、⊙を押す

前の画面にもどす、または設定を終了する場合は、⮌を押します。

知識

■カスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態で操作を行ってください。

⚠警告

■カスタマイズ設定を行うとき

エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■カスタマイズ設定を行うとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

A マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

B トヨタ販売店で設定変更可能

■ メーター・マルチインフォメーションディスプレイ（→P.49, 52）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
言語	日本語	英語	○	—
単位	km/L	L/100km	○	—
カラー	カラー1	カラー2～4	○	—
周囲の明るさにより、メーターの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	0	-2 ～ +2	—	○
周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節	0	-2 ～ +2	—	○

■ ワイヤレスドアロック（→P.58）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
ワイヤレス機能	あり	なし	—	○
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	○
		120 秒		

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.97）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
ライトセンサーの感度調整（コンライト感度調整）	-2	-1 ～ 2	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	いずれかのドアを開ける	エンジンスイッチを OFF にする	—	○

■ LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.122）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
警報ブザーが吹鳴する感度（警報感度）	高い／普通	○	—
ふらつき検知機能	有／無	○	—
ふらつき検知機能の感度調整	高い／普通／低い	○	—

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.113）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
PCS（プリクラッシュセーフティ）機能※	あり／なし	○	—
警報感度	早い／中間／遅い	○	—

※ エンジンスイッチを ON にすると設定を「なし」にしても「あり」に戻ります。

■ RSA（ロードサインアシスト）（→P.136）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
RSA（ロードサインアシスト）機能	あり／なし	○	—
制限速度超過告知	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	○	—
制限速度超過の告知車速	2 km/h ／ 5 km/h ／ 10km/h	○	—
追い越し禁止告知	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	○	—
その他の告知（進入禁止告知）	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	○	—

■ 先行車発進告知機能（→P.139）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
先行車発進告知機能	あり／なし	○	—
告知距離	近い ／ 中間 ／ 遠い	○	—

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワーウインドウ	正常に働かなかないとき	P.75

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
..... 250
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 252
アルファベット順さくいん..... 253
五十音順さくいん 254

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- キーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーを作ることができます。（→P.231）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.61）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない

- シフトレバーは P になっていますか？（→P.89）
- ステアリングロックされていませんか？（→P.89）
- バッテリーがあがっていませんか？（→P.231）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- エンジンスイッチの位置が ”ON” になっていますか？
- エンジンスイッチの位置が ”ON” でブレーキを踏んでも解除できないとき（→P.92）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、キーをエンジンスイッチから抜くとロックされます。（→P.89）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.75）

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.213、218をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● 車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→P.222）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.237）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	シフトレバーがP以外になっている	P.218

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P.60
	パーキングブレーキが解除されていない	P.216
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない	P.216
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.93
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.83
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.113
車線から逸脱しそうになったとき	LDA（レーンディパーチャーアラートを使用している	P.124
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.137
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）.....162
ABS
（アンチロックブレーキシステム）.....152
AdBlue®
（アドブルー）.....185, 216
AHB
（オートマチックハイビーム）..100
DAC
（ダウンヒルアシストコントロール）.....146
DPF
（ディーゼルパティキュレートフィルタ）.....148
EDR
（イベントデータレコーダー）.....6
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）.....31
LDA
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....122
LED
（ライトエミッティングダイオード）.....198
PCS
（プリクラッシュセーフティ）..113
PWR/HAUL
（パワーホール）.....93
RSA
（ロードサインアシスト）.....136
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）.....25
Toyota Safety Sense
AHB（オートマチックハイビーム）.....100
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....113
RSA（ロードサインアシスト）136
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....122
先行車発進告知機能.....139
TRC
（トラクションコントロール）152, 237
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）.....152

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）.....231
アウターミラー（ドアミラー）
格納のしかた.....74
操作.....73
アクセサリーソケット.....175
アクセサリコネクタ.....156
AdBlue®.....54, 185
AdBlue® 残量警告灯.....186
残量警告灯.....216
補充.....185
容量.....187
アラーム
音さくいん.....252
警告ブザー.....213, 218
アンチロックブレーキシステム（ABS）.....152
アンテナ.....157

い

イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）.....89
エンジンのかけ方.....89
車両を緊急停止するには.....206
モード切りかえ.....89
位置交換（タイヤローテーション）.190
イベントデータレコーダー（EDR）.....6
イモビライザーシステム.....43
インジケーター（表示灯）.....47
インテリアランプ.....167
ワット数.....244
インナーミラー.....72

う

ウインカー（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換.....198
方向指示レバー.....94
ワット数.....244
ウインドウ
ウォッシャー.....103, 104
パワーウインドウ.....75
リヤウインドウデフォッガー.....163
ウインドウロックスイッチ.....75
ウォーニングランプ（警告灯）.46, 213
ウォッシャー
液の補充.....188
スイッチ.....103, 104
タンク容量.....243
冬の前の準備・点検.....158
動けなくなったときは（スタック）.237
運転
雨の日の運転.....80
運転を補助する装置.....152
寒冷時の運転.....158
正しい運転姿勢.....21
手順.....80
運転席シートベルト非着用警告灯...216

え

エアコン.....162
エアコン.....162
曇り取り（フロントガラス）.....163
曇り取り（リヤウインドウ）.....163
パワーヒーター.....162
PTC ヒーター.....162
フィルターの清掃.....192
エアコン・デフォッガー.....163
エアバッグ
SRS エアバッグ警告灯.....214
改造・廃棄.....28

作動条件 25
正しい姿勢 21
配置 25
LED デイタイムランニングランプ 98
エンジン
エンジンイモビライザーシステム 43
エンジンが始動できない 230
エンジン警告灯 214
エンジンスイッチ（イグニッション） 89
エンジンの始動方法 89
エンジンを停止する前に 81
オーバーヒート 234
緊急時の停止方法 206
タコメーター 49
ボンネット 183
エンジンオイル
冬の前の準備・点検 158
メンテナンスデータ 240
油圧警告灯 213
容量 240
エンジン回転計（タコメーター） 49
エンジンスイッチ（イグニッションスイッチ） 89
車両を緊急停止するには 206
モード切りかえ 89
エンジンフード（ボンネット）
開け方 183
エンジンルーム
エンジンルームから蒸気が出ている ... 234

お

オイル（エンジンオイル） 240
オートマチックトランスミッション ..91
オートマチックトランスミッションパーキング警告灯 217
オートマチックハイビーム（AHB） 100
オーバーヒート 234
オープナー
給油扉 107
バックドア 63
ボンネット 183
お子さまを乗せるとき
ウインドウロックスイッチ 75
お子さまの安全のために 30
シートベルトの着用 24
チャイルドシート 31
チャイルドシートの取り付け 31
チャイルドプロテクター 61
発炎筒の取り扱いに関する警告 206
バックドアに関する警告 62
バッテリーに関する警告 233
パワーウインドウに関する警告 75
オドメーター
表示項目 49
オドメーター／トリップメーターディスプレイ 51
表示切りかえボタン 51
表示項目 51

か

カーペット
洗浄 181
フロアマットの取り付け方 20
外気温度表示 49
外装の電球（バルブ）
交換要領 198
ワット数 244
カスタマイズ機能 245
型式 244
カメラ
前方カメラ 108
ガラスの曇り取り
フロントウインドウガラス 163
リヤウインドウガラス 163

冠水路走行 85
寒冷時の運転 158

き

キー
エンジンが始動できない 230
キーナンバープレート 58
キーの構成 58
キーをなくした 231
電池が切れた 194
ワイヤレスリモコン 58
きしみやひっかき音が聞こえる（ブレーキパッドウェアインジケーター） 83
給油
給油のしかた 106
メンテナンスデータ 240
緊急時シートベルト固定機構 24
緊急時の対処
エンジンが始動できない 230
オーバーヒートした 234
キーの電池が切れた 194
キーをなくした 231
警告灯がついた 213
警告メッセージが表示された 218
けん引 209
故障したときは 204
車中泊が必要な時は 208
車両を緊急停止する 206
水没・冠水したときは 207
スタックした 237
発炎筒 205
バッテリーがあがった 231
パンクした 222

く

空気圧（タイヤ）
メンテナンスデータ 243
区間距離計（トリップメーター）
表示項目 49
曇り取り
フロントガラス 163
リヤウインドウデフォッガー 163
クラクション（ホーン） 71
クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ 97
電球（バルブ）の交換 198
クリップ
フロアマット 20
クルーズコントロール
定速クルーズコントロール 127
グローブボックス 170

け

警音器（ホーン） 71
計器類（メーター）
マルチインフォメーションディスプレイ 52
メーター 49
警告灯 46
ABS &ブレーキアシスト 214
LDA 表示灯 215
PCS 215
SRS エアバッグ 214
AdBlue® 残量 216
エンジン 214
オートマチックトランスミッションパーキング 217
高水温 214
シートベルト非着用 216
充電 213
スリップ表示灯 215
燃料残量 216
パーキングブレーキ表示灯 216
半ドア 217
ブレーキ 213

フロントデフロック作動表示灯.....215
ペダル誤操作警告灯.....217
油圧.....213
リヤデフロック作動表示灯.....216
警告ブザー
LDA.....215
PCS.....215
高水温.....214
シートベルト非着用.....216
車線逸脱警報.....124
充電.....213
衝突警報.....113
パーキングブレーキ未解除走行時.....95
ブレーキ.....213
ペダル誤操作警告灯.....217
油圧.....213
警告メッセージ.....218
警告メッセージ表示画面.....54
けん引
けん引のしかた.....209

こ

交換
キーの電池.....194
スペアタイヤ.....222
電球（バルブ）.....198
ヒューズ.....196
工具（ツール）.....222
航続可能距離.....54
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換.....198
コーナリングランプ
電球（バルブ）の交換.....198
子供専用シート
取り付け方.....32
コンソールボックス.....170
コンライト（自動点灯・消灯装置）.....97

さ

サイド方向指示灯
電球（バルブ）の交換.....198
方向指示レバー.....94
サイドミラー（ドアミラー）
格納のしかた.....74
操作.....73
三角表示板（停止表示板）.....204
サンバイザー.....174

し

シート
正しい運転姿勢.....21
チャイルドシート.....31
調整.....65, 66
手入れ.....181
ヘッドレスト.....69
シートベルト
お子さまの着用.....23, 24
緊急時シートベルト固定機構.....24
正しく着用するには.....24
着け方・はずし方.....24
手入れ.....181
妊娠中の方の着用.....23
非着用警告灯.....216
シートベルト非着用警告灯.....216
室内灯（インテリアランプ）.....167
始動後走行距離.....54
始動のしかた.....89
シフトポジション.....91
シフトレバー
シフトポジションの切りかえ.....91
シフトロックシステム（解除ボタン）.....92
操作.....91
シフトレバーがシフトできないときは.....91
シフトロックシステム.....92

車速表示.....54
ジャッキ
車載ジャッキ.....222
ジャッキハンドル.....222
車幅灯
電球（バルブ）の交換.....198
ランプスイッチ.....97
車両型式.....244
車両仕様（スペック）.....240
車両情報表示画面.....54
車両データの記録.....6
車両を緊急停止するには.....206
充電用 USB 端子.....174
収納装備.....169
仕様（車両仕様）.....244
初期設定.....248
助手席シートベルト非着用警告灯...216

す

水温計.....49
スイッチ
AHB（オートマチックハイビーム）....100
2nd スタート.....93
DAC.....146
LDA.....125
PWR/HAUL.....93
TRC OFF.....152
VSC OFF.....152
アイドルアップ.....163
イグニッション.....89
ウインドウロック.....75
ウォッシャー.....103, 104
エンジン.....89
シート調整.....65
定速クルーズコントロール.....127
ドアミラー.....73
ドアロック.....61
パーキングブレーキ.....95
排出ガス浄化装置.....149
ハザードランプ.....205
バックドアオープン.....63
パワーウインドウ.....75
パワーヒーター.....164
ハンドルの位置調整.....71
非常点滅灯（ハザードランプ）.....205
表示切りかえ.....51
フォグランプ.....102
方向指示レバー.....94
ホーン（警音器）.....71
メーター操作.....53
ランプ.....97
リヤウインドウデフォッガー.....163
ワイパー.....103, 104
スタック.....237
ステアリングホイール（ハンドル）
位置調整.....71
メーター操作スイッチ.....53
ステアリングロック.....90
ステップバンパー.....87
ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換.....198
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....158
スピードメーター.....49
スペアタイヤ
空気圧.....189, 243
交換方法.....222
スペアホイールカバー.....222
スペック（車両仕様）.....240
スモールランプ（車幅灯）
電球（バルブ）の交換.....198
ランプスイッチ.....97
スリップ表示灯.....152

せ

清掃
外装.....178

シートベルト....181
内装....181
ホイール・ホイールキャップ....178
レーダーセンサー....108
制動灯
電球（バルブ）の交換....198
セカンドシート
ヘッドレスト....69
積算距離計（オドメーター）
表示項目....49
セキュリティインジケーター....43
設定画面....54
先行車発進告知機能....139
センサー
LDA....122
ライトセンサー....98
レーダーセンサー....108
洗車....178
前照灯（ヘッドランプ）
電球（バルブ）の交換....198
ライトセンサー....98
ランプ消し忘れ防止機能....98
ランプスイッチ....97

そ

走行距離....53
走行支援機能情報表示画面....54
走行時間....53
速度計（スピードメーター）....49

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換....198
方向指示レバー....94
ワット数....244
タイヤ
応急用タイヤ....222
空気圧....191, 243
交換....190, 222
スペアホイールカバー....222
チェーン....158
点検....189
パンクしたときは....222
冬用タイヤ....158
ホイールサイズ....243
ローテーション（位置交換）....190
タイヤが空まわりする（スタックした）....237
タイヤチェーン....158
ダウンヒルアシストコントロールシステム....146
タコメーター....49

ち

チェーン（タイヤチェーン）....158
チャイルドシート
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け40
シートベルトでの固定....38
助手席にチャイルドシートを取り付けるとき....32
選択方法....31
トップテザーアンカレッジ....41
チャイルドプロテクター....61
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）
警告灯....216
操作....95
冬季の注意....160
パーキングブレーキ表示灯....216
未解除走行時警告ブザー....95

つ

ツール（工具）....222

て

ディスプレイ
マルチインフォメーションディスプレイ 52
定速クルーズコントロール 127
ディファレンシャル 242
手入れ
外装 178
シートベルト 181
内装 181
ホイール・ホイールキャップ 178
レーダーセンサー 108
テールランプ（尾灯）
電球（バルブ）の交換 198
ランプスイッチ 97
デッキフック 173
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー） 163
デフロック 145
電圧計 49
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ） 198
ワット数 244
点検基準値（メンテナンスデータ） 240
電池交換（リモコン） 194

と

ドア 60
チャイルドプロテクター 61
ドアガラス 75
ドアロックスイッチ 61
バックドア 62
ロックボタン 61
ワイヤレスリモコン 60
ドアミラー
格納のしかた 74
操作 73
盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 43
時計 174
トップテザーアンカレッジ 41
ドライブスタートコントロール 80
急発進の抑制制御 80
トラクションコントロール（TRC） 152
トランスミッション
シフトダウン制限警告ブザー 93
操作 91
メンテナンスデータ 241
トリップメーター
表示項目 49

な

内装
収納装備 169
手入れ 181

に

荷物
積むときの注意 86
デッキフック 173
荷室内装備 173

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック） 237

ね

燃料
給油 106
種類 240
冬季の注意 158
燃料残量警告灯 216
容量 240
燃料計 49

は

パーキングブレーキ
操作 95
冬季の注意 160
パーキングブレーキ表示灯 216
未解除走行時警告ブザー 95
パーソナルランプ
ワット数 244
排気ガス 28
排出ガス浄化装置（DPF） 148
排出ガス浄化装置堆積モニター 149
ハイビーム（ヘッドランプ）
AHB（オートマチックハイビーム） 100
電球（バルブ）の交換 198
ランプスイッチ 97
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換 198
ハザードランプ（非常点滅灯）
スイッチ 205
電球（バルブ）の交換 198
ワット数 244
発炎筒 205
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換 198
バックドア 62
オープンスイッチ 63
バックドアハンドル 64
バックモニター 130
画面の見方について 130
故障とお考えになる前に 133
バックモニター画面表示条件について 130
バックモニターについて 130
バッテリー
警告灯 213
バッテリーがあがった 231
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ） 198
ワット数 244
パワーウインドウ
ウインドウロックスイッチ 75
操作 75
パンクした
スペアタイヤ装着車 222
番号灯（ライセンスプレートランプ）
電球（バルブ）の交換 198
ランプスイッチ 97
ハンドル（ステアリングホイール）
位置調整 71
メーター操作スイッチ 53

ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC） 152
ヒーター
エアコン 162
リヤヒーター 166
非常点滅灯（ハザードランプ）
スイッチ 205
電球（バルブ）の交換 198
ワット数 244
尾灯（テールランプ）
電球（バルブ）の交換 198
ランプスイッチ 97
ヒューズ 196
表示切りかえボタン 51
表示灯 47
日よけ（サンバイザー） 174
ヒルスタートアシストコントロール 152

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方 231
フォグランプ
スイッチ 102
電球（バルブ）の交換 198

ブザー
PCS 215
音さくいん 252
高水温 214
シートベルト非着用警告 216
車線逸脱警報 124
充電 213
衝突警報 113
パーキングブレーキ未解除走行時警告 ..95
ブレーキ 213
油圧 213
フック
デッキフック 173
フロアマット固定フック 20
フューエルメーター（燃料計） 49
フューエルリッド（給油口）
給油のしかた 106
冬の前の準備（寒冷時の運転） 158
冬用タイヤ 158
プリクラッシュセーフティ（PCS）
PCS 警告灯 215
PCS スイッチ 115
機能 113
ブレーキ
パーキングブレーキ 95
メンテナンスデータ 242
ブレーキアシスト 152
ABS &ブレーキアシスト警告灯 214
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる 83
ブレーキフルード 242
フロアマット 20
フロントシート
正しい運転姿勢 21
調整 65
手入れ 181
ヘッドレスト 69
フロントフォグランプ
スイッチ 102
電球（バルブ）の交換 198
フロント方向指示灯
電球（バルブ）の交換 198
方向指示レバー 94

へ

平均車速 53
平均燃費 53
ヘッドランプ
電球（バルブ）の交換 198
ライトセンサー 98
ランプ消し忘れ防止機能 98
ランプスイッチ 97
ヘッドレスト 69

ほ

ホイール
交換（タイヤ） 222
スペアホイールカバー 222
メンテナンスデータ 243
ホイールナットレンチ 223
方向指示灯
電球（バルブ）の交換 198
方向指示レバー 94
ワット数 244
ホーン（警音器） 71
保証 7
補助確認装置 74
ボトルホルダー 172
ボンネット（エンジンフード）
開け方 183

ま

マルチインフォメーションディスプレイ 52
警告メッセージ 218
航続可能距離 54
始動後走行距離 54
車速表示 54
車両情報表示 54
設定 54
走行支援機能情報表示 54
ドライブインフォメーション 53
ブランク表示 54
メーター操作スイッチ 53
メニューアイコン 52

み

ミラー
インナーミラー 72
ドアミラー 73
補助確認装置 74

め

メーター
メーター操作スイッチ 53
メーター（計器類）
警告灯 46, 213
警告メッセージ 218
表示灯 47
マルチインフォメーションディスプレイ 52
メーター照度調整 51
メニューアイコン 52
メンテナンスデータ 240

ゆ

油圧計 49
ユーザーカスタマイズ機能 245
雪道ですべって動けない（スタックした） 237
油脂類 240

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
電球（バルブ）の交換 198
ランプスイッチ 97
ラゲージルーム 173
ラジエーター
オーバーヒート 234
メンテナンスデータ 241
ランプ
インテリアランプ 167
AHB（オートマチックハイビーム） 100
室内灯 167
電球（バルブ）の交換 198
非常点滅灯（ハザードランプ） 205
フロントフォグランプ 102
ヘッドランプ（前照灯） 97
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー） 94
ライトセンサー 98
ランプ消し忘れ防止機能 98
ワット数 244
ランプ消し忘れ防止機能 98

り

リヤウインドウデフォッガースイッチ 163
リヤクオーターガラス
操作 77
リヤシート 66
調整 66
リヤヒーター 166

リヤ方向指示灯
電球（バルブ）の交換 198
方向指示レバー 94
ワット数 244

る

ルームミラー（インナーミラー） 72

れ

冷却水
冬の前の準備 158
メンテナンスデータ 241
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート 234
メンテナンスデータ 241
レーンディパーチャーアラート（LDA） 122
警告メッセージ 126
操作 125
レバー
トランスファー 141
レバー
シート調整 66
シフト 91
ハンドル位置調整 71
方向指示 94
ボンネット解除 183
ロック（ドア） 61

ろ

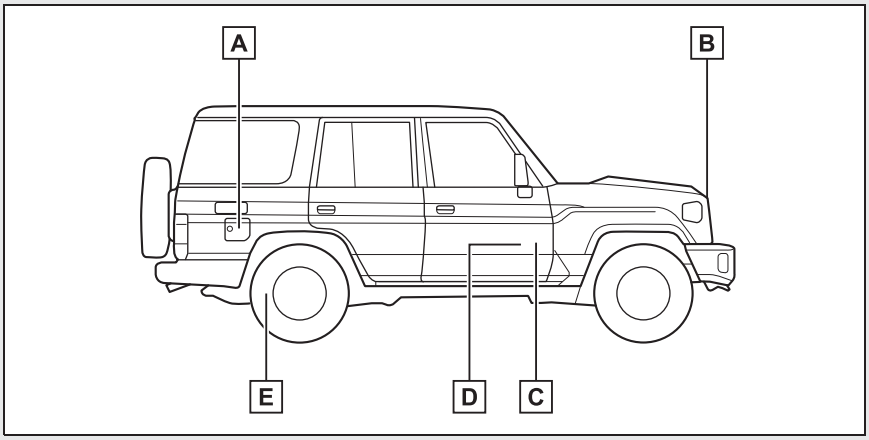
ロードサインアシスト（RSA） 136
ロック
ウインドウロック 75
チャイルドプロテクター 61
ドア 60
バックドア 62
ワイヤレスリモコン 58

わ

ワイパー & ウォッシャー
ウォッシャー液の補充 188
フロント 103
リヤ 104
ワイパーブレード（寒冷地用） 159
ワイヤレスリモコン
作動の合図 60
操作 58
電池が切れた 194
電池の交換 194
ワックス 178
ワット数 244

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



A 給油口（→P.107）

B ボンネットフック（→P.183）

C ボンネット解除レバー（→P.183）

D 給油扉オープナー（→P.106）

E タイヤ空気圧（→P.243）

燃料の容量（参考値）	130L	
燃料の種類		P.240
タイヤが冷えているときの空気圧		P.243
エンジンオイル容量（参考値）		P.240
エンジンオイルの種類		P.240

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げ
いただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索　リコール等情報

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

お電話によるお問い合わせ

全国共通・フリーコール
フリーコール 0800-700-7700

WEBページからのお問い合わせ

インターネットフォーム
によるお問い合わせ

チャットによる
お問い合わせ

手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。
「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。

●ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。

●QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp

Publication No.M60W91
Part No.01999-60W91
Printed in Japan 02-2512
ランドクルーザー“70”